

茨城県教育財団文化財調査報告第141集

主要地方道大洗友部線道路改良 工事地内埋蔵文化財調査報告書2

宮ヶ崎城跡

平成10年9月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第141集

主要地方道大洗友部線道路改良 工事地内埋蔵文化財調査報告書 2

みや が さき じょう あと
宮 ヶ 崎 城 跡

平成 10 年 9 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、県内の主要な都市間をおよそ60分で連絡する道路網の整備を目的とする「県土60分構想」の実現のため、高速道路やこれを補完する国道や主要地方道等の幹線道路網の整備をはかっております。

主要地方道大洗友部線道路改良工事は、交通体系の整備と県土の一体的な振興を図るため、計画され整備が行われているものです。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と主要地方道大洗友部線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託契約を結び、平成8年10月から翌年3月まで宮ヶ崎城跡の調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構、遺物が確認され、茨城町の歴史を解明する上に多大な成果をあげることができました。

本書は、宮ヶ崎城跡の調査成果を収録したものであります。本書が、研究の資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深めると共に、ひいては教育、文化の向上の一助として広く御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成10年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成8年10月から平成9年3月まで実施した茨城県東茨城郡茨城町大字宮ヶ崎字北宮293番地ほかに所在する宮ヶ崎城跡^{みやがさきじょうあと}の発掘調査報告書である。
- 2 宮ヶ崎城跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	中 島 弘 光	平成7年4月～	
	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～平成10年3月	
	川 俣 勝 慶	平成10年4月～	
常 務 理 事	梅 澤 秀 夫	平成8年4月～平成9年3月	
	齋 藤 紀 彦	平成9年4月～	
事 務 局 長	小 林 隆 郎	平成8年4月～平成9年3月	
	西 村 敏 一	平成9年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成10年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～
	課 長 代 理	清 水 薫	平成9年4月～平成10年3月(平成8年4月～平成9年3月係長)
	主 任 調 査 員	小 高 五 十 二	平成8年4月～平成10年3月
	主 任 調 査 員	池 田 晃 一	平成10年4月～
	主 事	川 崎 敦 司	平成10年4月～
経 理 課	課 長	河 崎 孝 典	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	佐 藤 健	平成10年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～平成9年3月
	課 長 代 理	清 水 薫	平成10年4月～
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～平成10年3月
	主 事	柳 澤 松 雄	平成8年4月～平成9年3月
	主 事	宮 本 勉	平成9年4月～
	主 事	木 下 光 保	平成10年4月～
調 査 第 一 課	課長(部長兼務)	沼 田 文 夫	平成7年4月～
	調 査 第 一 班 長	萩 野 谷 悟	平成8年10月～平成9年3月
	主 任 調 査 員	江 幡 良 夫	平成8年10月～平成9年3月調査
	主 任 調 査 員	野 田 良 直	平成8年10月～平成9年3月調査
整 理 課	課 長	川 井 正 一	平成10年4月～
	主 任 調 査 員	野 田 良 直	平成10年4月～平成10年9月整理・執筆・編集

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、鍛冶工房跡出土の鉄滓は、岩手県立博物館に分析を依頼した。また、宮ヶ崎城跡の遺構と遺物については、千葉県文化財センター南部調査事務所副所長柴田龍司氏に御教示をいただいた。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概略

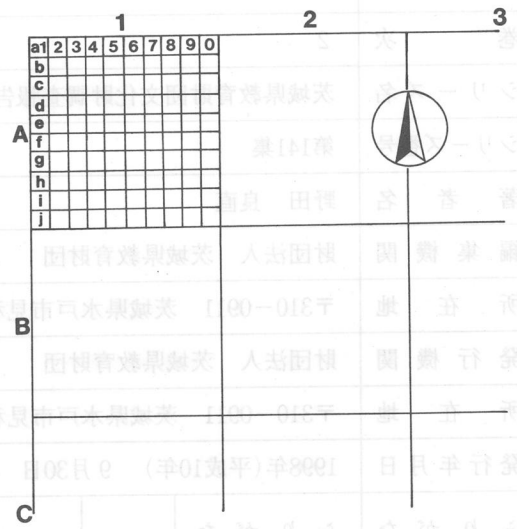
ふりがな	しゅようちほうどうおおあらいともべせんどうろかいりょうこうじちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書2							
副書名	宮ヶ崎城跡							
巻次	2							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第141集							
著者名	野田 良直							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	1998年(平成10年) 9月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
みやがさきじょうあと 宮ヶ崎城跡	いばらきけんひがし 茨城県東茨 城郡茨城町	08302	36度	140度	16m	19961001	9,840㎡	主要地方道大洗友部線道路改良工事事業に伴う事前調査
	おおあざみやが 大字宮ヶ崎	-	15分	28分	~	~		
	あざきたみや 字北宮293番 地ほか	86	44秒	50秒	21m	19960331		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宮ヶ崎城跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡	4軒	土師器, 須恵器 土玉, 管状土錘 紡錘車, 鉄滓, 金床石, 鞆羽口	古墳時代から平安時代の集落跡及び中世の城郭跡等の複合遺跡である。		
		奈良・平安	竪穴住居跡 鍛冶工房跡 土坑	11軒 1棟 1基				
	城郭跡	中世	溝 堀 土橋	2条 1条 2か所				
			その他	時期不明			溝 土坑 ピット群 不明遺構	6条 44基 1か所 3基
近世				陶磁器片, 古銭				

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、X軸=+57,800m、Y軸=+29,360mの交点を基準点 (A1a1) とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C……、西から東へ1、2、3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した(第1図)。



第1図 調査区呼称方法概念図

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

- 遺構 住居跡-SI 土坑-SK 不明遺構-SX 溝-SD ピット-P
- 遺物 土器・陶器-P 土製品-DP 石製品-Q 金属製品・古銭-M 拓本土器-TP
- 土層 攪乱-K

3 遺構、遺物、土層の実測図中の表示は、次のとおりである。

- 粘土
- 焼土
- 炉
- 黑色処理
- 土器
- 石器・石製品
- 土製品
- △ 金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は200分の1、住居跡や土坑、不明遺構は60分の1に縮尺し掲載した。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にS=1/○と表示した。
- (3) 「主軸方向」は、長径方向とし、その軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。なお、[]を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台径 E-高台高 F-つまみ径 G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測(P)番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 古墳時代の遺構	10
(1) 竪穴住居跡	10
2 奈良・平安時代の遺構	18
(1) 竪穴住居跡	18
(2) 鍛冶工房跡	45
(3) 土 坑	49
3 中世の遺構	51
(1) 堀・土橋	51
(2) 溝	59
4 時期不明遺構	62
(1) ピット群	62
(2) 土 坑	62
(3) 溝	69
(4) 不明遺構	70
5 遺構外出土遺物	76
第4節 まとめ	83
付 章	87
写真図版	

挿 図 目 次

第1図 調査区呼称方法概念図	第28図 第1号鍛冶工房跡
第2図 宮ヶ崎城跡周辺遺跡分布図 …………… 6	出土遺物実測図(2) …………… 48
第3図 宮ヶ崎城跡調査区割図 …………… 8	第29図 第12号土坑・出土遺物実測図 …………… 50
第4図 基本土層図 …………… 9	第30図 A・B・C・D・Eトレンチ配置図 …………… 52
第5図 第1号住居跡実測図 …………… 11	第31図 第1号堀A区A・Bトレンチ
第6図 第1号住居跡出土遺物実測図 …………… 12	土層断面図 …………… 53
第7図 第3号住居跡実測図 …………… 14	第32図 第1号堀C区, 第2号土橋実測図 … 54
第8図 第3号住居跡出土遺物実測図 …………… 15	第33図 第1号堀B区C・C'・D・Eトレンチ,
第9図 第7号住居跡, 出土遺物実測図 …… 16	第1号土橋土層断面図 …………… 55
第10図 第9号住居跡, 出土遺物実測図 …… 18	第34図 第1号堀B区, 第1号土橋実測図 … 59
第11図 第2号住居跡, 出土遺物実測図 …… 19	第35図 第1・10号溝実測図 …………… 60
第12図 第4号住居跡実測図 …………… 21	第36図 第1号溝出土遺物実測図 …………… 61
第13図 第4号住居跡出土遺物実測図 …… 22	第37図 第1号ピット群実測図 …………… 63
第14図 第5号住居跡, 出土遺物実測図 …… 25	第38図 時期不明土坑実測図(1) …………… 64
第15図 第6号住居跡実測図 …………… 26	第39図 時期不明土坑実測図(2) …………… 65
第16図 第6号住居跡出土遺物実測図(1) …… 27	第40図 時期不明土坑実測図(3) …………… 66
第17図 第6号住居跡出土遺物実測図(2) …… 28	第41図 時期不明溝土層断面図 …………… 70
第18図 第8号住居跡, 出土遺物実測図 …… 32	第42図 第1号不明遺構, 出土遺物実測図 … 71
第19図 第10号住居跡, 出土遺物実測図 …… 34	第43図 第2号不明遺構実測図 …………… 72
第20図 第11号住居跡, 出土遺物実測図 …… 35	第44図 第2号不明遺構出土遺物実測図(1) … 73
第21図 第12号住居跡, 出土遺物実測図 …… 37	第45図 第2号不明遺構出土遺物実測図(2) … 74
第22図 第13号住居跡, 出土遺物実測図 …… 39	第46図 第3号不明遺構, 出土遺物実測図 … 75
第23図 第14号住居跡, 出土遺物実測図 …… 41	第47図 遺構外出土遺物実測図(1) …………… 77
第24図 第15号住居跡実測図 …………… 42	第48図 遺構外出土遺物実測図(2) …………… 78
第25図 第15号住居跡出土遺物実測図 …… 43	第49図 遺構外出土遺物実測図(3) …………… 79
第26図 第1号鍛冶工房跡実測図,	第50図 遺構外出土遺物実測図(4) …………… 80
鉄滓・鍛造剥片出土状況図 …………… 46	付 図 1 宮ヶ崎城跡要図
第27図 第1号鍛冶工房跡	2 宮ヶ崎城跡全体図
出土遺物実測図(1) …………… 47	

表 目 次

表1 宮ヶ崎城跡周辺遺跡一覧表 …………… 7	表3 宮ヶ崎城跡土坑一覧表 …………… 68
表2 宮ヶ崎城跡住居跡一覧表 …………… 44	表4 宮ヶ崎城跡溝一覧表 …………… 70

写真図版目次

- PL 1 宮ヶ崎城跡遠景, 宮ヶ崎城跡調査区域全景
- PL 2 宮ヶ崎城跡(主郭部), 堀C区完掘状況
- PL 3 宮ヶ崎城跡遠景(北側から), 宮ヶ崎城跡遠景(西側から), 宮ヶ崎館跡(南側から), 調査1・2区現況, 調査2区現況, 調査3区付近平場現況, 調査4区堀現況, 調査3区現況
- PL 4 堀C区北側土層断面, 堀C区土塁確認状況, 堀C区北側堀内土層断面, 堀C区南側堀完掘状況, 第1号土橋状況, 第1号土橋土層断面, Eトレンチ状況, Eトレンチ土層断面
- PL 5 Aトレンチ土層断面, Bトレンチ上部土層断面, Bトレンチ中部土層断面, Bトレンチ下部土層断面(堀A区堀底), 第1号溝遺物出土状況, 第2号溝, 第2号溝遺物出土状況, 第3号溝遺物出土状況
- PL 6 調査1区完掘状況, 調査2区完掘状況, 調査3区完掘状況, 調査4区トレンチ状況, 第1号住居跡完掘状況, 第1号住居跡遺物出土状況, 第2号住居跡遺物出土状況, 第3号住居跡完掘状況
- PL 7 第4・5号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡完掘状況, 第6号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡完掘状況, 第8・9号住居跡完掘状況, 第3号溝, 第10号住居跡遺物出土状況, 第11号住居跡完掘状況, 第12号住居跡完掘状況
- PL 8 第13号住居跡完掘状況, 第13号住居跡遺物出土状況, 第14号住居跡完掘状況, 第15号住居跡完掘状況, 第1号鍛冶工房跡完掘状況, 第1号鍛冶工房跡P2・P5遺物出土状況, 第1号鍛冶工房跡遺物(羽口)出土状況, 第1号鍛冶工房跡遺物(金床石)出土状況
- PL 9 第1・5・6号土坑, 第12号土坑, 第14号土坑, 第14~24号土坑, 第15・16号土坑, 第20号土坑, 第23号土坑遺物出土状況, 第26号土坑遺物出土状況
- PL 10 第32号土坑, 第34号土坑, 第39号土坑, 第45号土坑, 第1号ピット群, 第1号不明遺構, 第2号不明遺構, 第3号不明遺構
- PL 11 第1・2・4号住居跡出土遺物
- PL 12 第3・4・5・6号住居跡出土遺物
- PL 13 第6~13号住居跡出土遺物
- PL 14 第11・13~15号住居跡, 第1号鍛冶工房跡出土遺物
- PL 15 第12号土坑, 第1号溝, 第1~3号不明遺構出土遺物
- PL 16 遺構外出土遺物
- PL 17 第1・6・10・15号住居跡, 第1号溝, 第1号鍛冶工房跡出土遺物, 遺構外出土遺物
- PL 18 第1・4・15号住居跡, 第1号不明遺構出土遺物, 遺構外出土遺物
- PL 19 第1・6~8・10号住居跡, 第12号土坑, 第1号鍛冶工房跡出土遺物
- PL 20 第4・15号住居跡, 第2号不明遺構, 第1号鍛冶工房跡出土遺物, 遺構外出土遺物
- PL 21 第4号住居跡, 第2号不明遺構, 第1号鍛冶工房跡出土遺物, 遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

県道大洗友部線は、東茨城郡大洗町を起点とし、同郡茨城町で国道6号線と交差して西茨城郡友部町を結ぶ主要地方道である。県内の産業活動の活性化に伴い、その基盤ともなる交通体系の整備は県勢発展の基本として取り組まれてきた。交通量の緩和と道路網の整備を図るため、宮ヶ崎地区において現在の道路に並行して新たに道路を建設することとなった。

当遺跡のある宮ヶ崎地区についても、平成7年9月21日、茨城県土木部道路建設課（水戸土木事務所）から茨城県教育委員会あてに、主要地方道大洗友部線新設改築計画区域となっている東茨城郡茨城町大字宮ヶ崎城字北宮地内の埋蔵文化財の有無及びその取扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は、平成7年9月26日に現地踏査を行った。平成7年9月29日、茨城県教育委員会から茨城県土木部道路建設課（水戸土木事務所）あてに、主要地方道大洗友部線改築工事予定地内に「宮ヶ崎城跡」が所在する旨回答した。平成8年3月4日茨城県土木部道路建設課（水戸土木事務所）から茨城県教育委員会あてに、主要地方道大洗友部線改築工事予定地内に「宮ヶ崎城跡」の取扱いについて協議があり、文化財保護の立場から再三協議を重ねた。その結果、現状保存が困難であることから、平成8年3月11日、茨城県教育委員会から茨城県土木部道路建設課（水戸土木事務所）あてに、「宮ヶ崎城跡」を記録保存とする旨回答し、調査機関として、財団法人茨城県教育財団が紹介された。

第2節 調査経過

宮ヶ崎城跡の発掘調査を、平成8年10月1日から平成9年3月31日までの半年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

- 10月 1日発掘調査を開始するため、現場倉庫の設置、調査器材の搬入・補助員募集等の諸準備を行った。
- 14日に事務所を開設し、16日から補助員を投入して表採・試掘を開始した。17日に発掘調査の円滑な推進と安全を祈願して、安全祈願祭を実施した。28日に3区の人力による表土除去及び遺構確認を開始した。
- 11月 3区の人力による表土除去・遺構確認を引き続き行い、奈良・平安時代を中心とした竪穴住居跡6軒を確認するとともに、4区東側斜面の残材処理を行った。1, 2, 4区の重機による表土除去と遺構確認を開始し、住居跡15軒と土坑44基を確認した。3区にテストピットの掘り込みを行った。
- 12月 2日に、方眼杭打ちを開始した。4区のBトレンチの土層の掘り込みを行った。3区の遺構調査に入り、西側から調査を開始した。第6号住居跡、第3号溝までの調査をほぼ終了した。
- 1月 7日から作業を再開し、1月下旬には3・4区の遺構調査及びトレンチ調査をほぼ終了した。鍛冶工房跡を1棟検出し、鉄滓及び羽口が多数出土した。1, 2区の遺構調査を開始し、住居跡5軒の調査を終了した。20日からは、2区の堀の調査を開始した。
- 2月 4日に、水戸市飯富中学校の生徒4名が職場体験学習に訪れた。24日に宮ヶ崎城跡で確認された「遺構・遺物について」、千葉県文化財センター南部調査事務所副所長の柴田龍司氏を招いて研修を行った。
- 3月 8日に当遺跡の現地説明会を行った。12日には航空写真撮影を実施し、18日から撤収の準備を開始した。

21日には遺構調査が終了した。現場事務所では諸帳簿や諸記録の点検，調査区では安全対策を行い，25日には現場事務所を閉鎖した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

宮ヶ崎城跡は、茨城県東茨城郡茨城町大字宮ヶ崎北宮293番地ほかに所在している。

茨城町は、茨城県の中央部よりやや東に位置し、北部は水戸市に、東部は涸沼を隔てて東茨城郡大洗町、鹿島郡旭村に、南部は東茨城郡美野里町、小川町、鹿島郡鉾田町に、西部は東茨城郡内原町、西茨城郡友部町、同岩間町に隣接している。

茨城町の地形は、町のほぼ中央部を東流する涸沼川と、その東に展開する涸沼（面積約9.35km²）によって、台地を南北に二分されている。北部の台地は、標高25～30mの東茨城北部台地の先端部を形成し、北西から涸沼前川を含む大小の支谷が涸沼に南面して開口している。南部に発達する台地は、東から大谷川、寛政川が涸沼に流入し、その間に大小無数の支谷が台地深くまで侵入し、北部台地に比べて起伏も多く一層複雑な地勢を成している。これらの河川流域の沖積低地は水田として、台地は畑地・樹園地として利用されている。

地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代第三紀の地層で、岩質は水戸層と呼ばれている泥岩である。水戸層の上には第四紀の地層が不整合に堆積しており、粘土・砂からなる見和層、礫からなる上市層、灰褐色の常総粘土層、関東ローム層の順に堆積している。これらの地層はいずれもほぼ水平層である。

宮ヶ崎城跡は、涸沼南岸の台地が涸沼に向かって突出している標高約25mのところ立地し、東西から入り込んだ谷を利用し、台地の付け根のところに堀切を掘って外堀とし、その内側に土塁を築いている。主郭は台地先端部の手前の部分にあり、主郭西側の斜面には崩落した部分がある。現況は畑地・山林である。

参考文献

- ・蜂須紀夫 『茨城県 地学ガイド』 1986年11月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町権現峯遺跡」 1988年3月
- ・茨城町教育委員会 「小幡北山埴輪製作遺跡」 1989年2月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町上ノ山古墳」 1994年3月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町史 通史編」 1995年2月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町史 地誌編」 1995年2月

第2節 歴史的環境

茨城町には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。当町周辺は、涸沼をはじめ、涸沼川、涸沼前川など水運に恵まれ、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきた。ここでは、宮ヶ崎城跡周辺の主な遺跡について時代を追って述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、⁽¹⁾向地南遺跡〈8〉で、打製石斧や槍先形尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は、町内全域に113か所が確認されている。早期の遺跡には、^{かねこだちにし}金子立西遺跡〈6〉や沈線文土器（三戸式、田戸式）が出土している^{なかおち}中落遺跡〈21〉がある。前期になると遺跡数が増加する。涸沼周辺は最も多く、^{まえの}前野遺跡〈10〉、^{かねこだち}金子立遺跡〈7〉、^{おやざわ}親沢遺跡〈9〉、^{ごんげんみね}権現峯遺跡〈14〉など10数遺跡が存在している。涸沼川流域には^{おくのや}奥谷遺跡、また、縄文海進にともなって権現峯遺跡など8か所に貝塚が形成されている。

中期になると、天古崎遺跡〈24〉や大道西遺跡〈13〉、東永寺遺跡〈15〉など前期よりさらに遺跡数が増し、町内全域にみられるようになる。後期に入ると遺跡数は減少しはじめる。この頃小堤貝塚が形成される。晩期になるとさらに遺跡数は減少し、下土師遺跡、小堤貝塚、神谷遺跡〈16〉など10か所を数えるほどである。晩期の遺跡はほとんどが後期から続く遺跡である。

弥生時代の遺跡は、現在41か所確認されており、中期後半のものと思われる土器片が神谷東遺跡〈17〉、西台遺跡〈18〉などで採集されている。後期前半の遺物としては、東中根式並行の土器片が大畑遺跡から採集されている。後期後半には、標式土器となった長岡式土器が、長岡遺跡と昭和61年度に当教育財団が発掘調査した奥谷遺跡、小鶴遺跡の3遺跡から出土している。平成7年度に調査された矢倉遺跡、大戸下郷遺跡から後期後半の十王台式土器片が出土し、平成8年度に調査された大畑遺跡からは、十王台式期の集落が確認されている。

古墳時代になると遺跡数が増加する。奥谷遺跡からは、古墳時代前期の豪族居館跡の溝や住居跡が確認され、涸沼周辺の神谷遺跡、神谷東遺跡、大峯遺跡、西台遺跡、権現峯遺跡などからも、前期の土師器や住居跡が確認されている。また、中期から後期にかけての古墳が61基ほど確認されている。他に、涸沼北側には、中石崎古墳群〈12〉、館の山古墳〈23〉などもある。

律令制下の奈良・平安時代の茨城町は、那賀郡八部郷、茨城郡島田・安保・白川郷、鹿島郡宮前郷に所属していた。この時期の遺跡は、涸沼周辺に中石崎遺跡〈11〉、宮台遺跡〈19〉、片山遺跡〈20〉、片喰遺跡〈14〉、など町内全域に確認され、98遺跡を数える。奥谷遺跡からは、百数十点の墨書土器のほか円面硯や刀子が出土している。特に、墨書の「曹司」は、宮中・官衙などの庁舎・宿直所・局・部屋などの意味があり、当時の奥谷遺跡が官衙的あるいは公共的な施設を含む集落であったことを示している。

中世の遺跡は、主に城館跡である。すでに消滅したもので含めるならば、その数は12か所に及んでいる。現存する町内の城館の中では小幡城跡が最大規模である。小幡城跡は応永二十四年、常陸大掾詮幹の三男義幹によって築城され、以後、九代の中務大輔義信に至るまで大掾家が城主であったと伝えられている。今回調査した宮ヶ崎城跡〈1〉は、宮ヶ崎又太郎幹頭の居城であり、宮ヶ崎氏は大掾氏一族で、田野辺政幹の次子の家幹が宮ヶ崎三郎を称したことに始まったと言われていた。応永二十三年(1416)、上杉禅秀の乱が起こると宮ヶ崎氏は前関東管領上杉禅秀に味方したため、翌年正月に禅秀が鎌倉で自害して反乱が鎮圧されると、宮ヶ崎城は廃城となったと伝えられている。宮ヶ崎城跡の南方に位置する宮ヶ崎館跡〈2〉も宮ヶ崎氏ゆかりの遺構と考えられる。石崎城跡〈3〉は、涸沼を挟んで宮ヶ崎城跡の対岸にあり、伝承によれば、この城跡は、石河氏の一族で石崎保の地頭となった、石崎禅師房聖道の居城であったと言われていた。その他、涸沼から涸沼川沿いに谷田部城跡〈4〉、奥谷館跡、小堤館跡、海老沢館跡〈5〉、鳥羽田城跡、飯沼城跡などが所在している。奥谷遺跡からは、地下式墳、土坑、井戸、堀が確認され、土師質土器や陶器が出土している。前田地区の万東山からは、13世紀前半と思われる「青白磁蓮牡丹文梅瓶」が出土している。

近世になると、町の中心部を南北に走る水戸街道に沿って、長岡、小幡は宿駅として発展した。海老沢、網掛は水上交通の要所としても栄え、水戸藩をはじめ、仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ輸送経路の中継として極めて重要な役割を果たしていた。

このように茨城町は、涸沼と涸沼川の水の便を擁し、古代から水運の中継地として重要な役割を果たすことにより、早くから経済的に重要な位置を占めていたことがうかがえる。

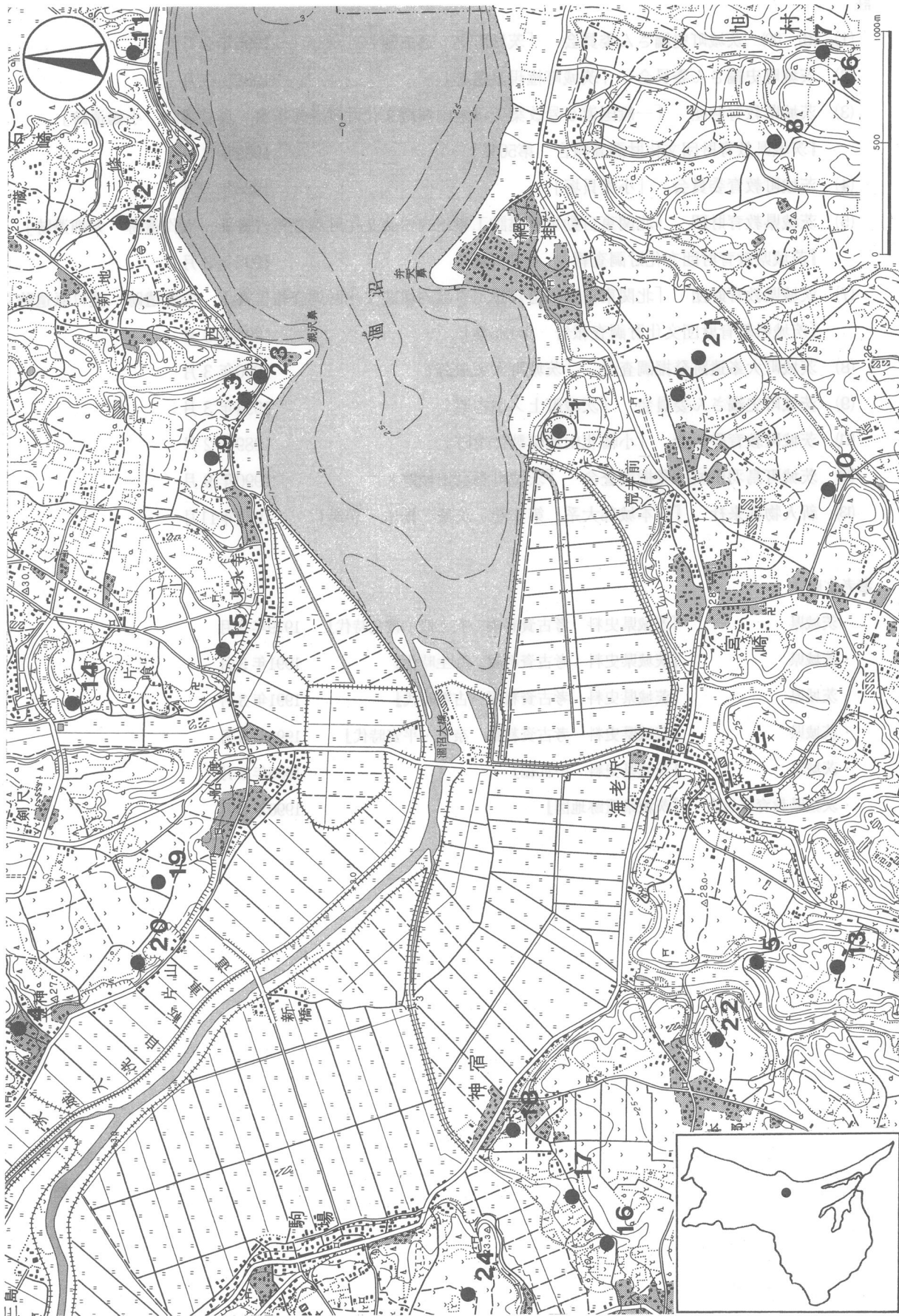
※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第2図の該当番号と同じである。

註

- (1), (6), (10) 茨城町史編さん委員会 「茨城町史 通史編」 1995年 2月
- (2) 茨城町史編さん委員会 「茨城町権現峯遺跡」 1988年 3月
- (3) 茨城県教育財団 「一般国道 6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡 小鶴遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告 第50集』 1989年 3月
- (4) 茨城町教育委員会 「小堤貝塚」 1986年 3月
- (5) 茨城県教育財団 「北関東自動車道建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡 大畑遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告 第136集』 1998年 3月
- (7) 茨城県教育財団 「北関東自動車道建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡 後口原遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告 第135集』 1998年 3月
- (8) 茨城町大峯遺跡発掘調査会 「茨城町大峯遺跡」 1990年 3月
- (9) 茨城町史編さん委員会 「茨城町上ノ山古墳」 1994年 3月
- (11) 茨城町教育委員会 「小幡北山埴輪製作遺跡」 1989年 2月
- (12) 茨城町鳥羽田城跡発掘調査会 「茨城町鳥羽田城跡」 1990年 9月
- (13) 新人物往来社 『日本城郭大系 第4巻 茨城・栃木・群馬』 1979年11月

参考文献

- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』 1979年 3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』 1991年 3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 1991年 3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 1995年 3月
- ・茨城県 『茨城県史料 中世編』 1986年 3月
- ・茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年 3月

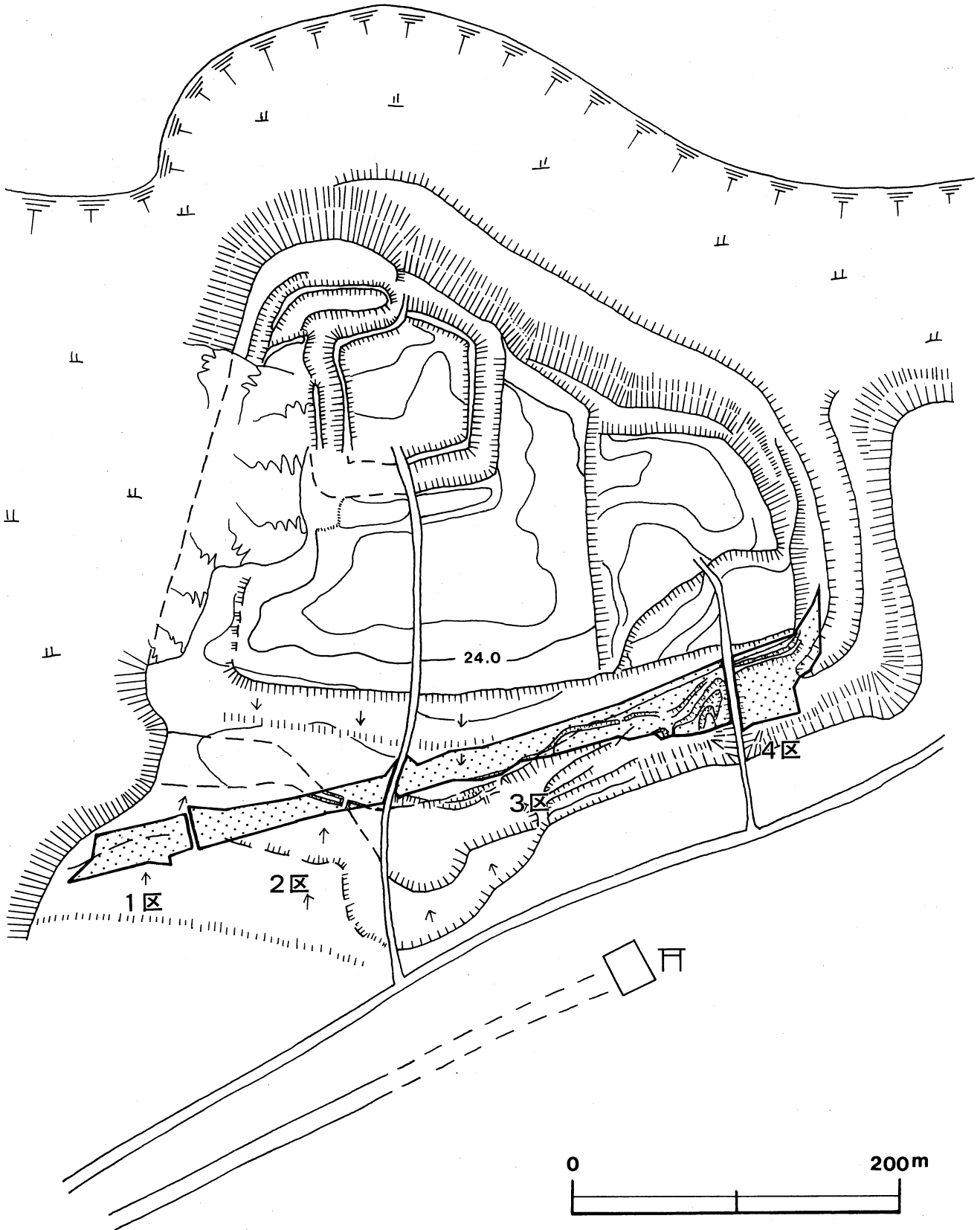
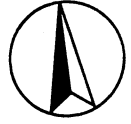


第2図 周辺遺跡分布図

表1 宮ヶ崎城跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平				中近	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中近
①	宮ヶ崎城跡	4301				○	○	○	13	大道西遺跡	4286		○		○		
2	宮ヶ崎館跡							○	14	片喰遺跡	4329		○	○		○	
3	石崎城跡	4300						○	15	東永寺遺跡	191		○	○			
4	谷田部城跡							○	16	神谷遺跡	4288		○	○	○		
5	海老沢館跡	4302						○	17	神谷東遺跡	4339		○	○	○	○	
6	金子立西遺跡			○				○	18	西台遺跡	4311		○	○	○		
7	金子立遺跡			○				○	19	宮台遺跡				○		○	
8	向地南遺跡		○	○				○	20	片山遺跡	205			○			
9	親沢遺跡	4330		○	○	○	○		21	中落遺跡	4285		○	○	○		
10	前野遺跡	4347		○		○			22	権現峯遺跡	4312		○	○	○		
11	中石崎遺跡	4291	○	○				○	23	館の山古墳	213				○		
12	中石崎古墳群	215		○				○	24	天古崎遺跡					○		

澗 沼



第3図 宮ヶ崎城跡調査区割図

第3章 宮ヶ崎城跡

第1節 遺跡の概要

宮ヶ崎城跡は、東茨城郡茨城町の涸沼の南岸の宮ヶ崎と網掛の二つの集落の中間に位置する。涸沼南岸の台地が涸沼に向かって突出している標高約25mの台地上に立地している。中世城郭としての宮ヶ崎城跡は、突出部先端に内堀と土塁で区画した城跡（主郭）を置き、その外を郭で囲み、更にその外側に谷を利用した外堀を回している。今回の発掘調査区域は、この台地を区切る谷の一部とその北側の緩斜面、及び南側緩斜面の一部である。調査区は、便宜上1～4区に分け、総面積は9,840m²である。現況は山林及び畑地である。

今回の調査によって、古墳時代の住居跡4軒、奈良・平安時代の住居跡11軒、鍛冶工房跡1棟、土坑1基、中世に伴う堀跡1条、溝2条、土橋2か所、時期不明の土坑44基、ピット群1か所、溝6条、不明遺構3基を検出した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に40箱出土している。遺物の大部分は古墳時代、奈良・平安時代の土師器、須恵器である。その他の遺物として、土玉、管状土錘、土製支脚、石製紡錘車、鞆羽口、金床石、鉄滓、刀子、石鍋片、土師質土器、瓦質土器片、陶磁器片、古銭などが出土している。

第2節 基本層序

調査2区内にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った（第4図）。

第1層は、40～45cmの厚さの耕作土層で、暗褐色をしている。

第2層は、5～10cmの厚さで、褐色をしたソフトローム層への漸移層である。

第3層は、15cmほどの厚さで、明褐色をしたソフトローム層である。

第4層は、30cmほどの厚さで、明褐色をしたハードローム層である。

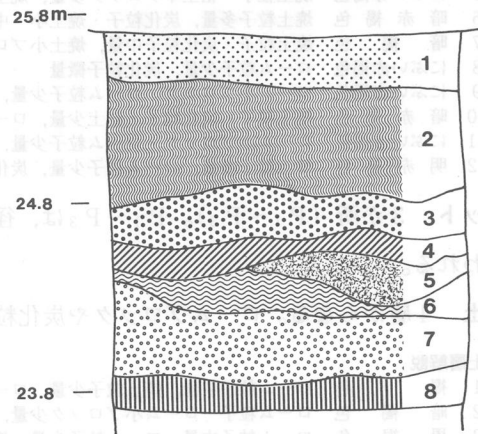
第5層は、30cmほどの厚さで、暗褐色の粘土混じりの層である。

第6層は、10cmほどの厚さで、にぶい黄橙色をした粘土層である。

第7層は、20cmほどの厚さで、砂を少量含む黄橙色をした粘土層である。

第8層は、60cmほどの厚さで、砂質を大量に含む明黄橙色をした粘土層である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構

今回の調査で、古墳時代の住居跡4軒が検出された。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第5図）

位置 調査3区西部，C6g0区。

規模と平面形 長軸5.13m，短軸4.88mの方形。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は8～20cmで，わずかに外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナーを除いた壁際を巡っている。上幅12～30cm，下幅4～9cm，深さ6cm，断面形はU字形である。

床 中央部やや北側が踏み固められており，わずかに高くなっている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ118cm，袖幅140cm，壁外への掘り込みは35cmで，平面形は逆U字形である。両袖部は一部粘土で構築されている。煙道部は火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1 | 褐色 | 炭化粒子多量，焼土粒子・粘土中ブロック中量，焼土小ブロック・砂少量 |
| 2 | 明褐色 | 焼土粒子・粘土中ブロック多量，焼土小・中ブロック中量，砂少量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子・焼土小・中・大ブロック中量，砂・粘土少量 |
| 4 | 赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土中ブロック多量，焼土小・中ブロック中量，砂少量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子・焼土小・中・大ブロック中量，砂少量 |
| 7 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂・粘土少量 |
| 8 | にぶい赤褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 9 | にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 10 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土少量，ローム小ブロック微量 |
| 11 | にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量 |
| 12 | 明赤褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |

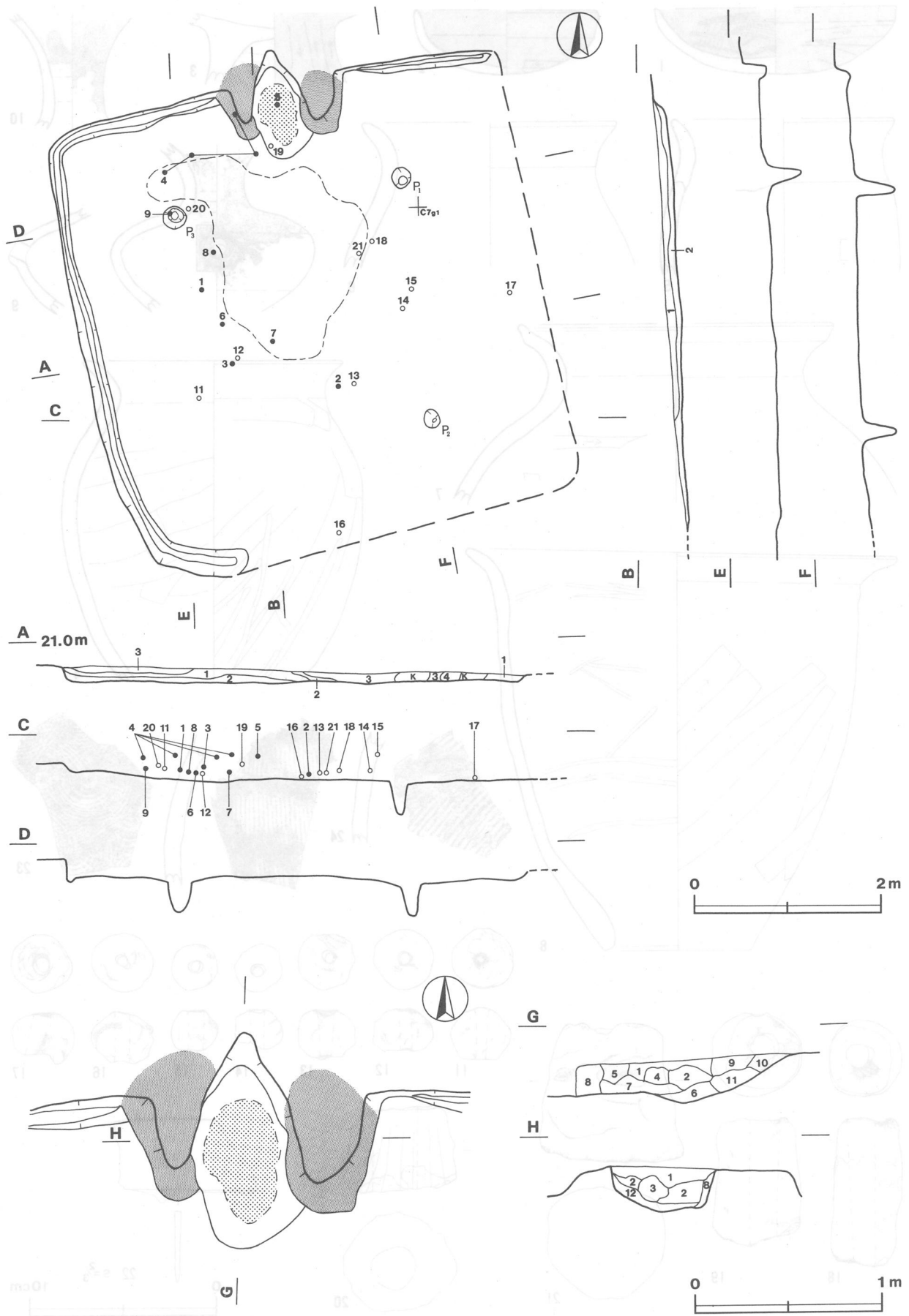
ピット 3か所（P₁～P₃）。P₁～P₃は，径18～25cmほどの円形，深さ37～39cmで，いずれも支柱穴と思われる。

覆土 4層からなる。ロームブロックや炭化粒子を含んでいるので人為堆積と思われる。

土層解説

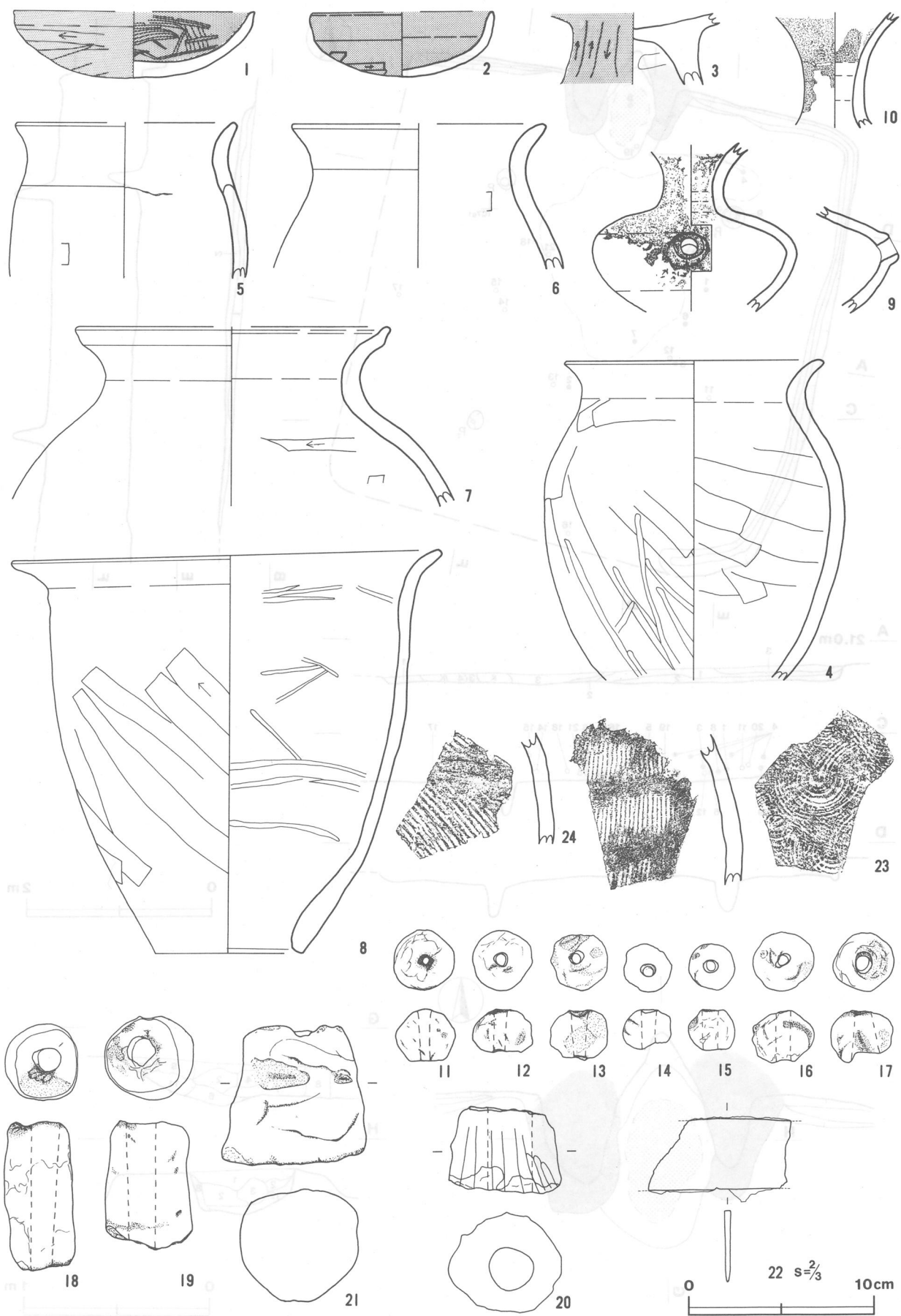
- | | | |
|---|-----|------------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量 |

遺物 土師器片184点，須恵器片12点，土製品12点，不明鉄製品1点が出土している。第6図1の土師器坏，3の高坏はそれぞれ中央部やや西側の覆土上層から出土している。2の土師器坏は，中央部やや南側の覆土上層から4の土師器小形甕はP₃北側の覆土上層から，5の土師器甕は竈内上層から，6の土師器小形甕・7の土師器甕は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。8の土師器甕は中央部やや西側の覆土上層から出土している。9の須恵器甕はP₃内の覆土上層から出土し，第12号住居跡の覆土中から出土した甕の頸部と接合した。湖西産と考えられる。10の須恵器甕頸部片は，竈袖部西側の覆土中から出土している。11～17の土玉は，中央部東側から西側にかけての覆土上層から床面にかけて，それぞれ出土している。18の管状土錘は，中央部の覆土上層から，19の管状土錘は竈内左袖部の覆土上層からそれぞれ出土している。20の羽口はP₃北側の覆土上層から出土している。近辺に鍛冶工房跡があり，混入と思われる。21の土製支脚は中央



第5图 第1号住居跡実測图

图5 第1号住居跡实测图



第6图 第1号住居跡出土遺物実測図

图版实相器分号1第 图己类

部の覆土上層から出土している。22の不明鉄製品は覆土中から出土している。23は須恵器甕の体部片で、外面には縦位の平行叩きが、内面には同心円状の当て具痕が施されている。24は須恵器甕の体部片で、外面には斜位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期の7世紀後葉と思われる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜を有する。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P 1 P L 11 60% 中央部やや西側 覆土上層
2	坏 土師器	A [10.0] B 3.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境にわずかな稜を有する。	口縁部内面から口縁部外面横ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。内・外面黒色処理。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 2 P L 11 70% 中央部やや南側 覆土上層
3	高坏 土師器	B (3.8) E (2.9)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り。脚部内面ヘラナデ。外面黒色処理。	石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 3 P L 11 5% 中央部やや西側 覆土上層
4	小形甕 土師器	A 14.0 B (17.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	石英・雲母・スコリア 明褐色 普通	P 4 P L 11 50% P 3北側覆土上層
5	小形甕 土師器	A [12.0] B (8.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に棒状工具による沈線を有する。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 5 P L 11 5% 甕内覆土上層
6	小形甕 土師器	A [13.8] B (7.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 6 P L 11 20% 中央部覆土上層
7	甕 土師器	A [14.2] B (9.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。内面一部磨滅。	長石・石英 暗灰色 普通	P 7 P L 11 20% 中央部覆土上層
8	甗 土師器	A 23.3 B 21.7 C 8.0	口縁部一部欠損。単口式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。	長石・砂粒 オリブ色 普通	P 8 P L 11 90% 中央部やや西側 覆土上層
9	甗 須恵器	B (14.0)	体部から頸部にかけての破片。体部の最大径は上位にあり、頸部はくの字状に外反する。	体部から頸部内・外面口クロナデ。体部上位に穿孔。自然釉が付着している。	長石 灰色 普通	P 10 P L 11 20% P 3内覆土上層
10	甗 須恵器	B (5.0)	頸部破片。頸部から口縁部にかけて鋭く立ち上がって外反する。	頸部内・外面ヘラナデ。頸部内・外面に自然釉。	長石・砂粒 灰オリブ色 普通	P 11 P L 11 20% 覆土中

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第6図11	土 玉	2.8	3.3	0.6~0.8	29.3	南西側覆土上層	D P 1 100% P L 19
12	土 玉	2.4	3.3	0.6~0.8	23.2	中央部やや西側覆土上層	D P 2 100% P L 19
13	土 玉	2.8	3.1	0.7~0.9	22.7	中央部覆土上層	D P 3 100% P L 19
14	土 玉	2.1	2.6	0.6~0.8	14.0	中央部覆土上層	D P 4 100% P L 19
15	土 玉	2.2	2.5	0.8~0.9	13.0	中央部やや東側覆土上層	D P 5 100% P L 19
16	土 玉	2.9	3.2	0.8~0.9	26.6	南側床面	D P 6 100% P L 19
17	土 玉	2.8	3.3	0.9~1.5	24.6	東側中央床面	D P 7 100% P L 19
18	管状土錘	8.1	3.9	1.1~1.5	131.7	中央部覆土上層	D P 8 100%
19	管状土錘	7.0	4.7	1.4~1.5	161.0	カマド内覆土上層	D P 9 100%
20	羽 口	4.8	6.1	2.0~2.5	(144.4)	P 3北側覆土上層	D P 10 20% P L 19
21	土製支脚	(7.6)	6.4~7.8	-	(398.5)	中央部覆土上層	D P 11 40% P L 19

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第6図22	不明鉄製品	(3.8)	1.9	0.2	(4.4)	覆土中	M1

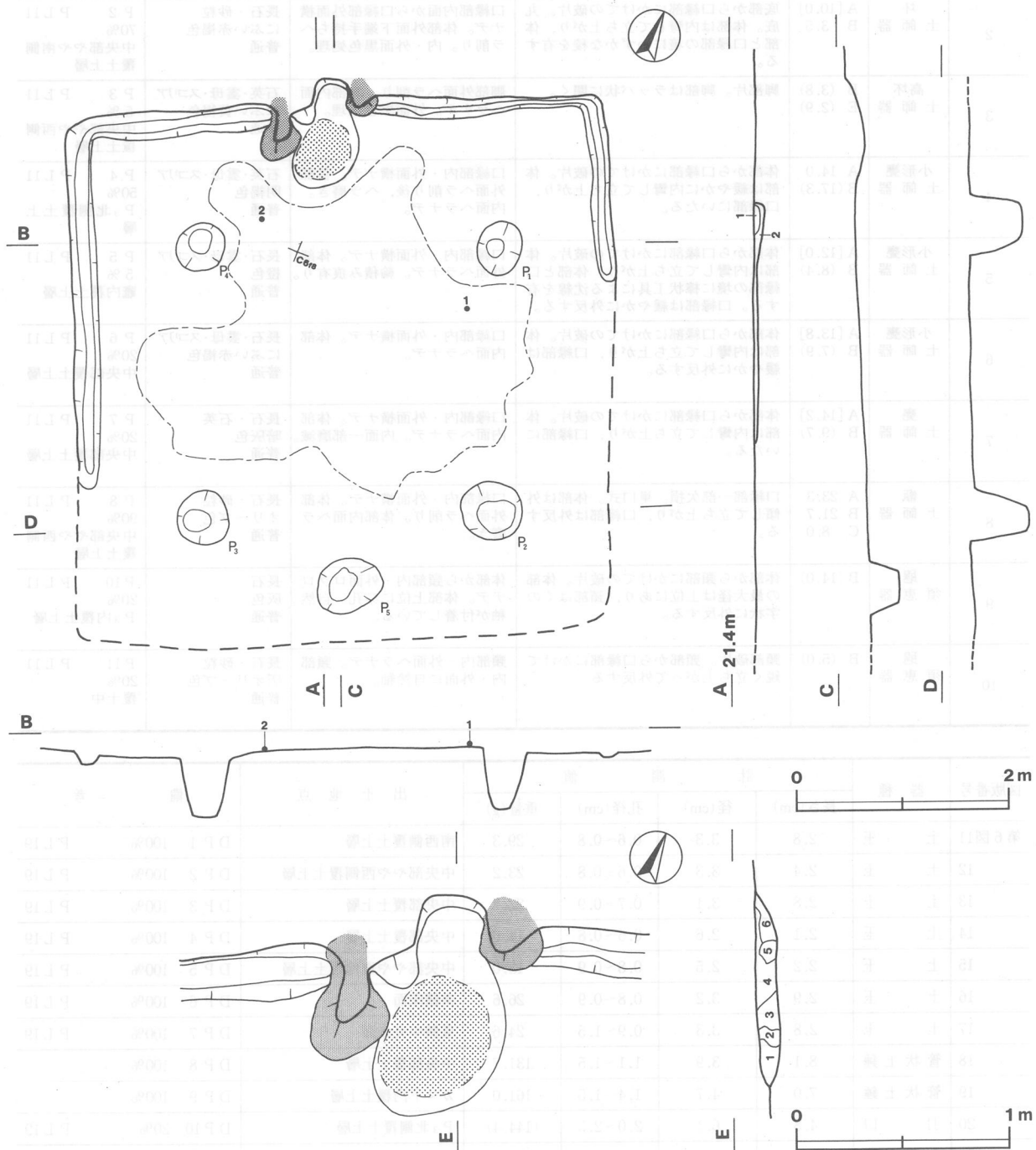
第3号住居跡 (第7図)

位置 調査3区西部, C6f8区。

規模と平面形 長軸 [5.10] m, 短軸5.08mの方形。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は4~11cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第7図 第3号住居跡実測図

壁溝 東壁北半分から北壁、西壁の大部分の壁際を巡っている。上幅10~28cm, 下幅4~12cm, 深さ6~9cm, 断面形は逆台形である。

床 中央部がわずかに高くなっている。全体的に軟質である。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ100cm, 袖幅104cm, 壁外への掘り込みは20cmほどである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は長径55cm, 短径47cmの楕円形で、浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂少量, ローム粒子・鹿沼土微量
- 2 にぶい赤褐色 砂多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ローム粒子・鹿沼土少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 4 にぶい赤褐色 砂多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 5 橙褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂少量, 鹿沼土微量
- 6 赤褐色 砂多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径48~55cmの円形, 深さ50~57cmで、支柱穴と思われる。P₅は南壁中央の壁際から25cmほど内側に位置する。長径62cm, 短径52cmの楕円形, 深さ26cmで、出入口施設に伴うピットと思われる。

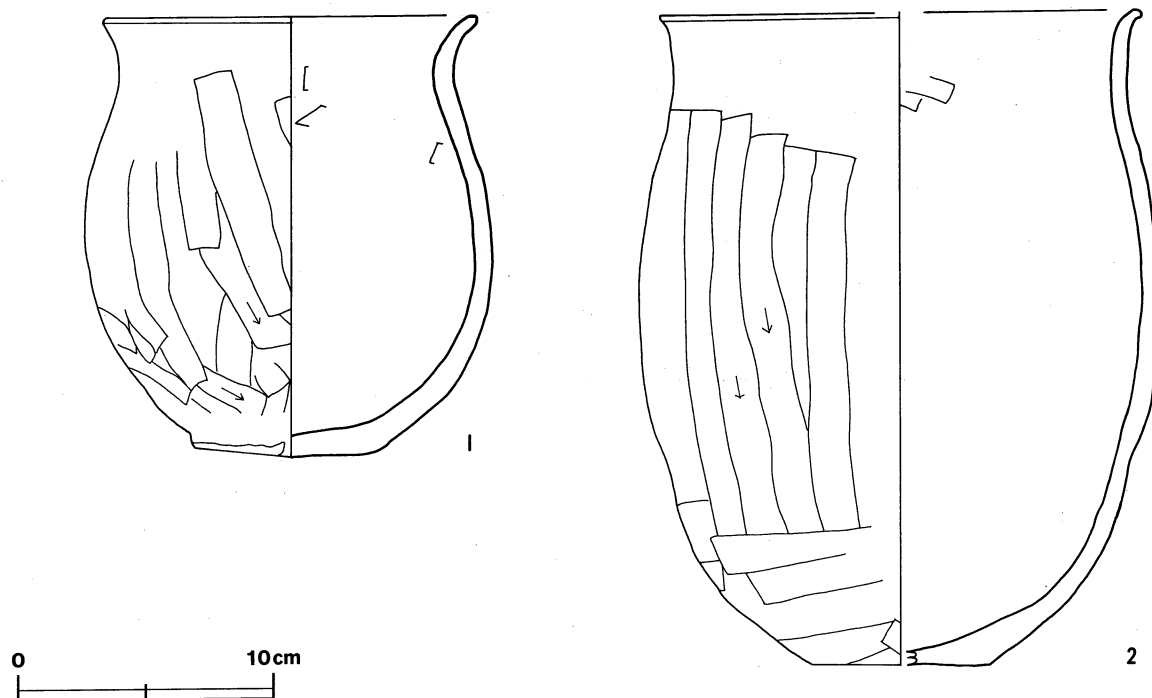
覆土 2層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片17点, 土製品1点, 礫1点が出土している。第8図1の土師器小形甕はP₁南側の床面から、2の土師器甕はP₄北東側の床面から出土している。

所見 本跡は、出土した遺物も少ないため時期を確定するのは困難であるが、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期の6世紀後葉と思われる。



第8図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	小形甕 土師器	A 14.6 B 17.5 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り後、ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P14 PL12 85% P ₁ の南側床面
2	甕 土師器	A 19.0 B 25.6 C 7.2	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P15 PL12 40% P ₄ の北東側床面

第7号住居跡 (第9図)

位置 調査3区北東部, C6f3区。

規模と平面形 北側半分以上が調査区域外のため規模や平面形は明らかではないが、長軸 [4.50] m, 短軸 [3.10] mである。

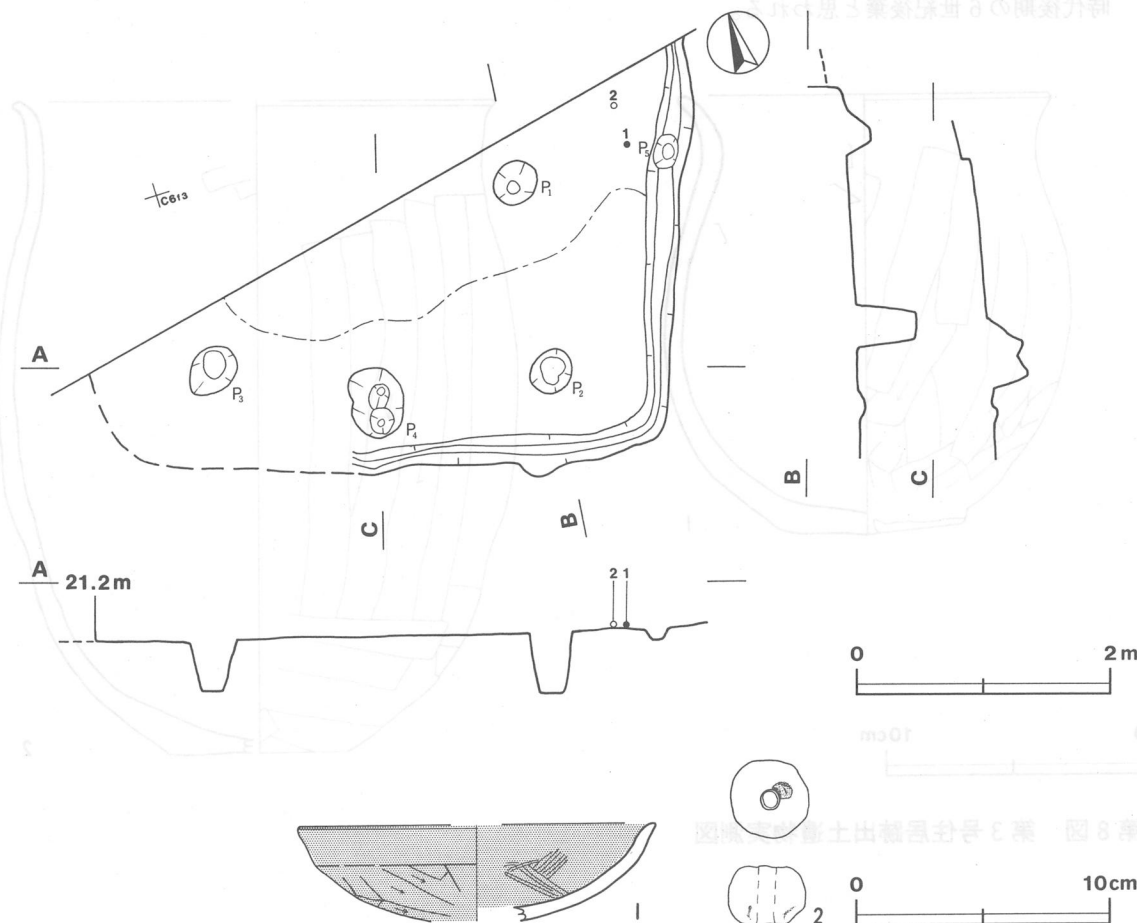
長軸方向 [N-19°-E]

壁 壁高は1~4cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~35cm, 下幅4~15cm, 深さ4~6cm, 断面形は逆台形で、南東コーナーを巡っている。

床 出入り口ピットから中央部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は、径35cmの円形、深さ50cm, P₂は長径45cm, 短径34cmの楕円形、深さ42cm, P₃は長径46cm, 短径30cmの楕円形、深さ40cmで支柱穴と思われる。P₄は、長径56cm, 短径40cmの楕円形、深さ28~31cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₅は径36cmの円形、深さ19cmで性格不明のピットである。



第9図 第7号住居跡, 出土遺物実測図

覆土 残っていた覆土が浅く、土層が確認できなかった。

遺物 土師器片8点、土玉1点が出土している。第9図1の土師器坏は、東壁側床面から横位で出土している。

2の土玉は、東壁側床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物も少なく時期を確定するのは困難であるが、出土遺物から古墳時代後期の7世紀後葉以降と思われる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	坏 土師器	A [14.2] B (3.8)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有する。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア におい赤褐色 普通	P39 PL13 30% 東壁側床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第9図2	土玉	2.4	3.1	0.7	23.0	東壁側床面	D P58 100% PL19

第9号住居跡 (第10図)

位置 調査3区西部、C6h3区。

重複関係 本跡の上には第8号住居跡が構築され、第3号溝に掘り込まれていることから、本跡は第8号住居跡、第3号溝より古い。

規模と平面形 長軸 [4.80] m、短軸 [4.40] mの方形と推定される。

主軸方向 [N-14°-E]

壁 壁高は4~26cmで、わずかに外傾して立ち上がる。

床 P1を取り囲むように周りが踏み固められており、わずかに高くなっている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径20~40cmの円形、深さ25~57cmで、支柱穴と思われる。P5は、径12cmの円形、深さ33cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなる。ロームブロックや炭化物を含んでいるので人為堆積と思われる。

土層解説

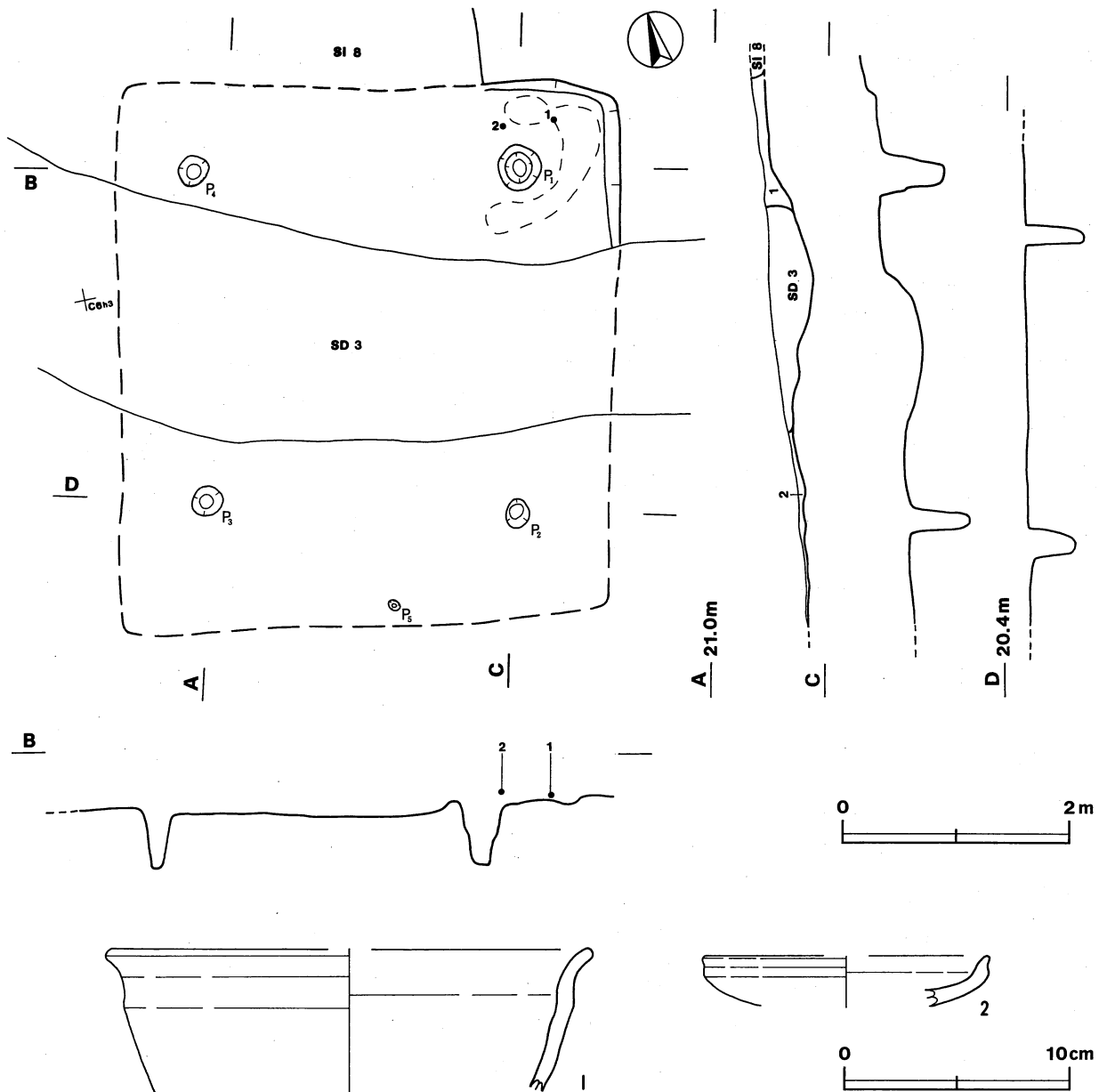
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・小ブロック中量、焼土少量

遺物 土師器片8点、陶器片1点が出土している。第10図1の土師器甕と2の土師器坏は、P1北側の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物も少なく時期を判断するのは困難であるが、古墳時代後期の7世紀後葉と思われる。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	甕 土師器	A [21.6] B (6.3)	体部から口縁部にかけての破片。頸部は緩やかにくの字状に外反し、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P44 45% PL13 P1の北側覆土上層
2	坏 土師器	A [12.8] B (2.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に緩やかな段を有する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P43 35% PL13 P1の北側覆土上層



第10図 第9号住居跡，出土遺物実測図

2 奈良・平安時代の遺構

今回の調査で，奈良・平安時代の竪穴住居跡11軒が検出された。道路幅の調査のため，住居跡の一部が調査区域外に延びるものもあった。時期は8世紀初頭から9世紀後葉と考えられる。また，鍛冶工房跡1棟，土坑1基が検出された。以下，確認した遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

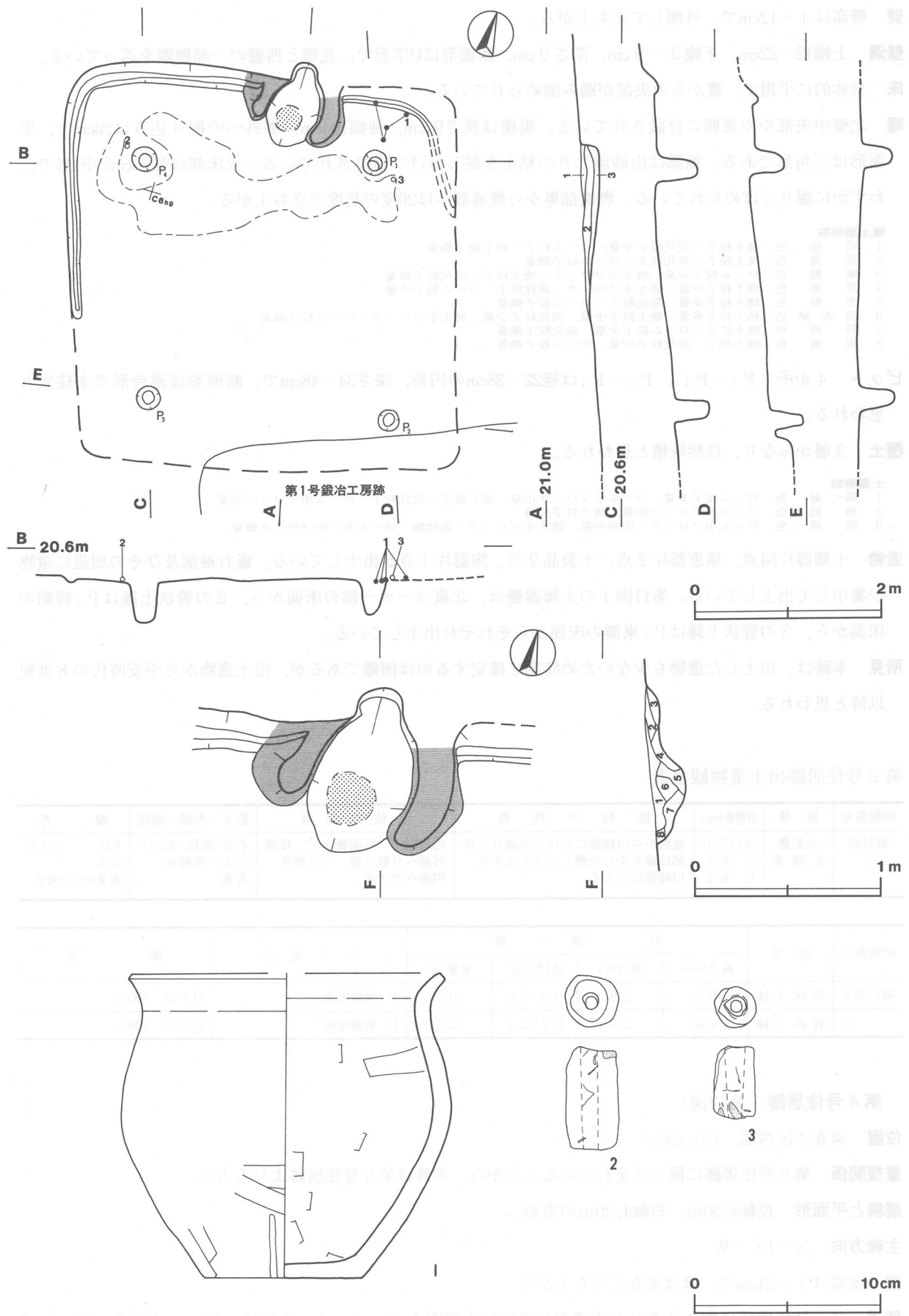
第2号住居跡（第11図）

位置 調査3区西部，C6h9区。

重複関係 本跡は南東側を第1号鍛冶工房跡に掘り込まれていることから，第1号鍛冶工房跡より古い。

規模と平面形 長軸 [4.20] m，短軸 [4.10] mの方形。

主軸方向 [N-14°-W]



第11図 第2号住居跡，出土遺物実測図

壁 壁高は4～12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅12～22cm、下幅3～9cm、深さ9cm、断面形はU字形で、北壁と西壁の一部壁際を巡っている。

床 全体的に平坦で、竈から中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部やや東側に付設されている。規模は長さ92cm、袖幅104cm、壁外への掘り込みは20cmで、平面形は三角形である。袖部は山砂混じりの粘土を貼り付けて構築されている。火床部は径25cmの円形で、わずかに掘りくぼめられている。燃焼部奥から煙道部へは20度の角度で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒 褐 色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 暗 赤 褐 色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 7 暗 褐 色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量

ピット 4か所 (P₁～P₄)。P₁～P₄は径22～28cmの円形、深さ34～48cmで、断面形は逆台形で支柱穴と思われる。

覆土 3層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック中量、焼土粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム小ブロック・山砂少量、焼土小ブロック・炭化物・ローム大・中ブロック微量

遺物 土師器片54点、須恵器片2点、土製品2点、陶器片1点が出土している。竈右袖部及びその周辺に遺物が集中して出土している。第11図1の土師器甕は、北東コーナー部の床面から、2の管状土錘はP₄西側の床面から、3の管状土錘はP₁東側の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土した遺物も少ないため時期を確定するのは困難であるが、出土遺物から平安時代の8世紀以降と思われる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	小形甕 土師器	A [17.0] B 16.4 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面へラナデ。	石英・雲母・スコリア に多い赤褐色 普通	P12 PL11 40% 北東コーナー床面

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第11図2	管状土錘	5.5	2.9	0.8～0.9	50.7	P ₄ 西側床面	D P12 100%
3	管状土錘	4.0	2.3	0.7～1.2	22.5	P ₁ 東側床面	D P13 100%

第4号住居跡 (第12図)

位置 調査3区西部、C6f6区。

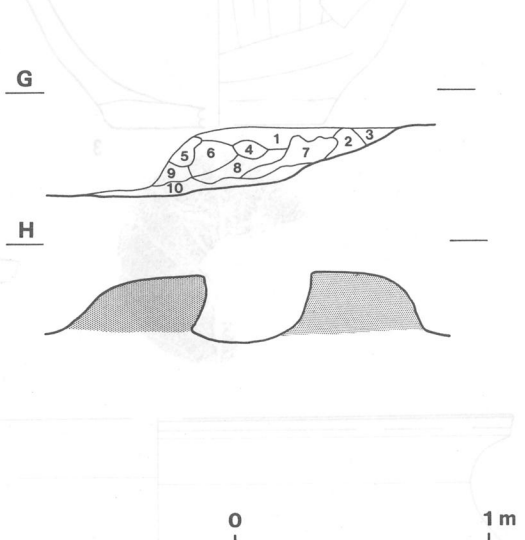
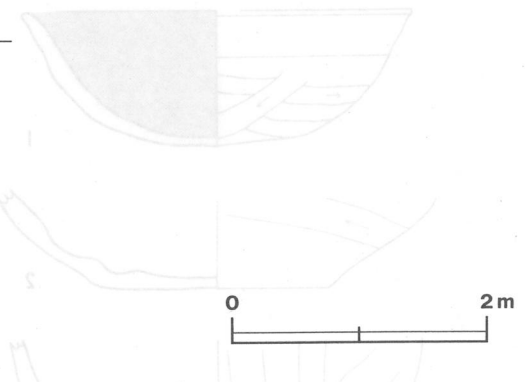
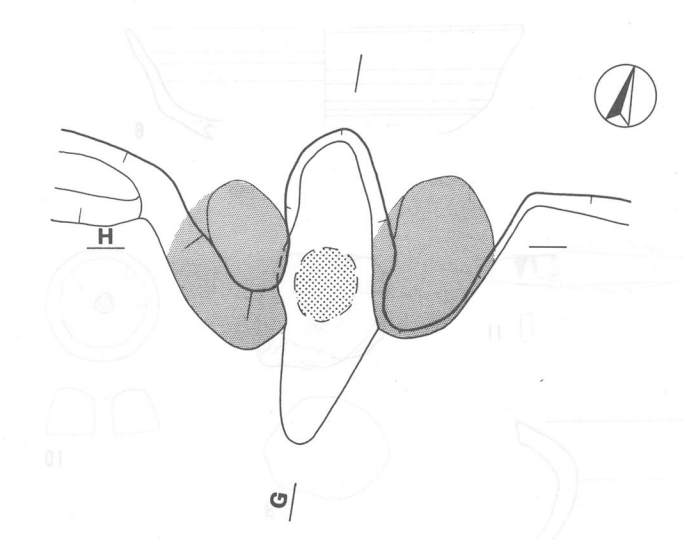
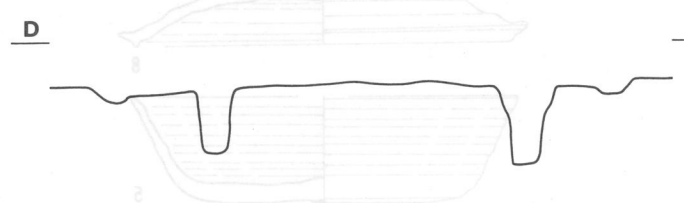
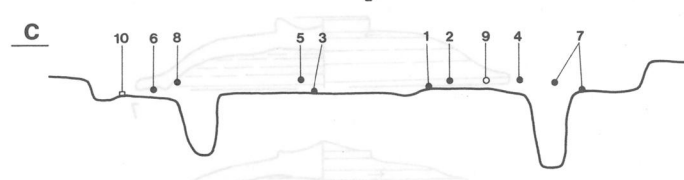
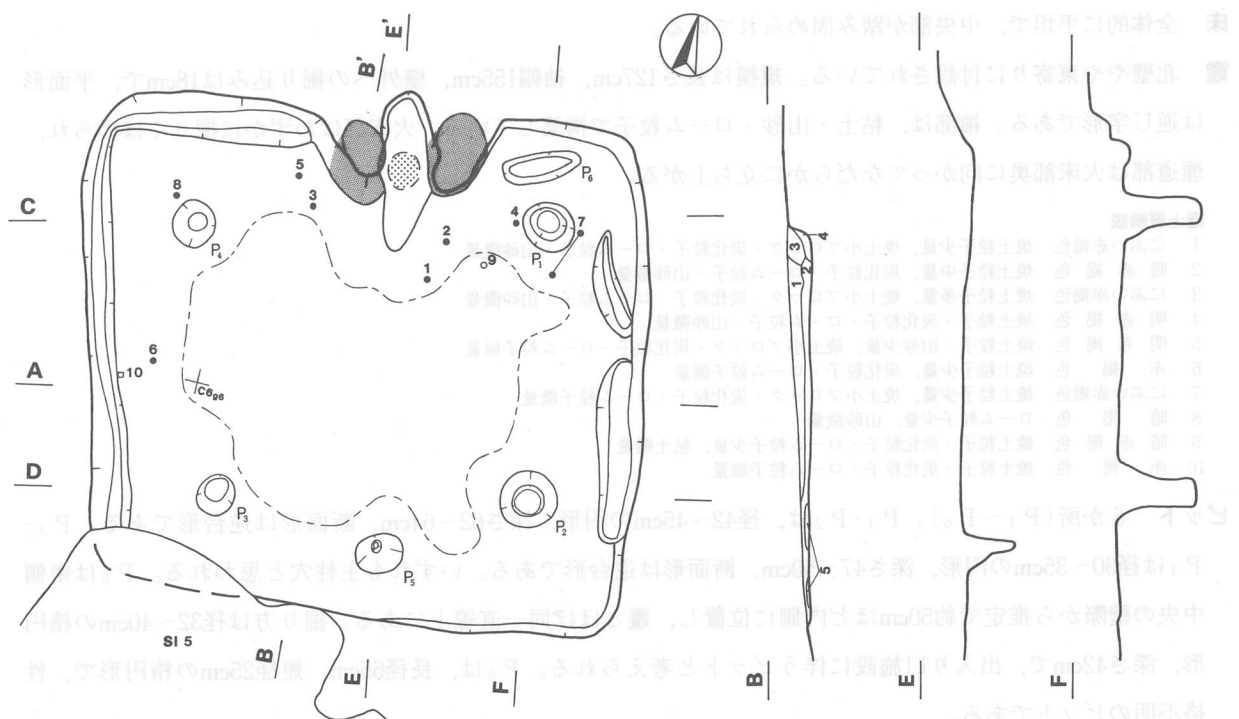
重複関係 第5号住居跡に掘り込まれていることから、本跡は第5号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.20mの方形。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は4～24cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 第5号住居跡に掘り込まれた南側部分を除いた壁際を巡っている。上幅15～38cm、下幅5～12cm、深さ約10cmで、断面形はU字形である。



第12図 第4号住居跡実測図

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

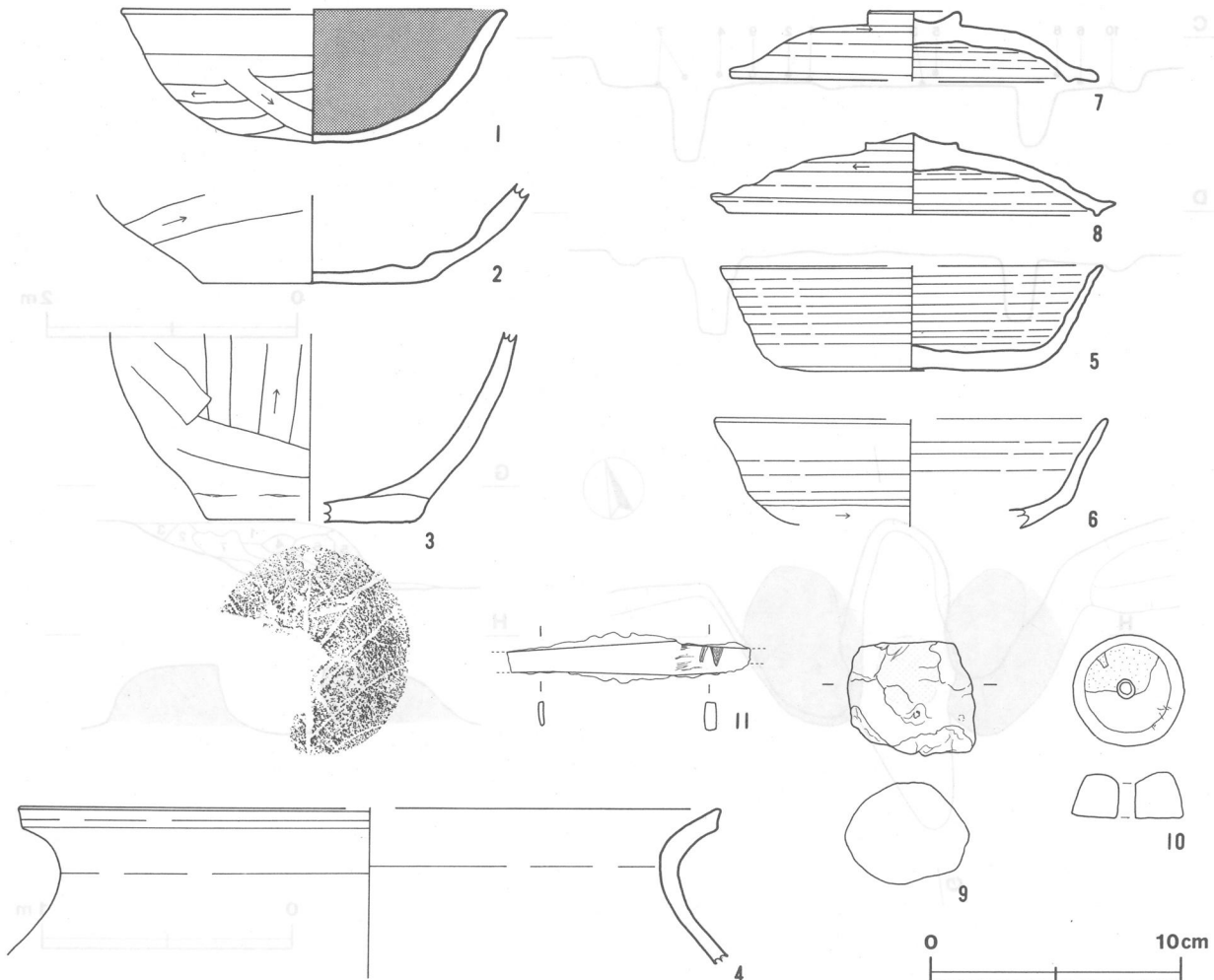
竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は長さ127cm、袖幅155cm、壁外への掘り込みは18cmで、平面形は逆U字形である。袖部は、粘土・山砂・ローム粒子で構築している。火床部はわずかに掘りくぼめられ、煙道部は火床部奥に向かってなだらかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
- 4 明赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
- 5 明赤褐色 焼土粒子・山砂少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、山砂微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、粘土微量
- 10 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁・P₂は、径42~45cmの円形、深さ62~64cm、断面形は逆台形である。P₃・P₄は径30~35cmの円形、深さ47~50cm、断面形は逆台形である。いずれも支柱穴と思われる。P₅は南側中央の壁際から推定で約50cmほど内側に位置し、竈とほぼ同一直線上にある。掘り方は径32~40cmの楕円形、深さ42cmで、出入口口施設に伴うピットと考えられる。P₆は、長径65cm、短径25cmの楕円形で、性格不明のピットである。

覆土 5層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む人為堆積である。



第13図 第4号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1	褐	色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
2	褐	色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大・中ブロック微量
3	暗褐	色	焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
4	褐	色	炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
5	褐	色	炭化粒子・ローム粒子・山砂微量

遺物 土師器片186点, 須恵器片19点, 石製品1点, 鉄製品1点が出土している。第13図1の土師器坏は中央部やや北側の床面から, 2の土師器甕は竈右袖前面部の覆土中層から, 3の土師器甕は竈左袖前面部の床面から, 4の土師器甕はP₁西側の覆土中層から, 5の須恵器坏は竈左袖西側の覆土中層から, 6の須恵器坏は西側中央の覆土中層からそれぞれ出土している。7の須恵器蓋はP₁東側から南側にかけての覆土中層から床面にかけて出土している。8の須恵器蓋はP₄北西側の覆土中層から, 9の土製支脚はP₁南西側の覆土中層から, 10の石製紡錘車は, 西側中央の床面から出土している。11の刀子は南東側の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物と重複関係から奈良時代と思われる。須恵器蓋にかえりが付くことから, 奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	坏 土師器	A 15.4 B 5.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 に ぶ い 橙 色 普 通	P16 P L12 60% 中央部やや北側 床面
2	甕 土師器	B (4.0) C 9.0	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下半ヘラ削り。体部内面摩滅。	石英・雲母・スコリア 橙 色 普 通	P17 P L11 15% 竈右袖前面部覆 土中層
3	甕 土師器	B (7.6) E [8.4]	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下半ヘラ削り。体部内面一部剥離。底部外面に木葉痕。	石英・雲母・スコリア 橙 色 普 通	P18 P L12 20% 竈左袖前面部床 面
4	甕 土師器	A [28.0] B (6.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア に ぶ い 褐 色 普 通	P19 P L12 5% P ₁ 西側覆土中 層
5	坏 須恵器	A [15.3] B 4.2 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外上方へ直線的に立ち上がり, 口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。体部下 端手持ちヘラ削り。底部不定 方向の手持ちヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 橙 色 普 通	P20 P L12 80% 竈左袖西側覆土 中層
6	坏 須恵器	A [15.8] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がり, 口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。体部下 端手持ちヘラ削り。	長石・雲母・スコリア に ぶ い 黄 橙 色 良 好	P21 P L12 15% 西側中央覆土中 層
7	蓋 須恵器	A 16.2 B 3.3 C 3.8 G 0.8	口縁部一部欠損。擬宝珠状のつまみが付く。天井部は低く丸く, 口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部 内面ロクロナデ。	長石・雲母 灰 色 普 通	P22 P L12 80% P ₁ 東側 から南側の覆土 中層から床面
8	蓋 須恵器	A [14.8] B 2.8 F 3.8 G 0.6	口縁部一部欠損。ボタン状のつまみが付く。天井部は笠形をしている。口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部 内面ロクロナデ。	長石・雲母・スコリア 灰 黄 色 普 通	P23 P L12 45% P ₄ 北西側覆土 中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第13図9	支脚	(4.5)	4.8~5.4	4.0	(109.1)	P ₁ 南西側覆土中層	D P14 20% P L18

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第13図10	紡錘車	(4.5)	1.9	0.7	(46.1)	粘板岩	西側中央床面	Q 1 95% P L20

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第13図11	刀子	(9.7)	2.1	0.2~1.3	(15.2)	南東側覆工中	M2	PL21

第5号住居跡 (第14図)

位置 調査3区西部, C6h6区。

重複関係 第4号住居跡を掘り込み, 第3号溝に掘り込まれていることから, 第4号住居跡より新しく, 第3号溝より古い。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸3.70mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-25°-E

壁 壁高は約8~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 主柱穴の内側を中心に踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ108cm, 袖幅128cmで, 壁外への掘り込みは30cmである。袖・煙道部の遺存状況は良好であり, 袖部は粘土と山砂を混ぜて構築されている。火床部は長径42cm, 短径30cmの楕円形で浅く掘りくぼめられている。煙道部は, 火床部奥から約32度の角度で立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 砂少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック微量 |
| 3 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック少量, 砂粒子微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック中量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子微量 | | |

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁・P₂は, 径22~36cmの円形, 深さ20~21cm, 断面形は逆台形である。P₃・P₄は径16~22cmの円形, 深さ31~32cm, 断面形は逆台形である。いずれも主柱穴と思われる。P₅は南側中央の壁際から推定で約100cmほど内側に位置し, 竈とほぼ同一直線上にある。掘り方は径15~25cmの楕円形, 深さ9~13cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

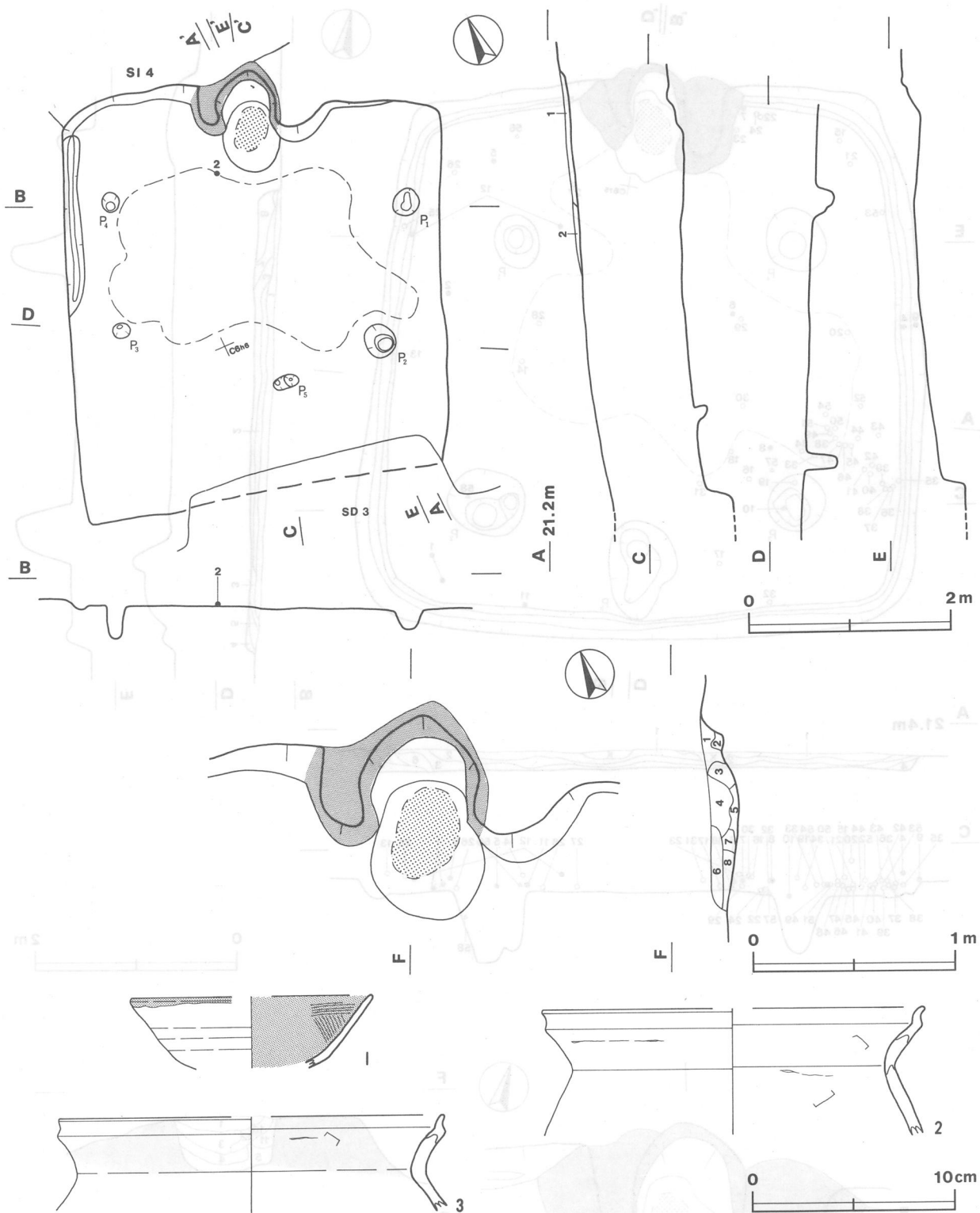
- | | |
|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |

遺物 土師器片40点, 須恵器片1点, 礫2点が出土している。第14図1の土師器坏は覆土中から, 2の土師器甕は竈左袖前面部の床面から, 3の土師器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代の9世紀後葉と思われる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	坏 土師器	A [12.0] B 3.5	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面・外面一部黒色処理。	石英 にぶい橙色 普通	P24 PL12 5% 覆土中
2	甕 土師器	A 19.0 B (6.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P25 PL12 5% 竈左袖前面部床面
3	甕 土師器	A [19.2] B (4.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P26 PL12 5% 覆土中



第14図 第5号住居跡，出土遺物実測図

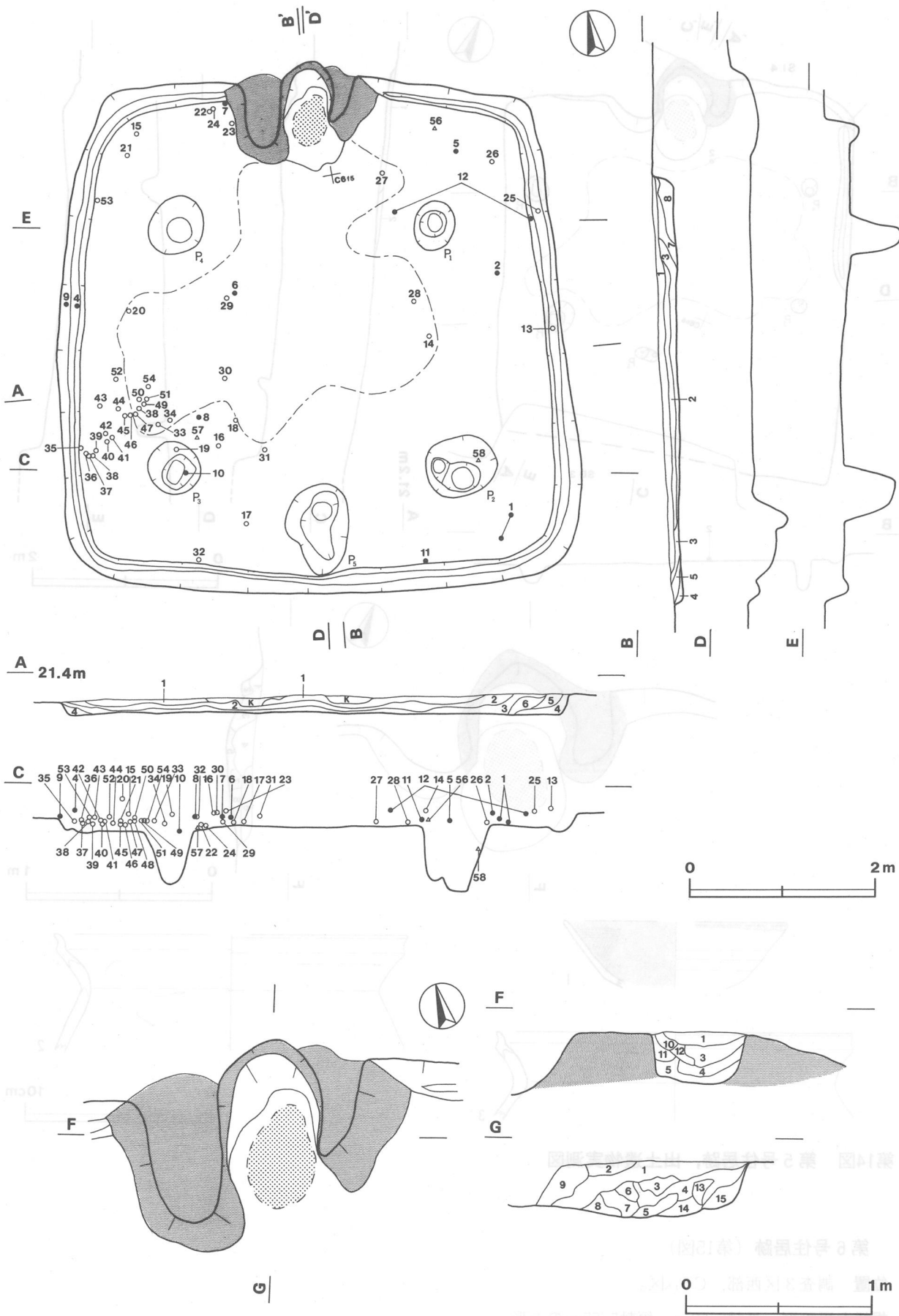
第6号住居跡 (第15図)

位置 調査3区西部，C6f5区。

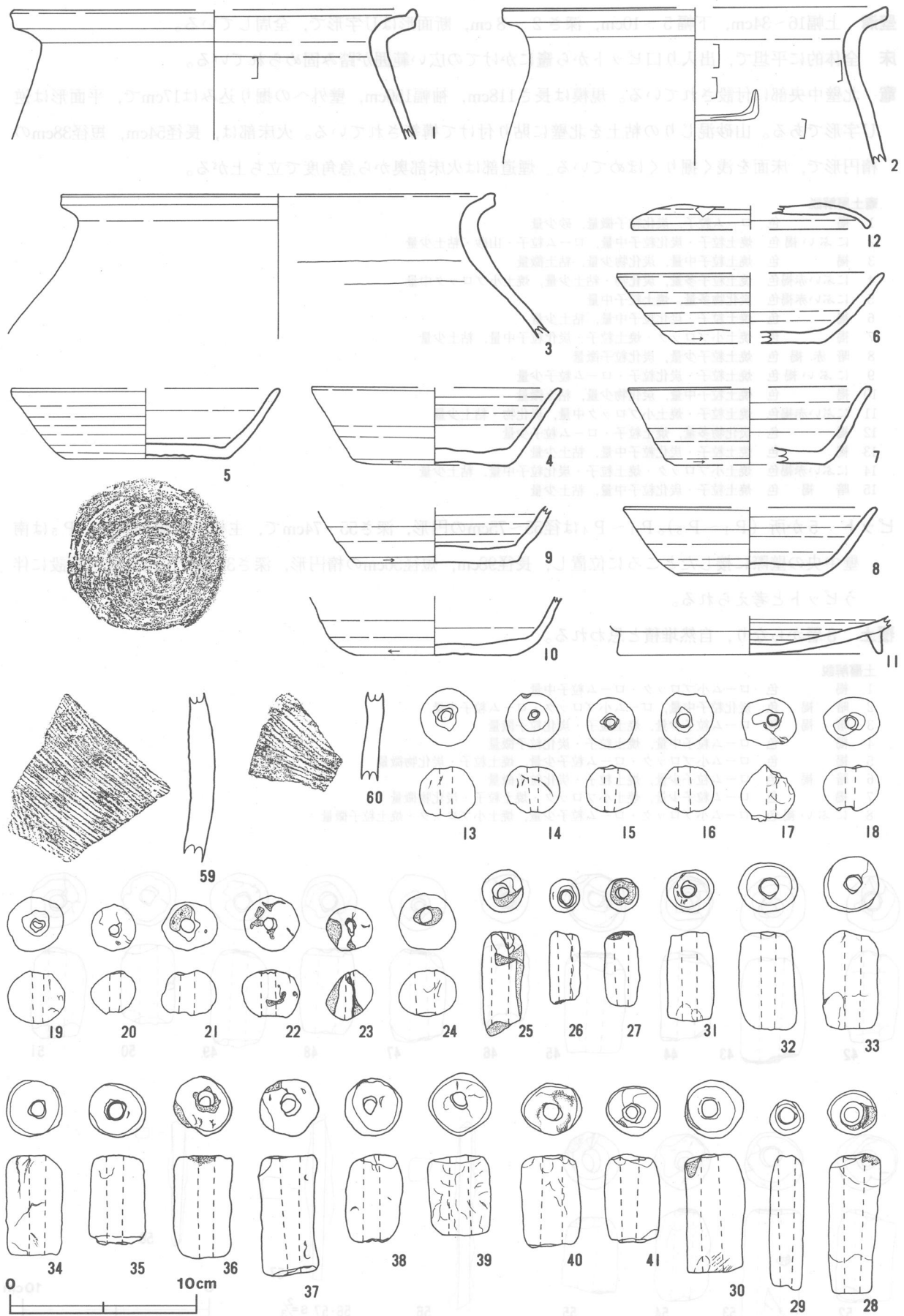
規模と平面形 長軸5.60m，短軸5.55mの方形。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は12~22cmで，外傾して立ち上がる。



第15图 第6号住居跡実测图



第16図 第6号住居跡出土遺物実測図(1)

壁溝 上幅16~34cm, 下幅5~10cm, 深さ2~8cm, 断面形はU字形で, 全周している。

床 全体的に平坦で, 出入り口ピットから竈にかけての広い範囲が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ118cm, 袖幅150cm, 壁外への掘り込みは17cmで, 平面形は逆U字形である。山砂混じりの粘土を北壁に貼り付けて構築されている。火床部は, 長径54cm, 短径38cmの楕円形で, 床面を浅く掘りくぼめている。煙道部は火床部奥から急角度で立ち上がる。

竈土層解説

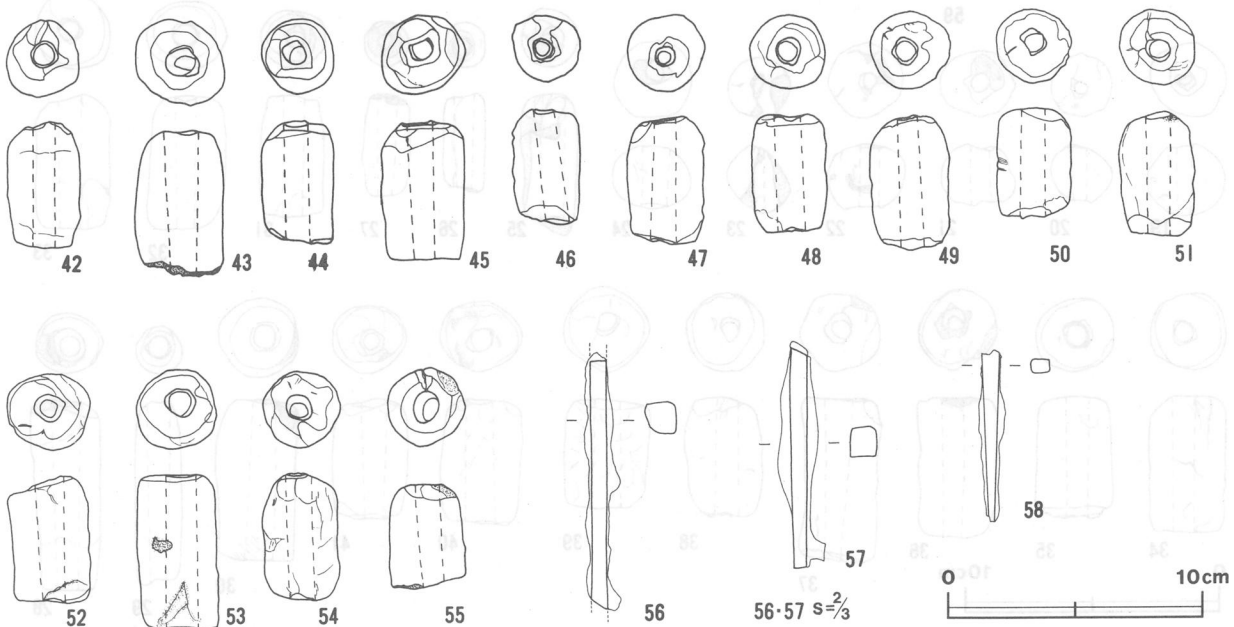
- | | | |
|----|--------|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子, 炭化粒子微量, 砂少量 |
| 2 | にぶい褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・山砂・粘土少量 |
| 3 | 褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量, 粘土微量 |
| 4 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物・粘土少量, 焼土小ブロック中量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 炭化物多量, 焼土粒子中量 |
| 6 | 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土少量 |
| 7 | 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土少量 |
| 8 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 9 | にぶい褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 10 | 褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量, 粘土微量 |
| 11 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック中量, 炭化物・粘土少量 |
| 12 | 褐色 | 炭化物多量, 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 13 | 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土少量 |
| 14 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土少量 |
| 15 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径55~75cmの円形, 深さ55~74cmで, 主柱穴と思われる。P₅は南壁中央の壁際に接したところに位置し, 長径98cm, 短径50cmの楕円形, 深さ39cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | |
|---|-------|----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 | 暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 8 | にぶい褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |



第17図 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

(1) 図版実測出土遺物番号の表 図61表

遺物 土師器片615点, 須恵器片126点, 土製品43点, 不明鉄製品3点が出土している。第16~17図1の土師器甕は南東コーナー部の覆土中層から, 2の土師器甕は東壁側の覆土上層から, 3の土師器甕は北側の覆土中から出土している。4の須恵器坏は西側壁溝の覆土上層から出土している。5の須恵器坏は北東コーナー部の覆土下層から出土している。6の須恵器坏は中央部の覆土上層から出土している。7の須恵器坏は竈左袖西側の覆土上層から, 8の須恵器坏はP₃北側の覆土中層から, それぞれ出土している。9の須恵器坏は西側の壁溝の覆土上層から, 10の須恵器坏はP₃内の覆土上層から, 11の須恵器盤は南壁東側の覆土中層からそれぞれ出土している。12の須恵器坏はP₁の東側から西側にかけての覆土上層から出土している。13~24の土玉は中層から上層にかけて出土し, 25~55の管状土錘は西壁側の覆土中層から上層にかけて集中して出土している。56の鉄釘は北壁東側の覆土中層から, 57の鉄釘はP₃北側の覆土下層から, 58の鉄釘はP₂内の覆土中層から, それぞれ出土している。59・60は須恵器甕の体部片で, 外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と思われる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	甕 土師器	A [22.0] B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P28 P L12 5% 南東コーナー覆 土中層
2	甕 土師器	A [20.8] B (8.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい橙色 普通	P29 P L12 5% 東壁側覆土上層
3	甕 土師器	A [23.4] B (7.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	石英・雲母 橙色 普通	P30 5% 北側覆土中
4	坏 須恵器	A [13.5] B 4.3 C 8.3	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石・スコリア・ 針状鉱物 灰色 普通	P31 P L12 60% 西側壁溝覆土上 層
5	坏 須恵器	A [14.4] B 3.8 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	長石・砂粒 灰色 普通	P33 P L12 20% 北東コーナー覆 土下層
6	坏 須恵器	A [14.4] B 3.8 C 8.7	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P32 P L12 40% 中央部覆土上層
7	坏 須恵器	A [13.2] B 4.2 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・小礫 灰色 普通	P34 P L12 20% 竈左袖側覆土上 層
8	坏 須恵器	A [13.8] B 3.7 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	長石・石英・小礫 灰黄色 普通	P35 P L12 15% P ₃ 北側覆土中 層
9	坏 須恵器	B 3.0 C 8.8	底部から体部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・小礫 灰オリーブ色 普通	P36 P L12 45% 西側壁溝覆土上 層
10	坏 須恵器	C [8.8]	底部から体部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。転ヘラ削り。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回	長石・石英・スコリア・ 雲母 にぶい黄橙色 普通	P37 P L12 20% P ₃ 内覆土上層
11	盤 須恵器	B 2.0 D 14.4 E 0.8	底部破片。高台部はハの字状に開く。	底部内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。	長石・石英・小礫 灰オリーブ色 普通	P38 P L13 40% 南壁東側覆土中 層
12	蓋 須恵器	A [13.0] B (1.4)	口縁部から天井部にかけての破片。口縁部は短く折り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P27 P L13 40% P ₁ 東側から西 側の覆土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第16図13	土玉	2.8	3.0	0.6~0.7	24.0	東側壁溝中央覆土上層	D P 15 100% P L 19
14	土玉	2.5	2.9	0.4~0.6	22.3	中央部やや東側覆土上層	D P 16 100% P L 19
15	土玉	2.5	2.7	0.5~0.8	17.6	北西コーナー覆土上層	D P 17 100% P L 19
16	土玉	(2.5)	2.9	0.6	(17.6)	P ₃ 北東側覆土上層	D P 18 80% P L 19
17	土玉	3.0	3.0	0.5	18.5	P ₅ 西側覆土下層	D P 19 100% P L 19
18	土玉	2.9	3.0	0.5~0.6	17.6	P ₃ 北東側覆土下層	D P 20 100% P L 19
19	土玉	2.9	3.1	0.5~0.6	24.3	P ₃ 内覆土上層	D P 21 100% P L 19
20	土玉	(2.3)	2.4	0.4~0.5	(12.7)	西壁中央覆土上層	D P 22 95% P L 19
21	土玉	2.5	2.9	0.7~0.8	(12.6)	北西コーナー覆土上層	D P 23 95% P L 19
22	土玉	2.6	3.0	0.7~0.8	22.1	竈左袖側覆土中層	D P 24 100% P L 19
23	土玉	(2.0)	2.4	0.4~0.5	(14.2)	竈左袖側覆土中層	D P 25 95% P L 19
24	土玉	(2.0)	3.1	0.9~1.1	(20.9)	竈左袖側覆土中層	D P 26 95% P L 19
25	管状土錘	(5.6)	2.2	0.8~0.9	(18.3)	東壁溝北側覆土上層	D P 27 80%
26	管状土錘	(3.9)	1.6	0.6~0.8	(10.3)	北東コーナー覆土床面	D P 28 90%
27	管状土錘	4.0	1.8	0.6~0.8	12.5	東壁中央覆土上層	D P 29 100%
28	管状土錘	(3.9)	2.7	0.8~1.2	(51.3)	中央部やや南側覆土上層	D P 30 95%
29	管状土錘	4.0	1.8	0.91~1.2	23.7	南壁側覆土上層	D P 31 100%
30	管状土錘	7.4	2.7	0.8	73.0	中央部やや南側覆土上層	D P 32 100%
31	管状土錘	7.2	1.8	0.7~0.8	31.9	南壁側覆土上層	D P 33 100%
32	管状土錘	6.3	3.2	0.8~0.9	42.7	南壁西側覆土上層	D P 34 100%
33	管状土錘	4.8	2.5	0.8~0.9	55.1	P ₃ 北側覆土上層	D P 35 100%
34	管状土錘	5.3	3.2	0.8~0.9	57.1	P ₃ 北側覆土上層	D P 36 100%
35	管状土錘	5.3	3.2	0.7~0.8	47.9	西壁側覆土中層	D P 37 100%
36	管状土錘	5.4	3.2	0.7~0.8	57.7	西壁側覆土中層	D P 38 100%
37	管状土錘	(6.4)	3.2	0.8~1.1	(73.3)	西壁側覆土中層	D P 39 95%
38	管状土錘	4.6	3.1	0.8~1.0	48.7	西壁側覆土中層	D P 40 100%
39	管状土錘	4.3	3.4	0.8~1.2	53.4	西壁側覆土中層	D P 41 100%
40	管状土錘	4.8	3.2	1.1~1.2	51.5	西壁側覆土中層	D P 42 100%
41	管状土錘	4.7	2.9	0.7~1.0	41.1	西壁側覆土中層	D P 43 100% P L 19
42	管状土錘	5.0	2.9	0.9	44.9	西壁側覆土中層	D P 44 100% P L 19
43	管状土錘	(5.7)	3.5	1.0~1.3	(65.7)	西壁側覆土上層	D P 45 80% P L 19
44	管状土錘	4.8	2.9	0.9	42.4	西壁側覆土上層	D P 46 100% P L 19
45	管状土錘	5.5	3.3	0.8~1.0	65.7	西壁側覆土中層	D P 47 100% P L 19
46	管状土錘	4.5	2.1	0.8	32.1	西壁側覆土中層	D P 48 100% P L 19
47	管状土錘	5.0	3.0	0.8	49.6	西壁側覆土中層	D P 49 100% P L 19
48	管状土錘	4.6	2.9	1.1	42.5	西壁側覆土中層	D P 50 100% P L 19
49	管状土錘	(5.3)	3.0	0.9	(48.9)	西壁側覆土上層	D P 51 95% P L 19
50	管状土錘	4.3	2.9	0.8~1.0	39.8	西壁側覆土上層	D P 52 100% P L 19
51	管状土錘	4.9	2.9	0.9~1.1	45.9	西壁側覆土上層	D P 53 100% P L 19
52	管状土錘	4.9	3.2	1.1~1.2	50.5	西壁側覆土上層	D P 54 100% P L 19
53	管状土錘	6.0	3.2	1.0~1.1	71.3	西壁側覆土上層	D P 55 100% P L 19
54	管状土錘	5.0	3.1	0.9~1.0	45.8	西壁側覆土上層	D P 56 100% P L 19
55	管状土錘	4.1	3.0	1.0~1.1	39.4	覆土中	D P 57 100% P L 19

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第16図56	釘	(5.1)	0.4~0.6	0.7	(5.2)	北壁東側覆土中層	M3
57	釘	(4.5)	0.8	(0.6)	(3.6)	P ₃ 北側覆土下層	M4
58	釘	(8.8)	1.1	0.6	(7.6)	P ₂ 内覆土中層	M5

第8号住居跡 (第18図)

位置 調査3区西部, C6_{g3}区。

重複関係 第9号住居跡の上に構築し, 第3号溝に掘り込まれていることから, 本跡は第9号住居跡より新しく, 第3号溝より古い。

規模と平面形 一辺が4.40mの方形と推定される。

主軸方向 [N-14°-E]

壁 壁高は3~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ100cm, 袖幅120cm, 壁外への掘り込みは30cmで, 平面形は逆U字形である。両袖は粘土を主体として構築されている。火床部は, 長径80cm, 短径65cmの楕円形で, 深さ10cmほどに掘り込まれている。煙道部は, 火床部奥から30度の角度で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・砂少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 砂少量
- 3 にぶい暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径20~40cmの円形, 深さ25~57cmで, 支柱穴と思われる。P₅は, 南壁から約30cm内側に位置し, 竈と同一線上に並んでいる。径13cmの円形, 深さ33cmで, 出入口施設に伴うピットと思われる。

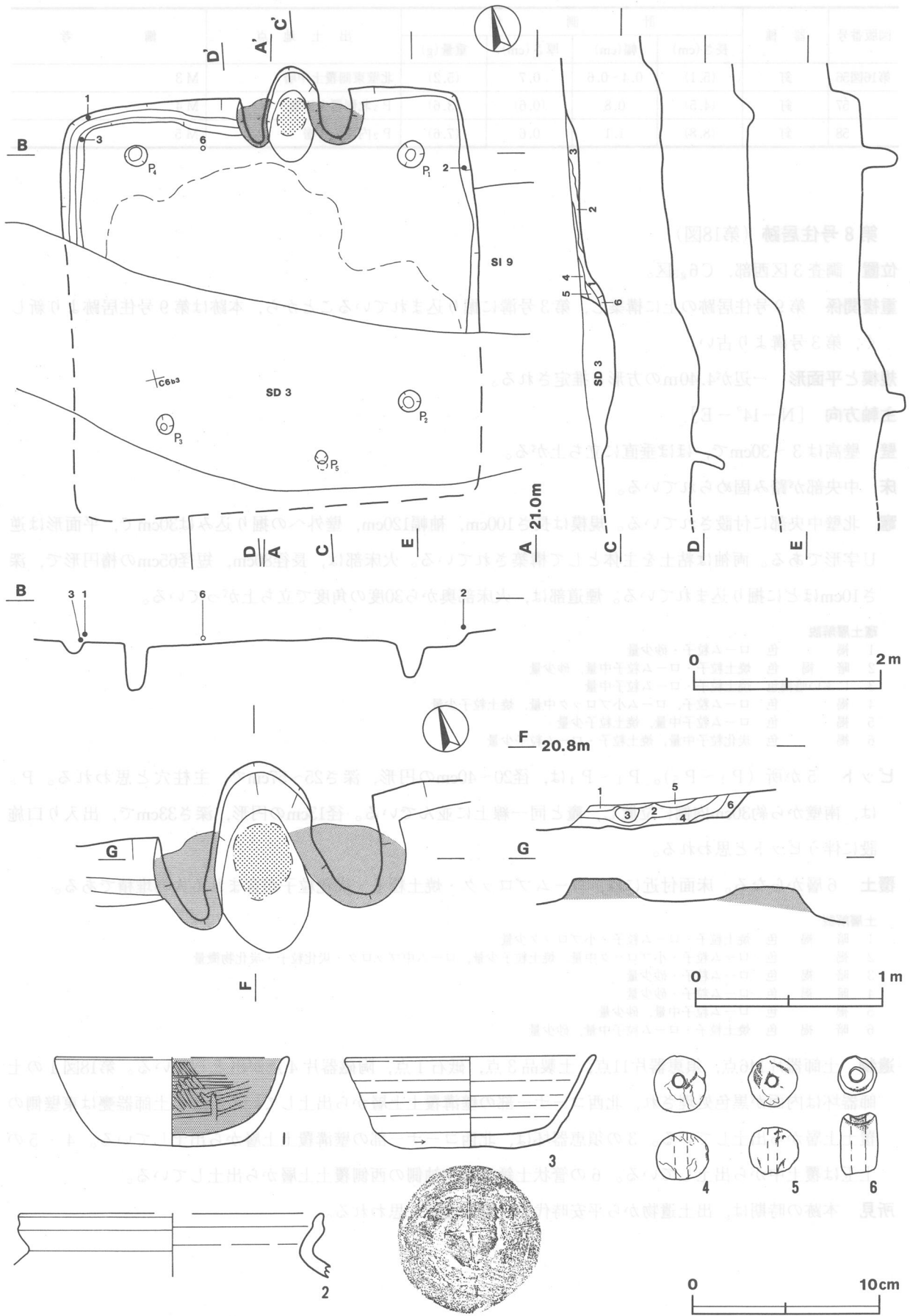
覆土 6層からなる。床面付近には, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子が含まれる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子・小ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・砂少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・砂少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 砂少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 砂少量

遺物 土師器片146点, 須恵器片11点, 土製品3点, 砥石1点, 陶磁器片4点が出土している。第18図1の土師器坏は内面が黒色処理され, 北西コーナー部の壁溝覆土上層から出土している。2の土師器甕は東壁側の覆土上層から出土している。3の須恵器坏は, 北西コーナー部の壁溝覆土上層から出土している。4・5の土玉は覆土中から出土している。6の管状土錘は竈左袖側の西側覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代の9世紀前葉と思われる。



第18図 第8号住居跡，出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	坏 土師器	A [12.7] B 4.8 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 40 60% 北西コーナー壁 溝覆土上層
2	甕 土師器	A [16.4] B (2.4)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に外反し、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 41 P L 13 5% 東壁側覆土上層
3	坏 須恵器	A 13.6 B 4.9 C 8.0	体部一部欠項。平底。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面クロクロナデ。底部回転ヘラ削り。底部外面にヘラ記号有り。	長石・石英・スコリア 針状鉄物 灰色 普通	P 42 P L 13 80% 北西コー ナー壁溝覆土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第18図4	土玉	2.5	2.8	0.6~0.7	21.7	覆土中	D P 59 100%
5	土玉	2.4	2.6	0.5~0.6	16.4	覆土中	D P 60 100% P L 19
6	管状土錘	(3.3)	2.0	0.7~0.8	(13.0)	竈左袖側西側覆土上層	D P 61 95%

第10号住居跡 (第19図)

位置 調査3区南西部, C6₁₁区。

規模と平面形 南側半分以上が調査区域外のため規模や平面形は明らかではないが、現存するのは長軸(4.60)m, 短軸(1.60)mで長方形と推定される。

主軸方向 [N-18°-E]

壁 壁高は1~10cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅11~20cm, 下幅2~4cmで、調査区域外を除いてほぼ巡っている。

床 全体的に凹凸で、ピット周辺は攪乱を受けている。

竈 北壁ほぼ中央部に付設されている。竈の規模は長さ100cm, 袖幅95cm, 壁外への掘り込みは40cmである。遺存状態は良好である。火床部は長径42cm, 短径30cmの楕円形で、深さ10cmほど掘りくぼめている。煙道部は火床部奥から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 砂中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 砂少量
- 3 にぶい赤褐色 砂多量, 焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 砂・焼土粒子多量, 炭化粒子少量

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁は径30cmの円形, 深さ56cmで支柱穴と思われる。P₂は, 径20cmの円形, 深さ47cmで補助柱穴と思われる。

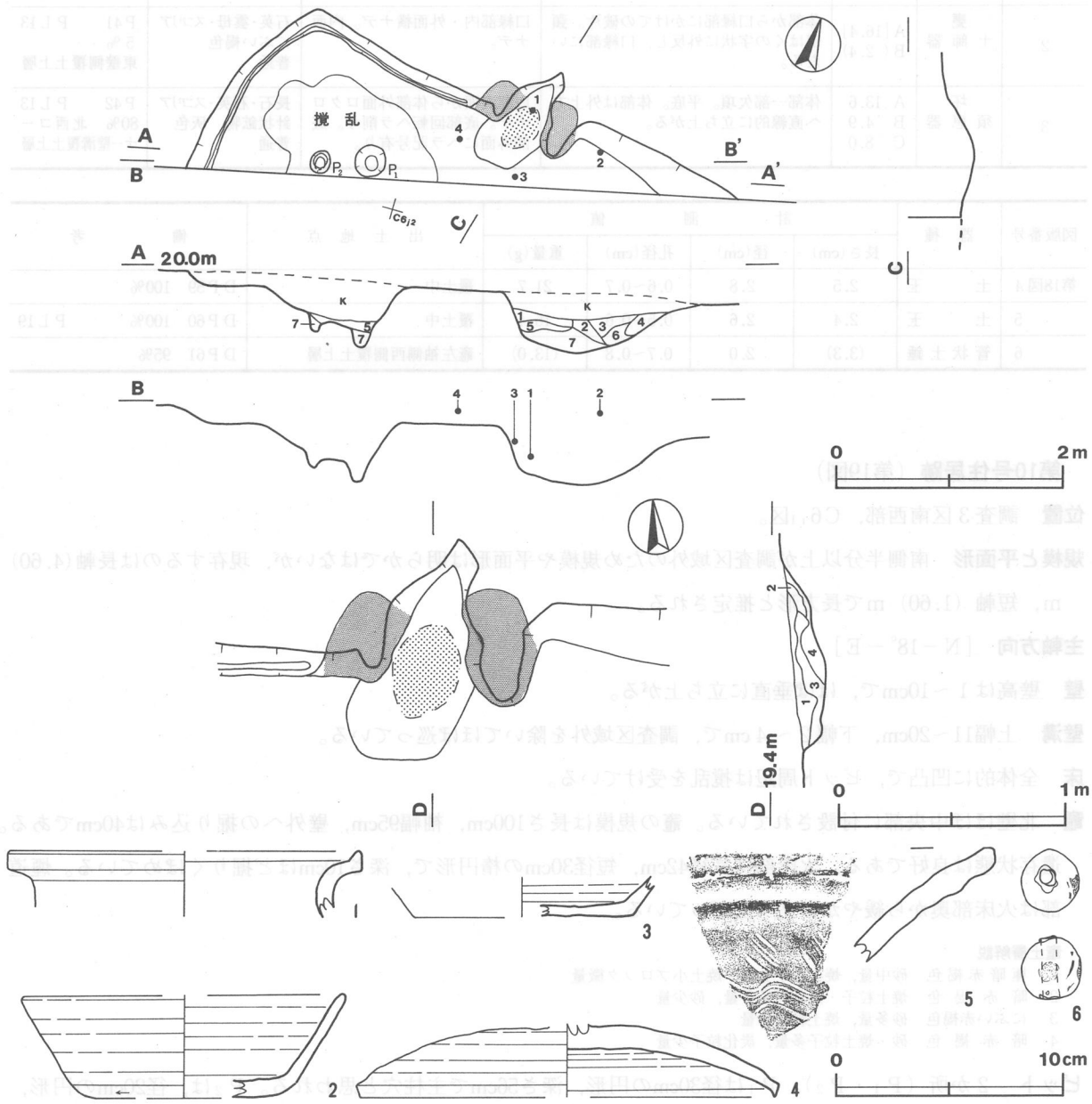
覆土 7層からなり, 人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片31点, 須恵器片8点, 土玉1点, 軽石2点が出土している。第19図1の土師器甕は竈内中央の覆土中層から, 2の須恵器坏は竈右袖側の覆土上層から, 3の須恵器坏は竈前面部の覆土上層から, 4の須恵器蓋は, 竈左袖前面部の覆土上層から, それぞれ出土している。5は須恵器甕の口縁部で, 外面には, 3

本櫛歯の波状文と平行文が施されている。6の土玉は、北側の覆土中から出土している。
 所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀後葉と思われる。



第19図 第10号住居跡，出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	甕 土師器	A [15.8] B (2.9)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に外反し、口縁部にいたる。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P45 P L13 5% 竈内覆土中層
2	坏 須恵器	A [14.4] B 4.6 C [8.6]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。	長石・石英・針状 鉍物 灰色 普通	P46 P L13 40% 竈右袖側覆土上層
3	坏 須恵器	B (1.8) C [9.6]	底部から体部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	P47 P L13 5% 竈前面部覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 4	蓋 須恵器	A [18.8] B (3.2)	口縁部から天井部にかけての破片。 天井部は低く丸く、口縁部は短く折 り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部 内・外面ロクロナデ。口縁部 内面の一部に自然釉。	長石・石英 黄灰色 普通	P48 P L13 40% 竈左袖前面部覆 土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第19図6	土玉	2.8	2.6	0.7~0.8	18.3	覆土中	D P62 100% P L19

第11号住居跡 (第20図)

位置 調査2区西部, D2_{a7}区。

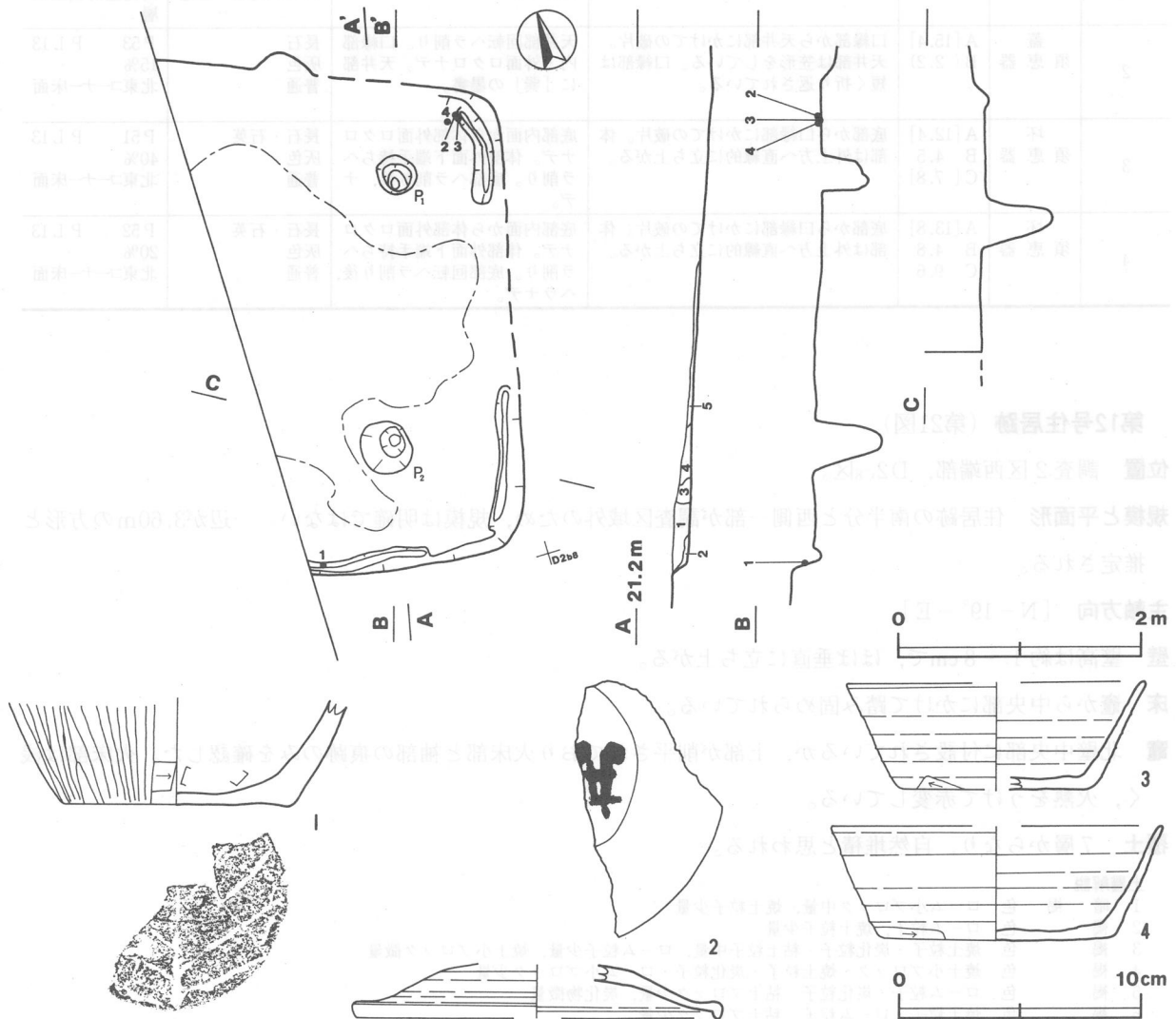
規模と平面形 北西部が調査区域外のため規模や平面形は明らかでなく、現存するのは長軸(4.07)m、短軸(2.67)mである。

主軸方向 [N-13°-E]

壁 壁高は4~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅10~20cm,下幅5~12cm,深さ4~6cm,断面形はU字形で、北東側と南東コーナーを巡っている。

床 中央部が踏み固められている。



第20図 第11号住居跡, 出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。ほとんどは削平されているので、痕跡のみ確認できる。

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁は、長径30cm、短径35cmの楕円形、深さ38cm、P₂は長径45cm、短径40cmの楕円形、深さ55cmで支柱穴と思われる。

覆土 5層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、鹿沼土少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片24点、須恵器片7点が出土している。第20図1の土師器甕は南側壁溝中央部の覆土上層から、墨書のある2の須恵器蓋は、北東コーナー部の床面から、3・4の須恵器坏は北東コーナー部の床面から重なり、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀後葉と思われる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	甕 土師器	B(4.5) C[9.4]	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。木葉痕有り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P50 PL14 10% 南側壁溝覆土上層
2	蓋 須恵器	A[15.4] B(2.2)	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は笠形をしている。口縁部は短く折り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。天井部に「巽」の墨書。	長石 灰色 普通	P53 PL13 15% 北東コーナー床面
3	坏 須恵器	A[12.4] B 4.5 C[7.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P51 PL13 40% 北東コーナー床面
4	坏 須恵器	A[13.8] B 4.8 C 9.6	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	長石・石英 灰色 普通	P52 PL13 20% 北東コーナー床面

第12号住居跡 (第21図)

位置 調査2区西端部、D2c8区。

規模と平面形 住居跡の南半分と西側一部が調査区域外のため、規模は明確ではない。一辺が3.60mの方形と推定される。

主軸方向 [N-19°-E]

壁 壁高は約1~8cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 竈から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されているが、上部が削平されており火床部と袖部の痕跡のみを確認した。火床部は浅く、火熱をうけて赤変している。

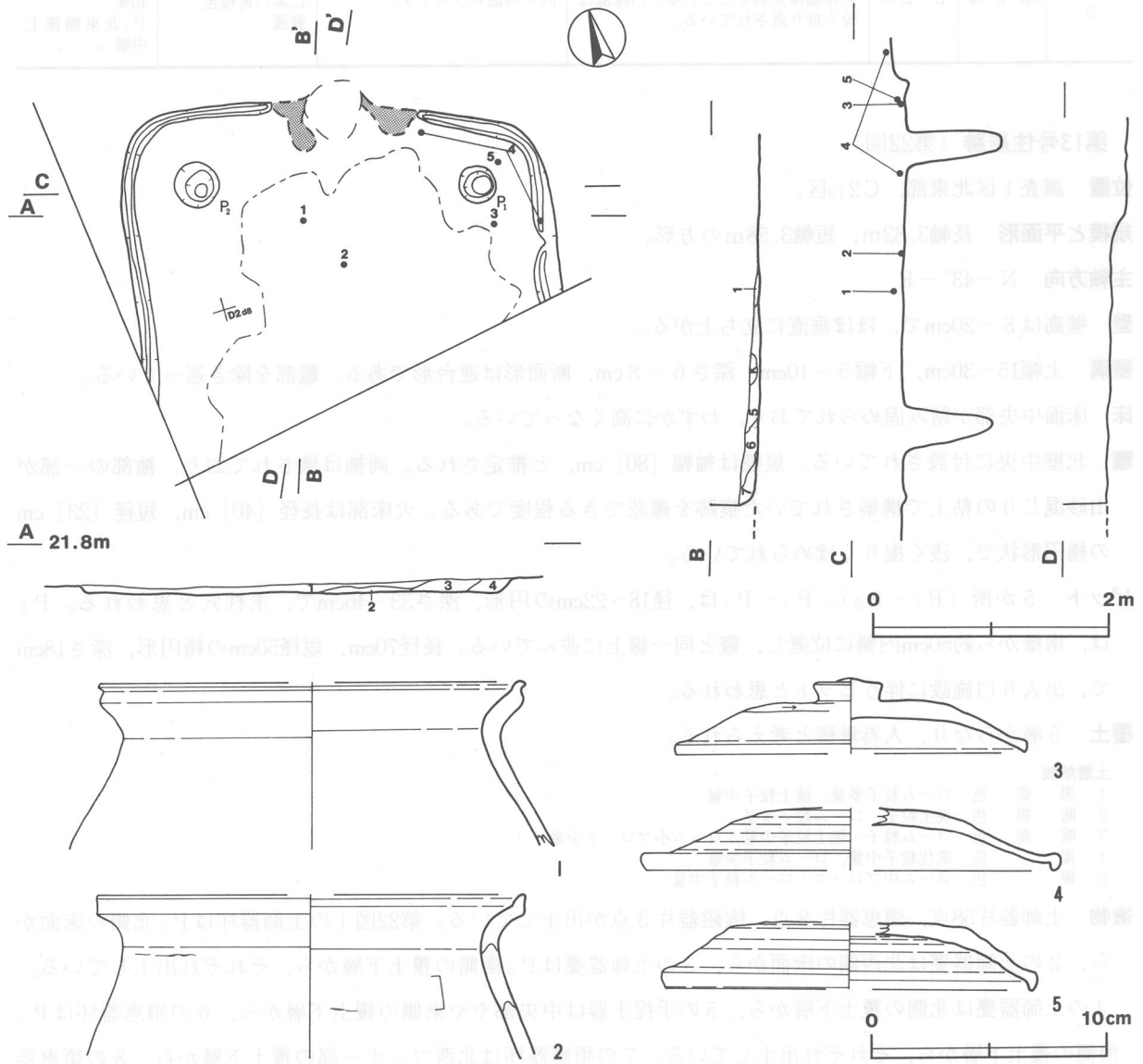
覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子、焼土粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 6 褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土ブロック少量
- 7 暗 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片25点, 須恵器片5点, 鉄製品3点が出土している。第21図1の土師器甕は中央部やや北側の覆土中層から, 2の土師器甕は中央部の床面から, それぞれ出土している。3の須恵器蓋はP₁南側の床面から, 4の須恵器蓋は竈右袖部側から東壁の覆土下層にかけて出土している。5の須恵器蓋はP₁北東側の覆土中層から出土している。また, 覆土中から出土した甕の頸部片は, 180m東に位置する第1号住居跡から出土した甕の体部と接合した。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から奈良時代の8世紀後葉と思われる。



第21図 第12号住居跡, 出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	甕 土師器	A [18.2] B (7.1)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に外反し, 口縁部にいたる。口縁端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	石英・雲母に多い黄褐色普通	P54 PL13 5% 中央部やや北側覆土中層
2	甕 土師器	A [18.2] B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に外反し, 口縁部にいたる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰色普通	P55 PL13 10% 中央部床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 3	蓋 須恵器	A [15.0] B 3.2 F 2.9 G 1.0	口縁部から天井部にかけての破片。扁平な擬宝珠状のつまみが付く。天井部は笠形をしている。口縁部は短く折り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 56 P L13 30% P ₁ 南側床面
4	蓋 須恵器	A [18.0] B (2.7)	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は笠形をしている。口縁部は短く折り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 灰色 普通	P 57 P L13 20% 竈右袖側から東 壁側覆土下層
5	蓋 須恵器	A [16.0] B (2.8)	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は笠形をしている。口縁部は短く折り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 58 P L13 40% P ₁ 北東側覆土 中層

第13号住居跡（第22図）

位置 調査1区北東部，C2₃区。

規模と平面形 長軸3.82m，短軸3.58mの方形。

主軸方向 N-43°-E

壁 壁高は8~20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅15~30cm，下幅5~10cm，深さ6~8cm，断面形は逆台形である。竈部を除き巡っている。

床 床面中央部が踏み固められており，わずかに高くなっている。

竈 北壁中央に付設されている。規模は袖幅 [80] cm，と推定される。両袖は壊されており，袖部の一部が山砂混じりの粘土で構築されていた痕跡を確認できる程度である。火床部は長径 [40] cm，短径 [23] cmの楕円形状で，浅く掘りくぼめられている。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は，径18~22cmの円形，深さ33~46cmで，支柱穴と思われる。P₅は，南壁から約50cm内側に位置し，竈と同一線上に並んでいる。長径70cm，短径50cmの楕円形，深さ18cmで，出入口施設に伴うピットと思われる。

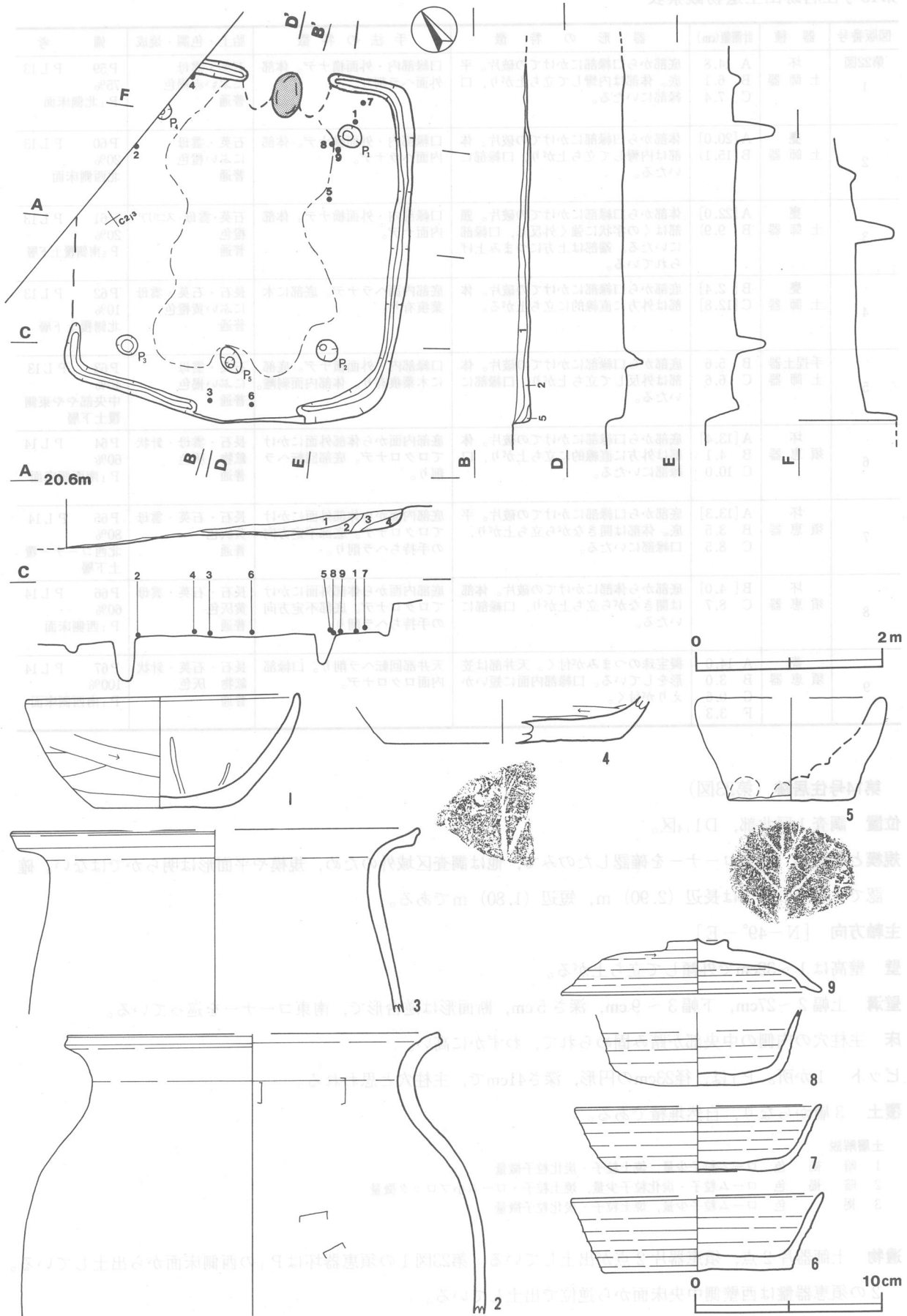
覆土 5層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---|---|----|-------------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子中量 |
| 2 | 暗 | 褐色 | 焼土粒子，ローム粒子少量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 4 | 褐 | 色 | 炭化粒子中量，ローム粒子少量 |
| 5 | 褐 | 色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |

遺物 土師器片58点，須恵器片8点，陶磁器片3点が出土している。第22図1の土師器坏はP₁北側の床面から，2の土師器甕は北西側の床面から，3の土師器甕はP₅南側の覆土下層から，それぞれ出土している。4の土師器甕は北側の覆土下層から，5の手捏土器は中央部やや東側の覆土下層から，6の須恵器坏はP₅南側の覆土下層から，それぞれ出土している。7の須恵器坏は北西コーナー部の覆土下層から，8の須恵器坏はP₁西側の床面から，それぞれ出土している。9の須恵器蓋はP₁南西側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と思われる。



第22図 第13号住居跡，出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	坏 土師器	A 14.8 B 6.1 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P59 PL13 75% P ₁ 北側床面
2	甕 土師器	A [20.0] B (15.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P60 PL13 20% 北西側床面
3	甕 土師器	A [22.0] B (9.9)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に強く外反し、口縁部にいたる。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P61 PL13 20% P ₅ 南側覆土下層
4	甕 土師器	B [2.4] C [12.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外方に直線的に立ち上がる。	底部内面ヘラナデ。底部に木葉痕有り。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P62 PL13 10% 北側覆土下層
5	手握土器 土師器	B 5.6 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。体部は外反して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。底部に木葉痕有り。体部内面剥離。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P63 PL13 40% 中央部やや東側 覆土下層
6	坏 須恵器	A [13.4] B 4.1 C 10.0	底部から口縁部にかけての破片。体部は外方に直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面にかけてロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母・針状 鉱物 灰色 普通	P64 PL14 60% P ₁ 南西側床面
7	坏 須恵器	A [13.3] B 3.5 C 8.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面にかけてロクロナデ。底部不定方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P65 PL14 80% 北西コーナー覆 土下層
8	坏 須恵器	B [4.0] C 8.7	底部から体部にかけての破片。体部は開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面にかけてロクロナデ。底部不定方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P66 PL14 60% P ₁ 西側床面
9	蓋 須恵器	A 14.0 B 3.0 G 0.6 F 3.3	擬宝珠のつまみが付く。天井部は笠形をしている。口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内面ロクロナデ。	長石・石英・針状 鉱物 灰色 普通	P67 PL14 100% P ₁ 南西側床面

第14号住居跡 (第23図)

位置 調査1区北部, D1₁₄区。

規模と平面形 南東コーナーを確認したのみで、他は調査区域外のため、規模や平面形は明らかではない。確認できた壁の長さは長辺 (2.90) m, 短辺 (1.80) mである。

主軸方向 [N-49°-E]

壁 壁高は1~32cmで外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅2~27cm, 下幅3~9cm, 深さ5cm, 断面形は逆台形で、南東コーナーを巡っている。

床 支柱穴の内側の中央部が踏み固められて、わずかに高い。

ピット 1か所。P₁は、径23cmの円形、深さ41cmで、支柱穴と思われる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

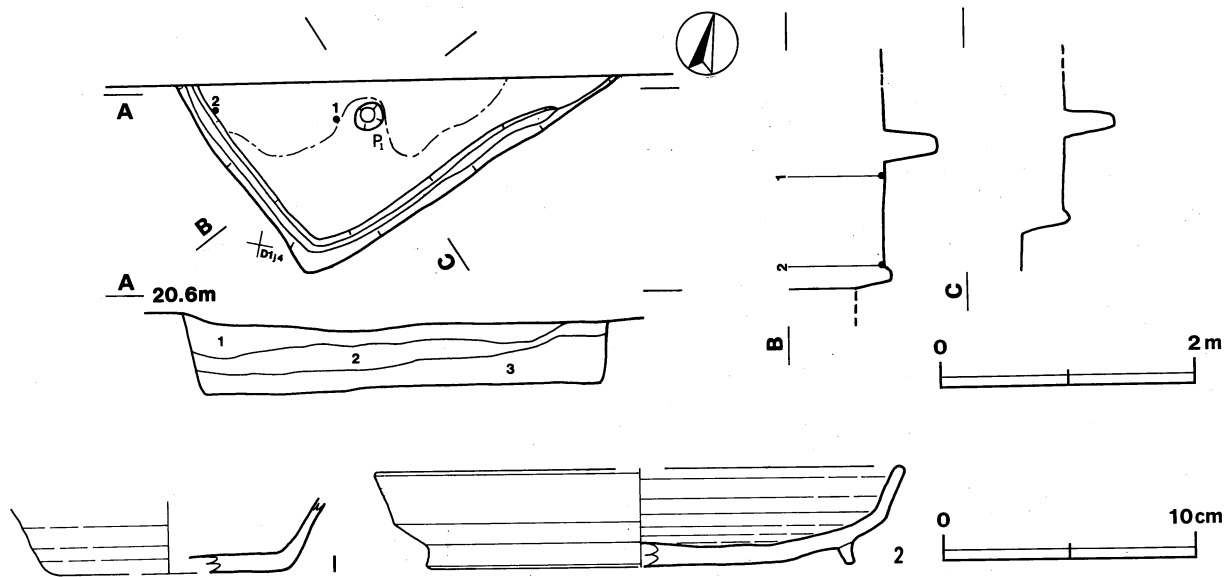
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片2点, 須恵器片2点が出土している。第23図1の須恵器坏はP₁の西側床面から出土している。

2の須恵器盤は西壁側中央床面から逆位で出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なく時期を判断するのは困難であるが、奈良時代の8世紀前葉と思われる。



第23図 第14号住居跡，出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	坏 須恵器	B (2.9) C [9.6]	底部から体部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	長石・石英・スコリア・雲母 に お い い 黄 橙 色 普 通	P68 PL14 10% P1西側床面
2	盤 須恵器	A [21.0] B 3.9 D [17.0] E 1.0	底部から口縁部にかけての破片。高台部はハの字状に開く。	底部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・小礫 灰オリーブ色 普通	P69 PL14 30% 西壁側中央部床面

第15号住居跡（第24図）

位置 調査2区東部，C5₁₆区。

規模と平面形 長軸2.81m，短軸2.80mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は34~54cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西コーナーの壁下と東側半分の壁下を巡っている。上幅7~40cm，下幅10~12cm，深さ4cm，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ185cm，袖幅145cmで，壁外への掘り込みは20cmである。袖部は山砂混じりの粘土で構築されている。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 砂少量，炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐 色 炭化粒子・ローム粒子微量，焼土粒子中量，砂少量
- 3 暗 褐 色 山砂少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

ピット 確認できなかった。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。径45cmの円形，深さ38cmである。断面形は逆台形である。

覆土 7層からなり，人為堆積と思われる。

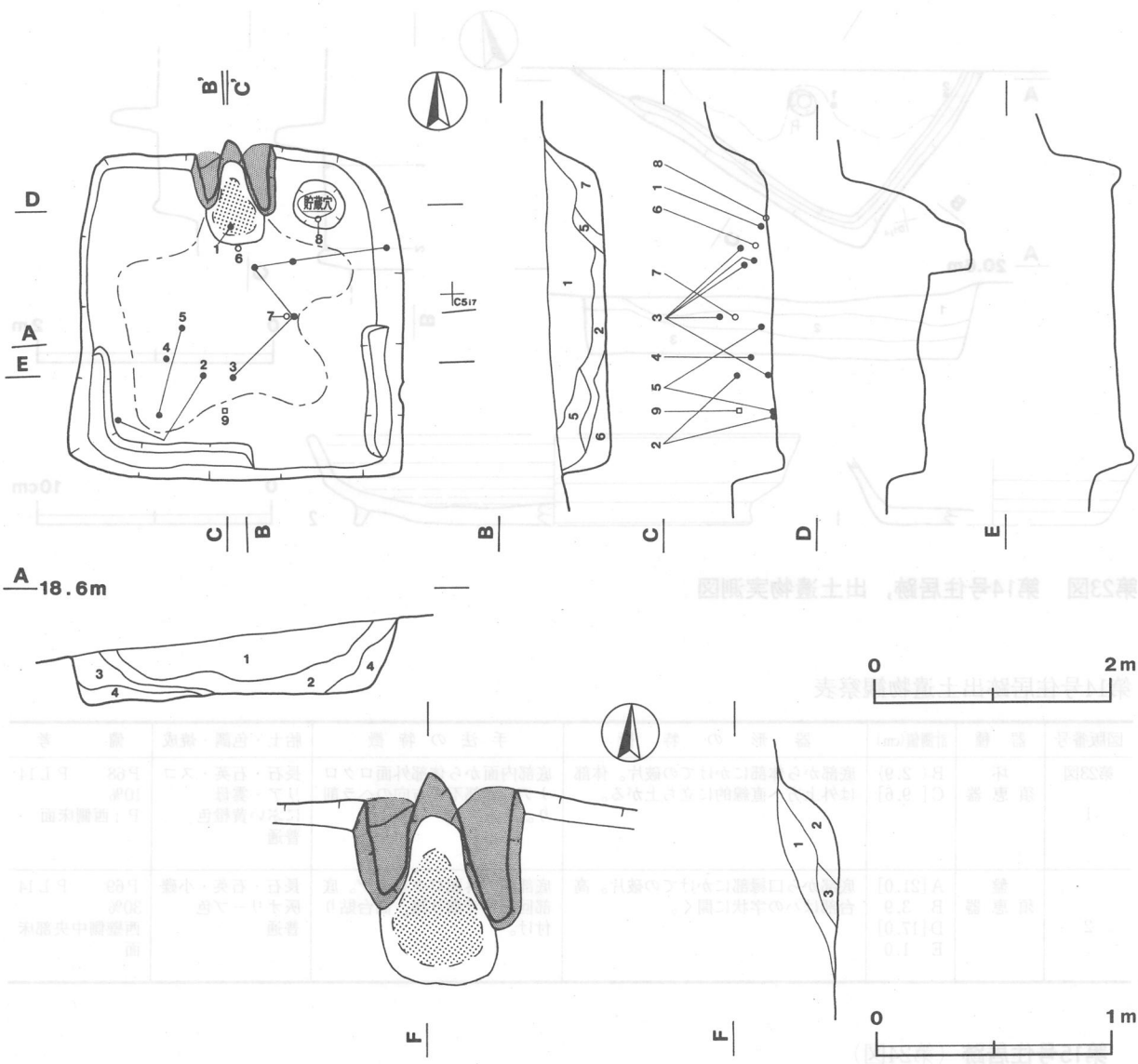


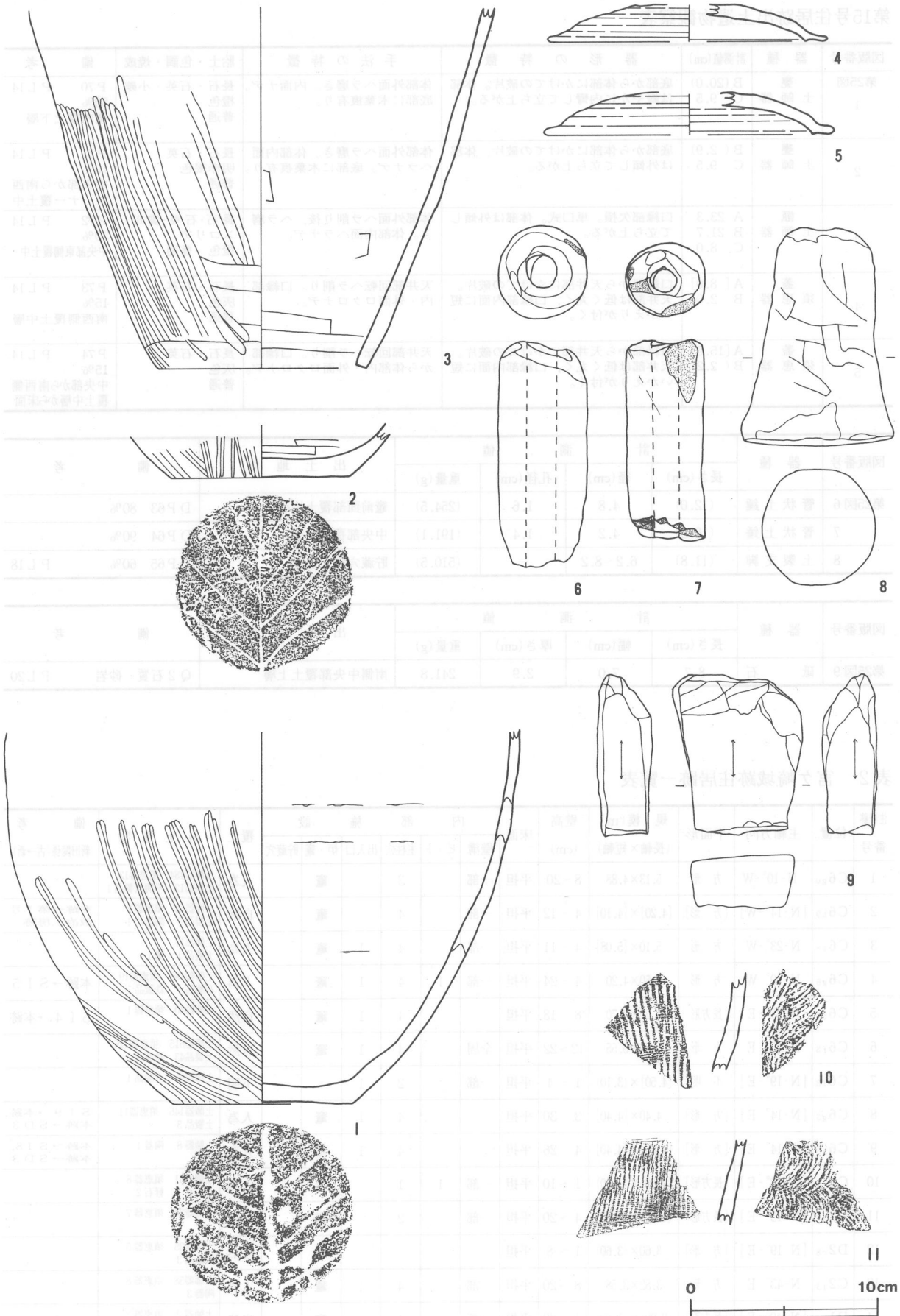
図23 第15号住居跡実測図

第24図 第15号住居跡実測図

- 土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
 - 2 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
 - 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
 - 4 褐色 ローム粒子少量
 - 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
 - 6 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量
 - 7 褐色 焼土粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片200点，須恵器片4点，砥石1点が出土している。第25図1の土師器甕は，底部から体部にかけての破片であり，竈内の覆土下層から出土している。2の土師器甕は，中央部から南西コーナー部の覆土中層から床面にかけて出土している。3の土師器甕は中央部東側の覆土中層から床面にかけて出土している。4の須恵器蓋は南西側の覆土中層から出土している。5の須恵器蓋は中央部から南西側の覆土中層から床面にかけて出土している。6・7の管状土錘は竈や中央部付近の覆土中層から上層にかけて出土している。8の土製支脚は貯蔵穴の覆土上層から出土している。9の砥石は，南側中央の覆土上層から出土している。10・11は須恵器甕の体部片で，外面に格子目状の叩きが，内面に同心円状の当て具痕を残している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と思われる。



第25図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	甕 土師器	B (20.0) C 9.5	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ナデ。底部に木葉痕有り。	長石・石英・小礫 橙色 普通	P 70 P L 14 50% 甕内覆土下層
2	甕 土師器	B (2.9) C 9.5	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部に木葉痕有り。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 71 P L 14 10% 中央部から南西 コーナー覆土中
3	甗 土師器	A 23.3 B 21.7 C 8.0	口縁部欠損。単口式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 72 P L 14 30% 中央部東側覆土中
4	蓋 須恵器	A [8.0] B 2.0	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は低く丸く、口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 73 P L 14 15% 南西側覆土中層
5	蓋 須恵器	A [15.6] B (2.2)	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は低く丸く、口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 74 P L 14 15% 中央部から南西側 覆土中層から床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第25図6	管状土錘	(12.0)	4.8	1.6	(254.5)	甕前面部覆土中層	D P 63 80%
7	管状土錘	(10.8)	4.2	1.4	(191.1)	中央部覆土上層	D P 64 90%
8	土製支脚	(11.8)	6.2~8.2	-	(510.5)	貯蔵穴覆土上層	D P 65 60% P L 18

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第25図9	砥石	8.7	7.0	2.9	241.8	南側中央部覆土上層	Q 2 石質 砂岩 P L 20

表2 宮ヶ崎城跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈			
1	C6 _{g0}	N-10°-W	方形	5.13×4.88	8~20	平坦	一部		3		竈	人為	土師器184 須恵器12 土製品12 不明鉄製品1	
2	C6 _{h9}	[N-14°-W]	[方形]	[4.20]×[4.10]	4~12	平坦	一部		4		竈	自然	土師器54 須恵器2 土製品2 陶器片1	本跡→第1号 鍛冶工房跡
3	C6 _{f8}	N-23°-W	方形	5.10×[5.08]	4~11	平坦	一部		4	1	竈	人為	土師器17 土製品1 礫1	
4	C6 _{g6}	N-10°-W	方形	4.50×4.20	4~24	平坦	一部	1	4	1	竈	人為	土師器186 須恵器19 石製品1 鉄製品1	本跡→S I 5
5	C6 _{h6}	N-25°-E	長方形	4.20×3.70	8~18	平坦			4	1	竈	自然	土師器40 須恵器1	S I 4 →本跡
6	C6 _{f5}	N-15°-E	方形	5.60×5.55	12~22	平坦	全周		4	1	竈	自然	土師器615 須恵器126 土製品43 鉄製品3	
7	C6 _{f3}	[N-19°-E]	不明	[4.50]×(3.10)	1~4	平坦	一部		2	1		不明	土師器8 土製品1	
8	C6 _{g3}	[N-14°-E]	[方形]	4.40×[4.40]	3~30	平坦			4	1	竈	人為	土師器146 須恵器11 土製品3	S I 9 →本跡, 本跡→S D 3
9	C6 _{h3}	[N-14°-E]	[方形]	[4.80]×[4.40]	4~26	平坦			4	1	竈	人為	土師器8 陶器1	本跡→S I 8, 本跡→S D 3
10	C6 _{i1}	[N-18°-E]	[長方形]	(4.60)×(1.60)	1~10	平坦	一部	1	1		竈	人為	土師器31 須恵器8 土製品1 硯石2	
11	D2 _{a7}	[N-13°-E]	[長方形]	(4.07)×(2.67)	4~20	平坦	一部		2		竈	人為	土師器24 須恵器7	
12	D2 _{c8}	[N-19°-E]	[方形]	3.60×(3.60)	1~8	平坦					竈	自然	土師器25 須恵器5 鉄製品3	
13	C2 _{j3}	N-43°-E	方形	3.82×3.58	8~20	平坦	一部		4	1	竈	人為	土師器58 須恵器8 陶器3	
14	D1 _{i4}	[N-49°-E]	[長方形]	(2.90)×(1.80)	1~32	平坦	一部		1		竈	自然	土師器2 須恵器2	
15	C5 _{i6}	N-2°-E	方形	2.81×2.80	34~50	平坦	一部				竈	人為	土師器200 須恵器4 砥石1	

(2) 鍛冶工房跡

第1号鍛冶工房跡 (第26図)

位置 調査3区南西部, C610区。

重複関係 第2号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 一辺が [4.05] mの方形と推定される。

主軸方向 [N-20°-W]

壁 壁高は約10~25cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。南側上面は削平され確認できなかった。

床 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は長径165cm, 短径85cmの不整楕円形, 深さ5~10cmである。P₂は長径127cm, 短径80cmの不整楕円形, 深さ14~25cmである。P₃は長径50cm, 短径40cmの楕円形, 深さ21cmである。P₄は長径55cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ23cmである。P₅は長径95cm, 短径65cmの楕円形, 深さ38cmである。工房跡に関わる付随ピットの可能性がある。

鍛冶炉 1か所。中央部やや北側に位置し, 長径45cm, 短径35cmの楕円形で, 床面を7cmほど掘りくぼめたもので, 炉床は赤変硬化している。掘り方は, 長径85cm, 短径65cmの楕円形で, 深さ30cmである。砂を敷き詰めて, 防湿の工夫がなされている。

炉 (掘り方) 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 砂多量, 小石少量
- 3 明褐色 砂多量, 小石・粘土粒子少量
- 4 橙色 砂多量, 小石微量

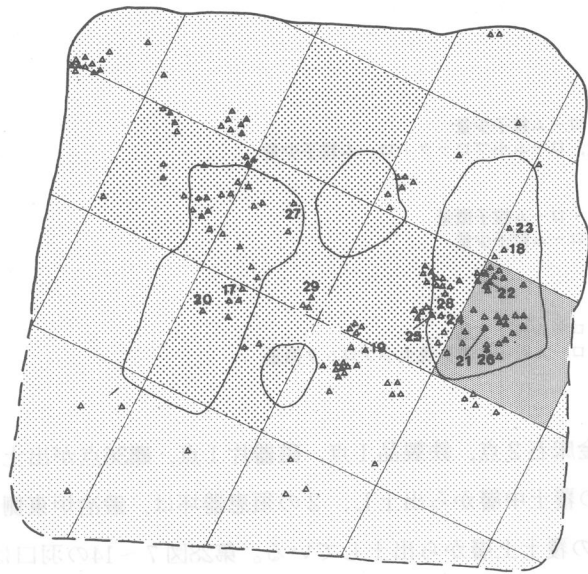
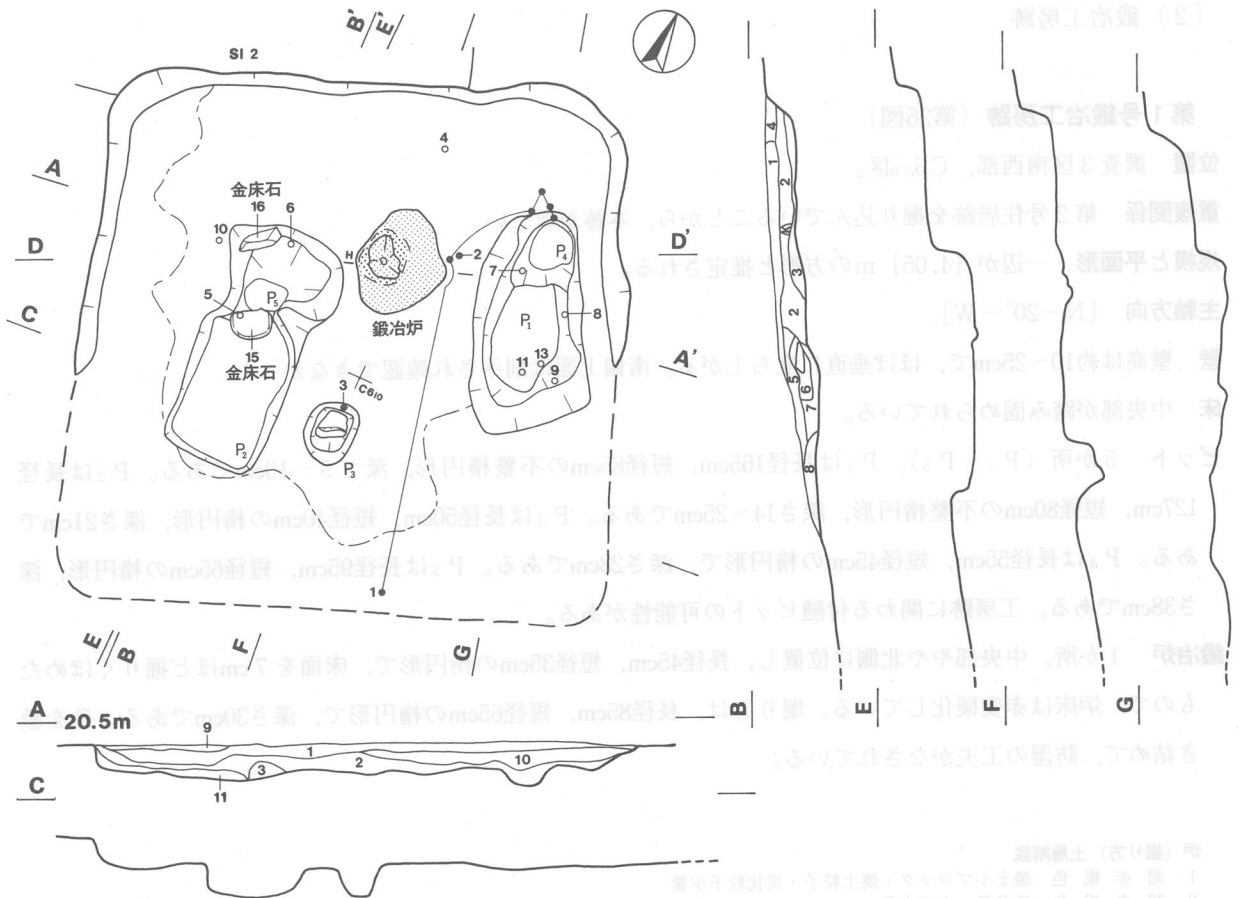
覆土 11層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物少量
- 5 暗褐色 焼土粒子多量, 炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物多量
- 8 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム大・中ブロック中量
- 10 褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量

遺物 土師器片198点, 須恵器片72点, 土製品44点, 金床石2点, 鉄製品1点, 磁器片1点, 礫36点が出土している。第27図1の須恵器坏は, 南側からP₄周辺の覆土中層から出土し, 2の須恵器坏は, 鍛冶炉東側の覆土上層から出土している。3の須恵器甕はP₃内の覆土上層から出土している。第28図7~14の羽口は, 中央部の覆土上層から中層にかけて出土している。4~6の管状土錘は中央部やや北西側の覆土上層から出土している。15・16の金床石はP₂とP₅内の覆土中層からそれぞれ出土している。17~28の鉄滓が鍛冶炉の左右にあるP₁覆土内やP₂覆土内から多数出土し, 13.7kgに及ぶ。検出した鍛造剥片はわずかに35.4gであったが, P₁周辺やP₂・P₅周辺に集中している。29の刀子は中央部の覆土下層から出土している。30は須恵器甕の体部片で, 外面に横位の平行叩きが施されている。

所見 本跡は, 羽口, 鉄滓, 金床石, 鍛造剥片などが出土していることから鍛冶工房跡と考えられる。時期は出土遺物から平安時代の9世紀前葉と思われる。

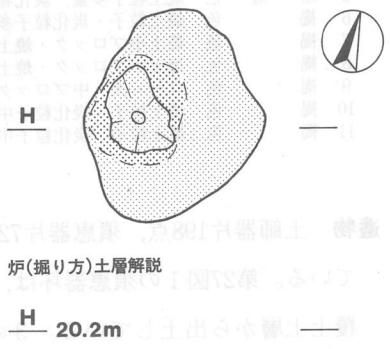


▲ 鉄滓

0.1~3.0g

3.1~6.0g

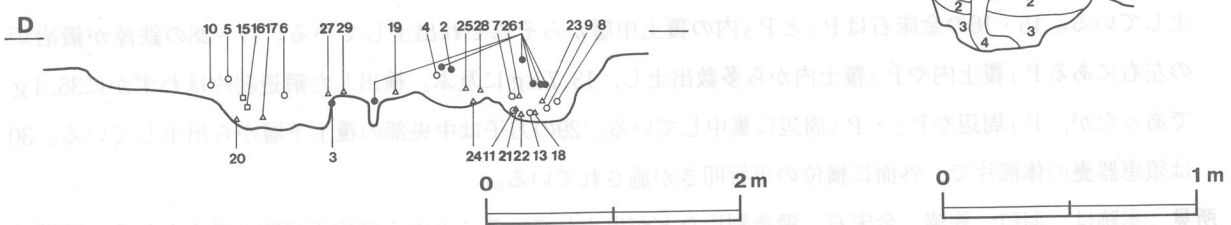
6.1~8.0g



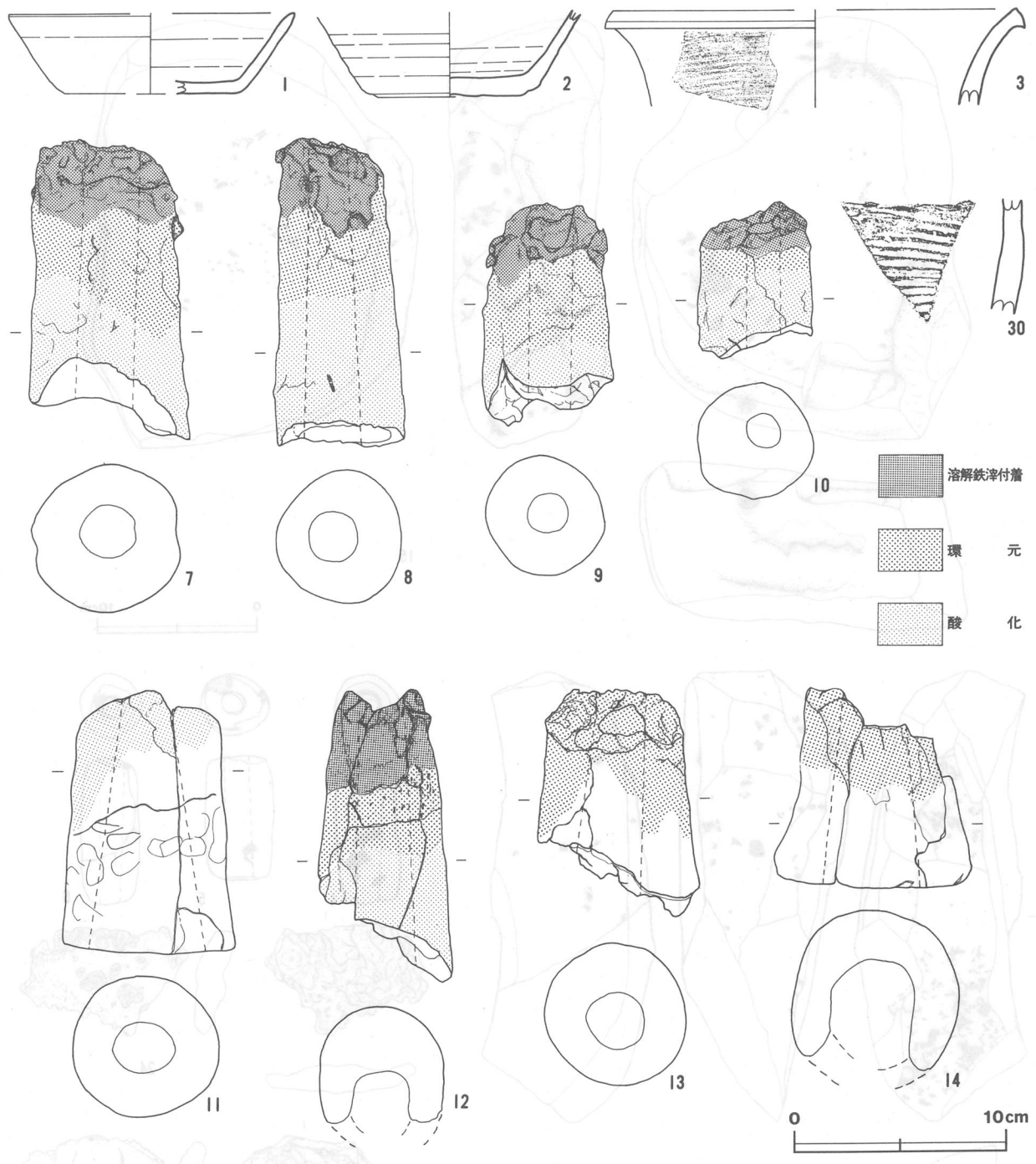
炉(掘り方)土層解説

H 20.2m

鍛造剥片分布



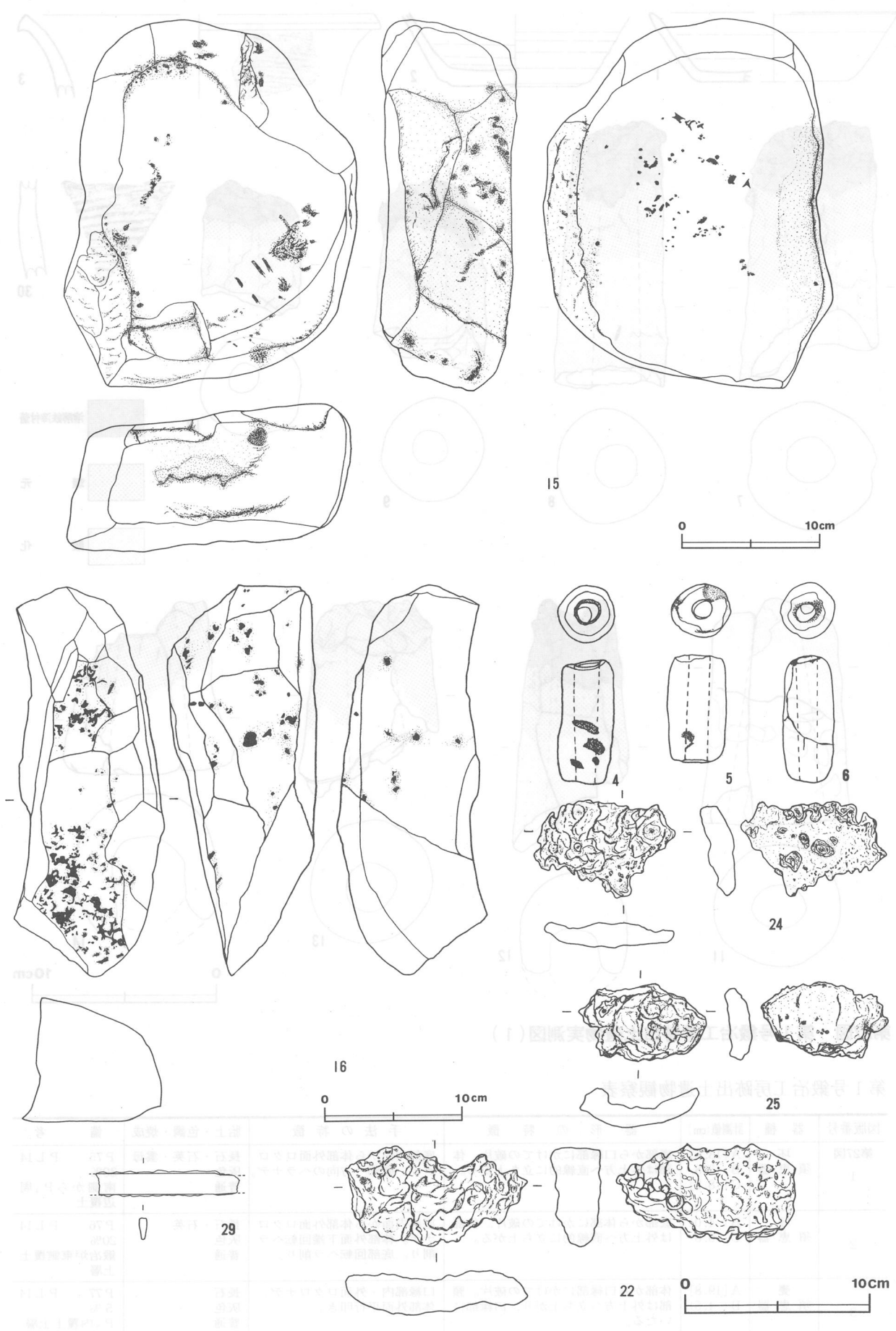
第26図 第1号鍛冶工房跡実測図，鉄滓・鍛造剥片出土状況図



第27図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	坏 須恵器	A [13.6] B 3.8 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部一方向のヘラナデ。	長石・石英・雲母 30% 灰色 普通	P75 PL14 南側からP4周辺覆土
2	坏 須恵器	B (4.0) C 6.8	底部から体部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P76 PL14 鍛冶炉東側覆土上層
3	甕 須恵器	A [19.8] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。頸部は外上方へ立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。	長石 灰色 普通	P77 PL14 5% P3内覆土上層



第28図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第27図4	管状土錘	6.7	3.1	1.0~1.4	68.9	北壁側覆土上層	DP66 100%
5	管状土錘	5.9	3.3	1.1~1.3	60.9	P ₅ 南側覆土上層	DP67 100%
6	管状土錘	6.8	2.8	1.0~1.2	63.7	P ₅ 北側覆土上層	DP68 100%
7	羽口	(14.1)	5.4~8.0	2.6	(624.2)	P ₄ 内南側覆土中層	DP69 PL19
8	羽口	(14.6)	5.1~6.2	1.8~2.7	(439.2)	P ₁ 内覆土下層	DP70 PL19
9	羽口	10.6	5.5~6.7	1.9~2.0	261.0	P ₁ 内覆土下層	DP71 PL19
10	羽口	(7.4)	5.5~6.7	1.9~2.0	(174.3)	P ₅ 西側覆土下層	DP72 PL19
11	羽口	(12.4)	6.7~8.2	2.1~5.5	(574.5)	P ₁ 内覆土下層	DP73 PL20
12	羽口	(13.7)	4.3~6.5	2.0~3.1	(267.0)	覆土中	DP74
13	羽口	(10.8)	6.6~7.7	2.2~3.0	(370.7)	P ₁ 内覆土下層	DP75 PL20
14	羽口	(9.5)	6.0~9.4	3.0~4.6	(345.6)	覆土中	DP76 PL20

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第28図15	金床石	21.0	26.9	9.6	8340	P ₅ 内覆土中層	Q3石質 砂岩 PL20
16	金床石	28.0	10.8	9.1	3440	P ₂ 内覆土上層	Q4石質 安山岩 PL20

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第28図17	鉄滓	5.0	4.0	2.8	116.2	P ₂ 内覆土中層	M6
18	鉄滓	5.8	5.1	3.8	169.4	P ₁ 内覆土中層	M7
19	鉄滓	8.4	5.3	2.1	142.3	中央部覆土下層	M8
20	鉄滓	19.5	10.5	3.5	1150.0	P ₂ 内覆土下層	M9
21	鉄滓	8.3	7.8	2.7	174.2	P ₁ 内覆土中層	M10
22	鉄滓	9.9	4.9	2.0	166.5	P ₁ 内覆土下層	M11
23	鉄滓	5.0	3.5	2.7	109.8	P ₁ 内覆土上層	M12
24	鉄滓	7.1	5.2	1.2	52.0	P ₁ 内覆土下層	M13
25	鉄滓	6.7	3.7	1.6	39.7	P ₁ 内覆土下層	M14
26	鉄滓	7.6	5.3	4.2	178.3	P ₁ 内覆土上層	M15
27	鉄滓	5.4	5.0	2.1	54.8	P ₂ 内覆土上層	M16
28	鉄滓	5.3	4.7	2.2	43.8	P ₁ 内覆土下層	M17

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第28図29	刀子	7.8	1.3	0.3~0.4	8.5	中央部覆土下層	M18

(3) 土坑

第12号土坑 (第29図)

位置 調査2区中央部, D3_{a7}区。

規模と平面形 長径2.10m, 短径1.77mの楕円形である。

長軸方向 N-60°-E

壁 壁高は17~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

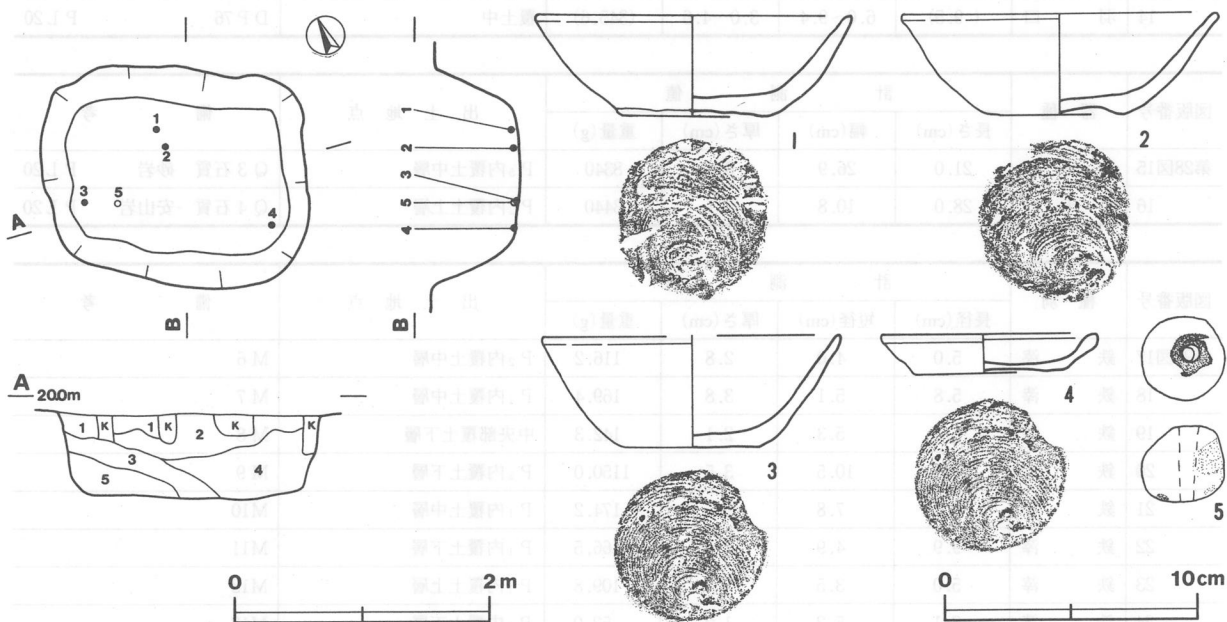
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・砂少量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂少量、焼土小ブロック微量

遺物 土師器片5点、土製品1点、陶器片1点が出土している。第29図1の土師器坏が北側中央の覆土下層から、完形で出土している。2の土師器坏は、北側中央の覆土下層から出土している。3の土師器坏は南西側の床面から出土している。4の土師器小皿は南東側の床面から出土している。5の土玉は南西側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代末の11世紀以降と考えられる。



第29図 第12号土坑・出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 土師器	A 12.6 B 4.0 C 6.0	平底。体部は外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア・礫 橙色 普通	P 78 P L 15 100% 北側中央覆土下層
2	坏 土師器	A 12.6 B 4.0 C 6.2	口縁部一部欠損。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア 橙色 普通	P 79 P L 15 90% 北側中央覆土下層
3	坏 土師器	A [12.0] B 4.4 C 5.7	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア・礫 橙色 普通	P 80 P L 15 40% 南西側床面
4	小皿 土師器	A 8.7 B 2.0 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・小礫 橙色 普通	P 81 P L 15 70% 南東側床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第29図5	土玉	3.0	3.3	0.5~0.8	28.9	南西側床面	D P 77 100%

3 中世の遺構

本節では、城の縄張構造を概観し、本調査区内において、築城時前後に関わると思われる中世の遺構を取り上げる。当城跡の立地する台地先端部の手前に位置する城跡（曲輪Ⅰ）は、本調査区の北側約200mに位置する。今回の調査において、城跡の東辺から南辺に位置するところから堀1条と土橋2か所、溝2条を検出した。検出した堀は外堀であり、外堀の東側は自然地形の谷を利用し、台地の付け根のところを掘切って外堀としている。土橋1か所を検出した。南側は、なだらかな地形に人為に掘り込んだ堀を形成し、城跡を取り囲んでいる。東側の自然地形の谷を利用した堀の調査は、基本的にトレンチ法を用いた。東側から堀の斜面と堀内にA・B・C・D・Eトレンチの5か所のトレンチ（第30図）を設定し掘り込み、堀の形状と堆積状況を調査した。盛土ないしは切土の有無は断面観察から判断し、土層断面図を掲載することで理解の補助とする。人為に掘り込まれた南側堀は、堀と堀の間から地山を掘り残した部分の土橋を検出し、堀の両端は調査区域外の北西に延びている。堀の内側には、土塁が構築されていた痕跡を確認することができた。調査3区北側の中央から、東西に延びる薬研堀の溝（SD-1）と南北に延びる溝（SD-10）を検出した。

(1) 堀・土橋

第1号堀（第30～34図）、（付図）

城跡の東側から南側に半円形状にめぐる外堀の性格は、防御的施設で、堀の内側には掘削時に生じた土を用いた土塁があったと推定される。

位置 本跡は、調査4区の全域、調査2区、調査3区で確認され、堀内に2か所の土橋を検出した。

方向 北東側から南側にかけて、L字状に延びる。

規模と形状 全長約600m、幅約3.00～40.00m、堀底部から曲郭までの比高が4～8mに及ぶ外堀は、自然地形を生かした堀と人為掘削による堀であり、城跡の北側には溜沼の湖面が広がり、全体的に自然地形を生かした要塞と考えられる。

便宜上、東部側の堀から、農道を境にA・B・Cの3区に分け調査した。

堀A区 調査4区全域であり、自然地形の谷を利用し、台地の付け根のところを掘切って外堀にしている。方向は、北東から南にかけて、L字状に延びる。規模は調査区内において、最大幅は上端[40.00]m、下端[20.00]m、深さ約8mの規模を持ち、断面は箱薬研状を呈する。壁面は、自然地形を生かした急傾斜であり、底面は、堀底にどの程度の土砂が堆積しているのか不明であるが、底面はほぼ皿状であると考えられる。堀A区は、A・B・Cの3本のトレンチを設定した。

Aトレンチ（第30・31図）

東側斜面にトレンチを設定する。トレンチ幅は、長さ19.00m、幅4.00m、深さ9.20mである。28層からなり、堀は、一部盛土も確認できるが、築城後、堀の斜面に土砂等が自然堆積したのと考えられる。4層は、黒色土を多く含み、堀を掘削した後の一次埋没土と考えられる。

土層解説

1 暗 褐色	砂利中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量				
2 褐色	ローム粒子多量、小石・砂少量、ローム小ブロック・粘土ブロック微量	7 暗 褐色	色	ローム粒子中量、小石・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量	ム中ブロック・鹿沼土中ブロック少量
3 暗 褐色	ローム粒子中量、小石・砂・鹿沼土小ブロック少量	8 褐色	色	ローム粒子多量、小石・砂微量	
4 褐色	ローム粒子・小石中量、鹿沼土小・中ブロック少量	9 橙	色	ローム粒子・砂利多量	
5 にぶい褐色	小石多量、ローム粒子・砂中量、鹿沼土小ブロック微量	10 明黄褐色	色	砂多量、小石微量	
6 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ロー	11 にぶい黄橙色	色	砂多量	



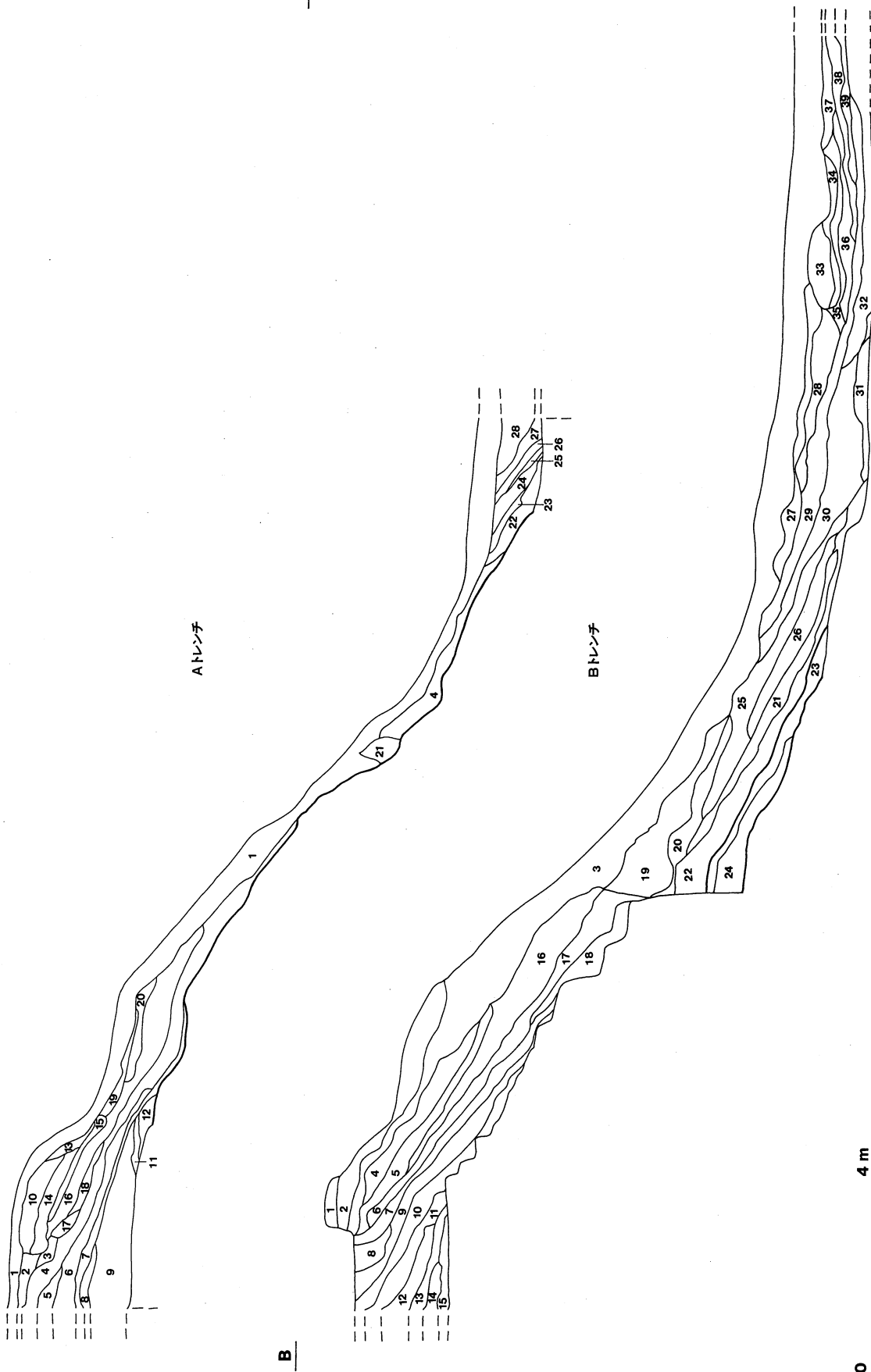
酒 沼



第30図 A・B・C・D・Eトレンチ配置図

A'

A 17.6m

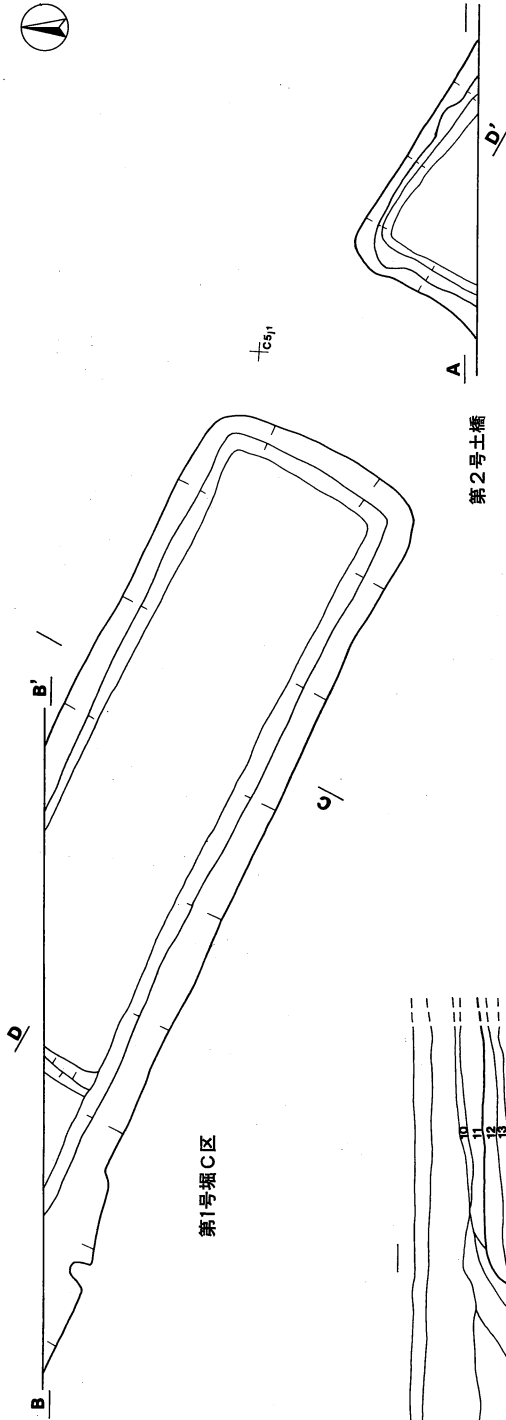


B'

B

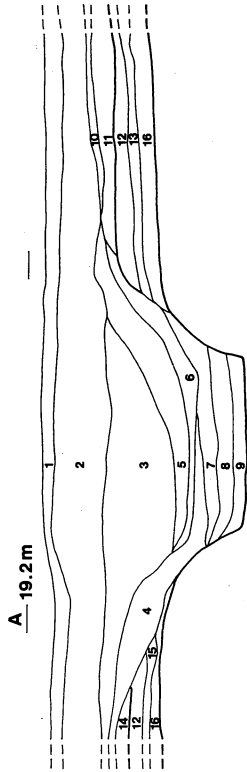


第31図 第1号堀A区・Bトレンチ土層断面図



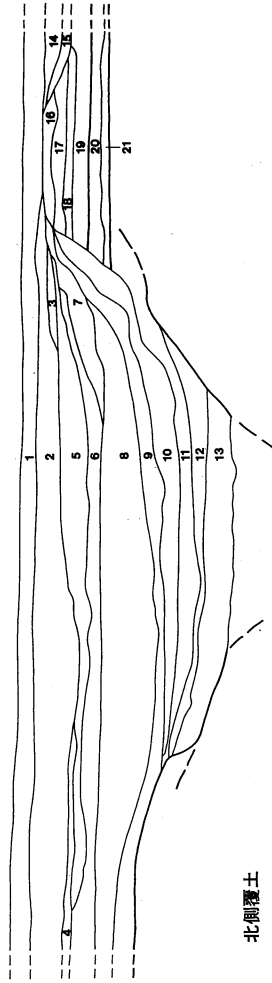
第1号堀C区

第2号土橋



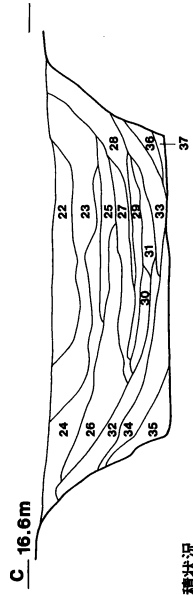
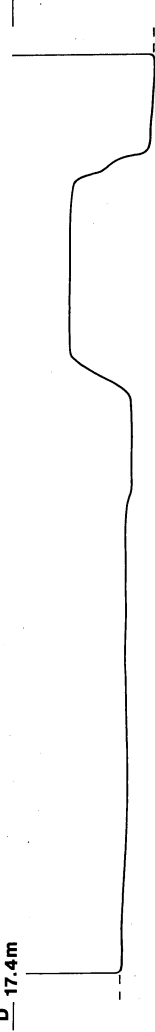
南側覆土

B 20.0m



北側覆土

D 17.4m

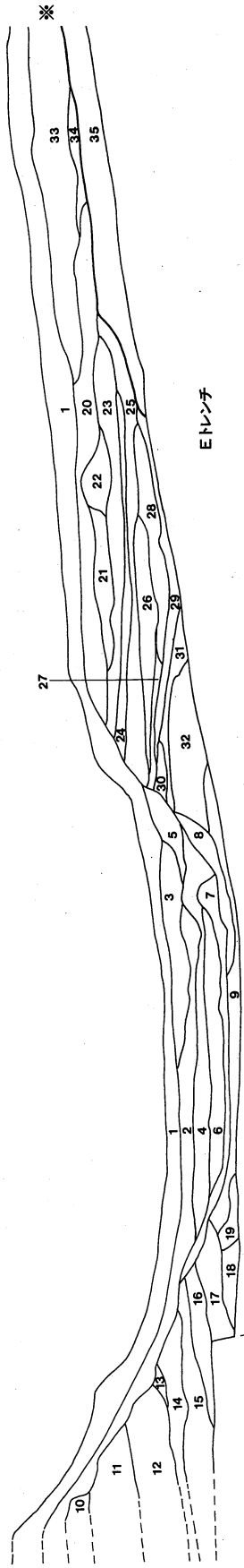


堀の堆積状況

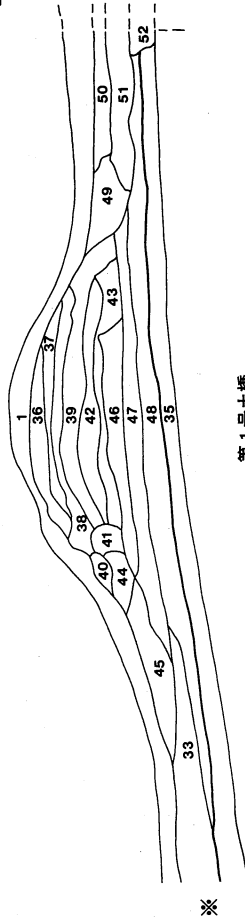


第32図 第1号堀C区, 第2号土橋実測図

A-14.8m

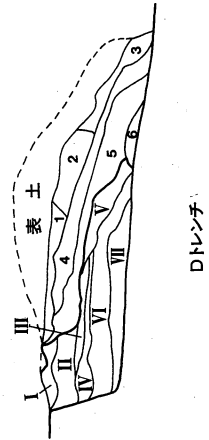


A'

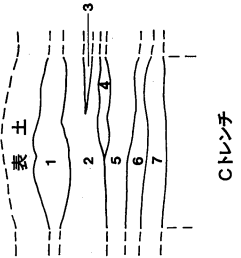


第1号土橋

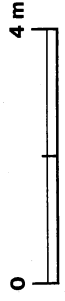
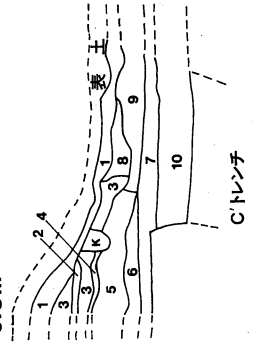
A 15.5m



A 8.0m



B 9.8m



第33図 第1号堀B区C・C・D・Eトレンチ, 第1号土橋土層断面図

12	明黄褐色	砂多量	20	暗褐色	砂・粘土粒子少量,炭化粒子・ローム粒子・鹿沼土微量
13	暗褐色	ローム粒子中量,小石少量,焼土粒子・炭化粒子微量	21	明褐色	砂・小石中量
14	暗褐色	ローム粒子・砂利・小石少量,焼土粒子微量	22	明褐色	砂多量
15	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・鹿沼土小ブロック微量	23	暗褐色	砂中量,ローム粒子少量
16	褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック・鹿沼土小ブロック微量	24	褐色	ローム粒子・砂・鹿沼土少量,ローム小ブロック微量
17	褐色	ローム粒子・鹿沼土少量	25	明褐色	ローム粒子・砂多量,鹿沼土微量
18	橙色	小石中量,ローム粒子・砂利・鹿沼土少量	26	暗褐色	ローム粒子少量,焼土粒子微量
19	褐色	ローム粒子・焼土粒子・小石少量	27	にぶい褐色	小石多量,ローム粒子中量
			28	褐色	小石多量,ローム粒子少量

B トレンチ (第30・31図)

A トレンチの西側斜面にトレンチを設定する。トレンチ幅は、長さ27.70m、幅4.30m、深さ8.85mである。39層からなり、築城後、堀の斜面に土砂等が自然堆積したものと考えられる。23層は黒色土を多く含み、堀を掘削した後の一次埋没土と考えられる。

土層解説

1	褐色	竹の根多量,ローム粒子少量・小石少量	19	褐色	ローム中・小ブロック中量,砂利・小石少量,焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量・小石少量,炭化粒子微量	20	褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子中量,炭化粒子微量
3	灰褐色	砂利・小石少量,ローム粒子・焼土粒子微量	21	褐色	ローム粒子少量,ローム中・小ブロック微量
4	褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	22	灰褐色	ローム粒子中量,砂・鹿沼小ブロック少量
5	褐色	小石多量,ローム中ブロック・ローム粒子少量	23	黒褐色	小石中量,砂利・鹿沼土少量,ローム粒子微量
6	褐色	ローム粒子・砂多量,ローム小ブロック・鹿沼土・粘土大ブロック少量	24	褐色	砂中量,焼土粒子・鹿沼土少量,ローム粒子微量
7	明褐色	ローム粒子・粘土粒子中量,鹿沼土少量	25	赤褐色	砂多量
8	褐色	ローム粒子中量・ローム大・中ブロック少量,鹿沼土微量	26	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量
9	にぶい褐色	砂中量,粘土粒子少量,ローム粒子・鹿沼土微量	27	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂中量
10	褐色	ローム粒子・砂多量,ローム小ブロック少量,粘土ブロック微量	28	極暗褐色	ローム小ブロック中量,ローム粒子・砂・鹿沼土少量
11	明褐色	ローム小ブロック多量,ローム粒子少量,粘土ブロック微量	29	褐色	ローム粒子中量,鹿沼土微量
12	にぶい褐色	ローム粒子多量,砂・鹿沼土少量	30	橙色	炭化粒子・ローム粒子少量,焼土粒子微量
13	褐色	ローム大・中・小ブロック・砂・鹿沼土少量	31	褐色	小石中量,ローム粒子少量,鹿沼土少量
14	褐色	ローム粒子多量,ローム大・中・小ブロック・粘土ブロック少量	32	明褐色	砂多量,小石・ローム粒子少量,炭化粒子微量
15	にぶい褐色	ローム粒子多量,ローム中ブロック中量,砂・粘土ブロック少量	33	橙色	ローム粒子多量,ローム中・小ブロック・砂利・小石少量
16	にぶい褐色	ローム粒子多量,小石少量,鹿沼小ブロック微量	34	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子・粘土ブロック微量
17	橙色	小石・砂多量,ローム粒子中量	35	黒褐色	ローム粒子少量,ローム中ブロック微量
18	明褐色	ローム粒子多量,ローム中・小ブロック・ローム粒子少量	36	橙色	ローム粒子多量,ローム小ブロック中量,砂利・鹿沼土少量
			37	褐色	ローム粒子・小石・砂少量,焼土粒子微量
			38	橙色	ローム粒子多量,砂中量
			39	にぶい褐色	砂多量,ローム粒子中量,小石少量

C トレンチ (第30・33図)

農道の東側斜面にトレンチを設定する。トレンチ幅は、長さ5.00m、幅3.20m、深さ2.25mである。10層からなり、以前から土橋であると考えられていたが、大規模すぎることや盛土した形跡もなく、近世以降につくられた農道斜面に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・砂利・小石少量,焼土粒子微量	4	褐色	ローム粒子・鹿沼土少量
2	暗褐色	鹿沼土小ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子微量	5	極暗褐色	小石中量,ローム粒子・砂利・鹿沼土少量
3	褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック・鹿沼土小ブロック微量	6	褐色	ローム粒子・焼土粒子・小石・砂少量
			7	暗褐色	砂・粘土粒子少量,炭化粒子・ローム粒子・鹿沼土微量

C' トレンチ (第33図)

土層解説

8	褐色	ローム粒子・砂中量,焼土粒子・炭化粒子・小石・鹿沼土微量	10	褐色	ローム粒子・小石少量,鹿沼土微量
9	褐色	砂中量,ローム中ブロック・ローム粒子少量			

堀B区 調査3区東部に位置し、堀A区とは農道によって遮られているが、堀A区の延長にあり、東から西にかけて、直線状に伸びる。調査区内における規模は、最大幅が上端 [31.50] m、下端 [15.00] m、深さ約 6.5mで、断面は箱葉研状を呈する。堀の斜面は、自然地形を生かした急傾斜である。底面は、堀底に土砂が、深さ2.00m以上堆積している。土橋1か所を検出する。

Dトレンチ (第30・33図)

農道と第1号土橋の間の東側斜面にトレンチを設定する。トレンチ幅は、長さ7.00m、幅4.50m、深さ2.00mである。6層からなり、斜面に自然堆積したものと考えられる。I～VII層は、地山のローム層である。

土層解説

1 暗 褐色	炭化粒子多量, ローム中・小ブロック・ローム粒子中量	I 明 褐色	ローム粒子・砂粒子多量
2 暗 褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量	II 橙 色	ローム粒子・砂粒子・小石多量
3 灰 褐色	ローム粒子・砂利多量	III 明 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・砂粒子・小石多量
4 暗 褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・小石少量	IV 明 黄褐色	ローム粒子・砂多量
5 暗 褐色	炭化粒子・ローム粒子・砂中量, 焼土粒子極少量	V 橙 色	ローム粒子・小石多量, 砂中量
6 暗 褐色	砂多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量	VI 明 黄褐色	ローム粒子・砂多量, 小石少量
		VII 明 黄褐色	ローム粒子多量, 砂中量

Eトレンチ (第30・33図)

農道と第1号土橋の間の堀底にトレンチを設定する。トレンチ幅は、長さ40.00m、幅5.00m、深さ4.00mである。52層からなり、堀底の堆積状況は自然堆積と考えられる。36層は、黒色土を多く含み、堀を掘削した後の一次埋没土と考えられる。

土層解説

1 褐色	ローム粒子・小石少量	27 黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂中量
2 褐色	ローム粒子・小石少量	28 暗 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・砂・鹿沼土少量
3 黒 褐色	ローム粒子・砂利・小石少量	29 褐色	ローム粒子中量, 鹿沼土微量
4 褐色	ローム粒子中量	30 暗 褐色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
5 黒 褐色	小石多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量	31 褐色	小石中量, ローム粒子少量・鹿沼土少量
6 暗 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・砂少量	32 褐色	砂多量, ローム粒子・小石少量, 炭化粒子微量
7 暗 褐色	ローム粒子中量	33 褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量
8 褐色	ローム粒子中量・ローム大・中ブロック少量	34 暗 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土ブロック微量
9 暗 褐色	砂中量, 粘土粒子少量, ローム粒子微量	35 暗 褐色	ローム粒子・砂少量, ローム中ブロック微量
10 褐色	ローム粒子・砂多量, ローム小ブロック少量	36 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
11 褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子少量, 粘土ブロック微量	37 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
12 褐色	ローム粒子多量, 砂少量	38 褐色	ローム大ブロック, ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
13 暗 褐色	ローム中・小ブロック中量, ローム粒子少量	39 暗 褐色	砂多量, ローム粒子中量, 小石少量
14 暗 褐色	ローム粒子多量, ローム大・中ブロック少量	40 暗 褐色	ローム中・小ブロック中量, 砂利・小石少量, 焼土粒子微量
15 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 砂少量	41 暗 褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
16 褐色	ローム粒子多量, 小石少量	42 褐色	ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
17 暗 褐色	砂多量, ローム粒子中量, 小石	43 褐色	ローム粒子中量, 砂・鹿沼土ブロック少量
18 暗 褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック・ローム粒子少量	44 暗 褐色	小石中量, 鹿沼土少量, ローム粒子微量
19 暗 褐色	ローム中・小ブロック中量	45 暗 褐色	砂中量, ローム粒子・鹿沼土少量
20 褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子中量	46 褐色	ローム粒子・小石少量, ローム中・小ブロック微量
21 褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	47 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂利少量
22 褐色	ローム粒子中量, 小石少量	48 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂中量
23 黒 褐色	ローム粒子中量	49 暗 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・小石少量
24 暗 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	50 褐色	ローム粒子中量, 小石微量
25 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	51 暗 褐色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
26 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量	52 暗 褐色	小石中量, ローム粒子・粘土粒子少量

堀C区 調査2区東部に位置し、南東から北西にかけて、直線状に延びる。確認長は、24.80mで、南東端から5.00mのところには第2号土橋が設けられている。N-20°-Eの方向へほぼ直線的に延びるところまで確認した。規模は上幅 [3.00~5.00] m、下幅 [2.04~3.00] m、土橋上面からの深さは、1.20~1.56mである。断面形は箱形である。壁面は、北西側は70度の角度で立ち上がり、南東側は35度の角度で立ち上がる。壁上半は締まりのあるロームで、壁下半は粘土・砂層である。底面はほぼ平坦である。土橋を挟んで、人為に掘り込んだ堀である。覆土は南面と北面の土層断面を採図した。遺物は、土師器片31点、須恵器片1点、陶磁器片1点が出土している。遺構に伴う遺物は出土していない。時期は、堀と土塁構築のセット関係などから中世の15世紀後半以降と思われる。

南側覆土 16層からなり、人為堆積と考えられる。10層は黒色土を多く含み、堀を掘削した後の一次埋没土と考えられる。12層は黒色土を多く含み、築城当時の表土であると考えられる。人為的に掘り込まれたところの堀の堆積状況は3~9層であり、自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子・小石少量, 焼土粒子微量	9 黒 褐 色	砂・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子・鹿沼土微量
2 黒 褐 色	焼土粒子, ローム粒子・小石少量, 炭化粒子微量	10 暗 褐 色	砂・小石中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
3 暗 褐 色	砂利・小石少量, ローム粒子・焼土粒子微量	11 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量
4 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量	12 黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 黒 褐 色	小石多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量	13 極 暗 褐 色	ローム粒子・砂・鹿沼土少量
6 黒 褐 色	ローム粒子・砂利・鹿沼土少量, 焼土粒子微量	14 黒 褐 色	炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子・鹿沼土微量
7 黒 褐 色	小石中量, 焼土粒子・ローム粒子・砂利・鹿沼土少量	15 極 暗 褐 色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
8 暗 褐 色	砂多量, ローム粒子・焼土粒子・鹿沼土少量	16 褐 色	小石少量, ローム粒子微量

北側覆土 37層からなり, 人為堆積と考えられる。築城当時の表土は20層である。人為的に掘り込まれたところの堀の堆積状況は22~37層であり, 自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子・小石少量, 焼土粒子微量	20 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	焼土粒子, ローム粒子・小石少量, 炭化粒子微量	21 黒 褐 色	小石多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
3 にぶい褐色	砂利・小石少量, ローム粒子・焼土粒子微量	22 暗 褐 色	ローム小ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
4 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量	23 褐 色	焼土粒子, ローム粒子・小石中量, 砂利・鹿沼土少量
5 褐 色	小石多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量	24 暗 褐 色	砂多量, ローム粒子・焼土粒子・鹿沼土少量
6 灰 褐 色	ローム粒子・砂利・鹿沼土少量, 焼土粒子微量	25 黒 褐 色	砂・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子・鹿沼土微量
7 黒 褐 色	小石中量, 焼土粒子, ローム粒子・砂利・鹿沼土少量	26 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 砂少量
8 暗 褐 色	砂多量, ローム粒子・焼土粒子・鹿沼土少量	27 黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
9 黒 褐 色	砂・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子・鹿沼土微量	28 暗 褐 色	ローム粒子・砂・鹿沼土少量
10 暗 褐 色	砂・小石中量, 炭化粒子・ローム粒子少量	29 黒 褐 色	炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 鹿沼土微量
11 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量	30 暗 褐 色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
12 黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	31 暗 褐 色	ローム粒子微量, 小石少量
13 黒 褐 色	ローム粒子・砂・鹿沼土少量	32 暗 褐 色	焼土粒子, ローム粒子・小石少量, 炭化粒子微量
14 黒 褐 色	炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子・鹿沼土微量	33 暗 褐 色	砂利・小石少量, ローム粒子・焼土粒子微量
15 灰 褐 色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量	34 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
16 黒 褐 色	小石少量, ローム粒子微量	35 黒 褐 色	小石多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
17 褐 色	ローム粒子・小石少量, 焼土粒子微量	36 褐 色	ローム粒子・砂利・鹿沼土少量, 焼土粒子微量
18 暗 褐 色	焼土粒子・ローム粒子・小石少量, 炭化粒子微量	37 にぶい褐色	ローム粒子・小石少量, 焼土粒子微量
19 黒 褐 色	砂利・小石少量, ローム粒子・焼土粒子微量		

土橋 (第32~34図)

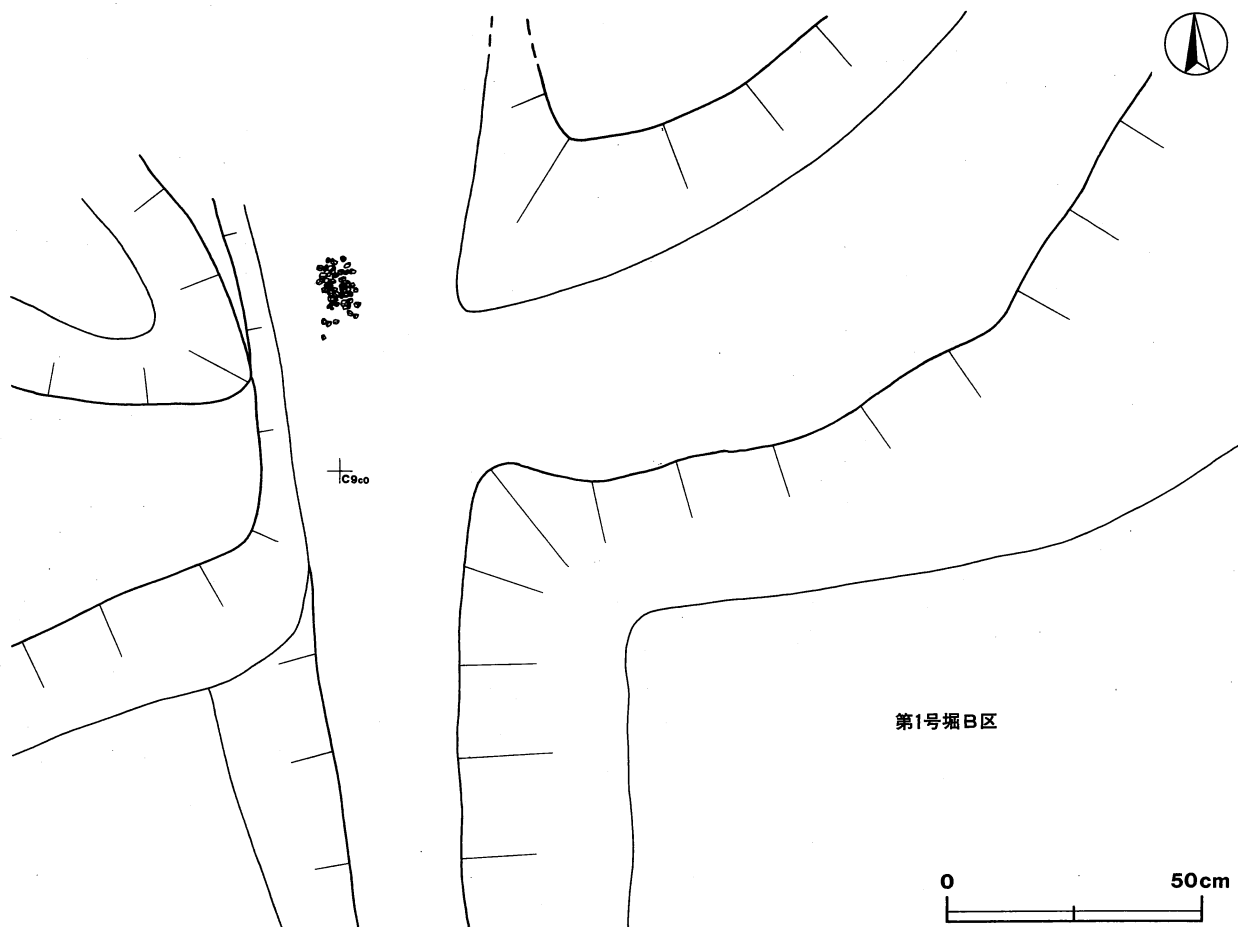
土橋2か所を検出した。土橋は曲輪Ⅱの南辺に位置する。

第1号土橋(第34図)は, 調査3区東部, C9c区。曲輪Ⅱの東南側に位置する。背後の曲郭にある北側から南側にかけてN-0°の方向で, ほぼ直線的に約15.00m伸びている。規模は, 土橋上部の平坦面は, 北側は幅約5.00m, 先端部は約2.20mと狭まり, 先端部に向かいスロープ状に傾斜する。形状は基本的に長方形である。自然地形を生かした堀に土橋を構築している。構築方法は, 第34図の第1号土橋土層断面図の36層から48層にかけての堆積状況から, 盛土していることを確認することができる。土橋付近では門跡となるような柱穴は確認できなかった。遺物は, 土橋の中央部やや西側に集石を検出した。投石用の飛礫の可能性がある。時期は, 明確ではないが, 堀C区と同時期の15世紀後半以降と思われる。

第2号土橋(第32図)は, 調査2区東部, D5a区。曲輪Ⅱの南辺やや西寄りに位置する。北東から南西にかけて(N-20°-E)ほぼ直線的に約5.00m伸びている。規模は, 土橋上部の平坦面は, 幅3.60m~4.80mで, 形状は基本的に長方形である。壁面は, 土橋上部から底部にかけては, 北西側は65度の角度で, 南東側は30度の角度で傾斜し, 構築方法は堀の掘削時に土橋部分を掘り残している。

遺物 遺構に伴う遺物は出土していないが, 常滑系陶器, 肥前系, 瀬戸・美濃系, 京焼系の磁器が表面採集されている。

所見 本跡の時期は, 明確ではないが, 堀C区の堀と土塁構築の痕跡関係等から15世紀後半以降と思われる。



第34図 第1号堀B区, 第1号土橋実測図

(2) 溝

第1号溝 (第35・36図)

位置 調査3区北東部, C7d4区

重複関係 第10号溝に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と形状 上幅1.90~4.23m, 下幅0.1m~0.4m, 深さ0.82m~0.90mの葉研堀状の溝で, 確認長は112.0mである。

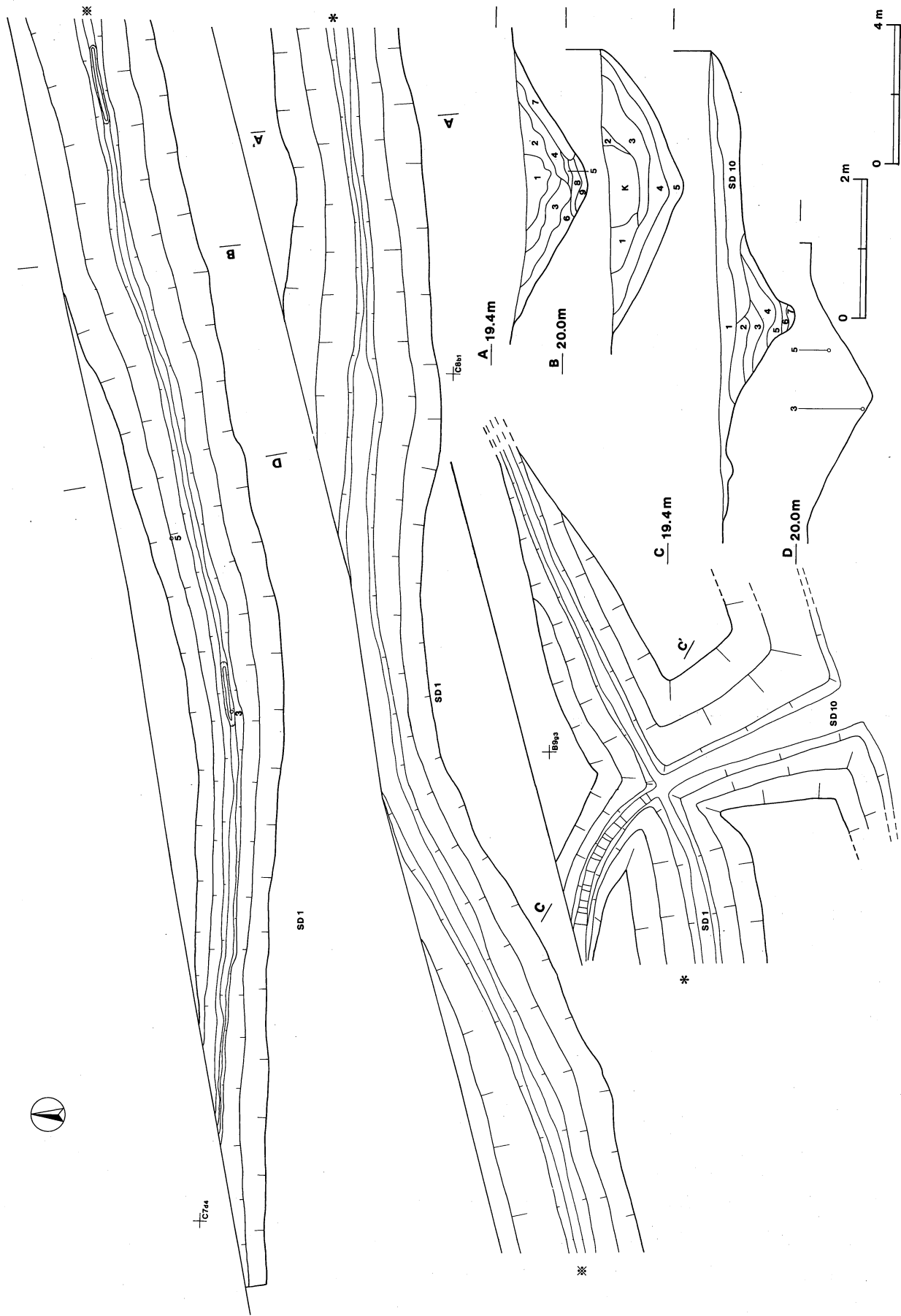
方向 N-20°-E

覆土 9層からなり, 自然堆積である。

土層解説 (A-A') (第35図)

1	暗褐色	小石・砂少量, ローム粒子・ローム小ブロック微量	5	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・小石少量
2	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量, 小石・砂少量, ローム小ブロック微量	6	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・小石少量
3	暗褐色	ローム粒子微量, 小石・砂少量	7	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量, 鹿沼土・小石・砂少量
4	褐色	ローム粒子・砂中量, ローム小ブロック少量	8	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量, 砂微量
			9	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・小石微量

遺物 土師器片148点, 須恵器片33点, 瓦質土器片1点, 土製品4点が出土している。第36図1の瓦質土器片口鉢の口縁部片は, 在地系と考えられ, 東側の覆土中から出土している。2は須恵器甕の体部片で, 外面には横位の平行叩きが, 内面には同心円状の当て具痕が残されている。混入と考えられる。3の土玉は東側の覆土下層から出土している。4の土玉は中央部の覆土中から, 5の管状土錘は東側の覆土中層から出土している。6の管状土錘は東側の覆土中から出土している。



第35图 第1·10号溝実測図

所見 本跡は、外堀の内側に並行して東西に延び、東側で第10号溝と交差する。この溝の南側が土盛されることによって死角になり、敵を攪乱するための移動可能な道の役割をする防衛用溝の可能性はある。第1号土橋を渡って、左折したところで、この溝（通路状遺構）を通して城内に入る遺構の一つと考えられる。このような遺構の配置などから、この城跡に関係する堀と同じ時期の15世紀後半以降と思われるが、遺物は少なく、混入もあり明確ではない。

第10号溝 (第35・36図)

位置 調査3区東部, B9₁₂区

重複関係 第1号溝を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と形状 上幅1.95~5.70m, 下幅0.3m~1.2m, 深さ0.35m~0.45mで、北西側は階段状で南東側は薬研堀状である。確認長は10.20mである。

方向 N-40°-E

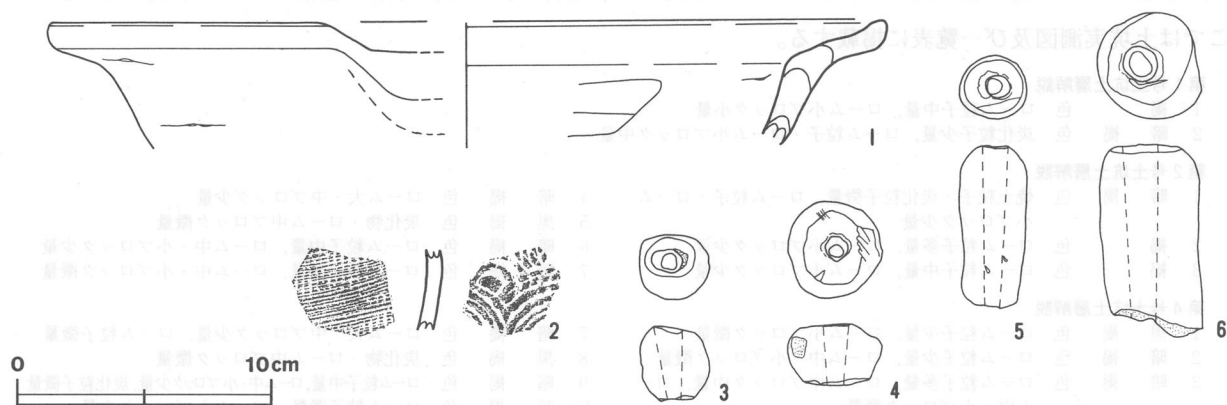
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説 (C-C') (第35図)

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・黒色土ブロック少量, ローム小ブロック微量

遺物 遺構に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、第1号溝と交差した状態で、北西から南東の方向へ向かってのびている。北西側に走る溝には階段状の段差の痕跡が確認できた。この溝（通路状遺構）を通して城内に入る遺構の一つと考えられる。本跡の時期は明確ではないが、遺構の構造形態から第1号溝とほぼ同じ時期の15世紀後半以降と思われる。



第36図 第1号溝出土遺物実測図

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	片口鉢 瓦質土器	A [33.6] B (5.3)	口縁部片。体部は外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・スコリア・礫 橙色 普通	P 83 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第36図3	土玉	3.0	2.6	0.5~1.2	20.1	東側覆土下層	D P 79 100%
4	土玉	2.4	3.9	0.6~0.9	34.0	覆土中	D P 78 100%
5	管状土錘	(7.7)	4.2	1.0~1.4	(126.8)	東側覆土中層	D P 80 70%
6	管状土錘	6.4	2.4	1.0~1.6	44.4	覆土中	D P 81 100%

4. 時期不明遺構

本調査区内で、時期不明のピット群1か所、土坑42基、溝6条、不明遺構3基を調査した。以下、検出した遺構と遺物の特徴について記載する。

(1) ピット群

当遺跡からはピット群1か所を検出した。建物あるいは柵列等の可能性があるが、対応関係を把握する事ができなかったため、ここではピット群として扱う。

第1号ピット群 (第37図)

位置 調査2区東部, C5h6区。

規模 南北約7.8m, 東西約10.4mの範囲に86か所のピットを確認した。ピットの平面は、径15~50cmの円形あるいは楕円形で、深さは10~70cmである。

覆土 土層断面の採図はしなかったが、覆土は全体的に褐色あるいは暗褐色にローム土や砂利が混入している。人為堆積と考えられる。

所見 多くのピットは、平安時代の住居跡及び時期不明土坑の周辺に存在していることもあって、柱や柵列が立てられていた可能性も考えられるが、その性格は不明である。ピット内から出土遺物もなく、時期も不明である。

(2) 土坑 (第38~40図)

当遺跡からは土坑44基を検出した。これらの土坑からの遺物が少なく、時期や性格について不明である。ここでは土坑実測図及び一覧表に掲載する。

第1号土坑土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック中量 |

第2号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ローム大・中ブロック少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 5 | 黒褐色 | 炭化物・ローム中ブロック微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 6 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 |
| | | | 7 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中・小ブロック微量 |

第4号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------------------|----|-----|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 7 | 暗褐色 | ローム大・中ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量 | 8 | 黒褐色 | 炭化物・ローム中ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム中・小ブロック微量 | 9 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 10 | 暗褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック少量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム中・小ブロック少量 | 11 | 暗褐色 | 炭化粒子微量, ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量 |
| | | | 12 | 暗褐色 | 炭化粒子微量, ローム粒子少量 |

第6号土坑土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量 |

第7号土坑土層解説

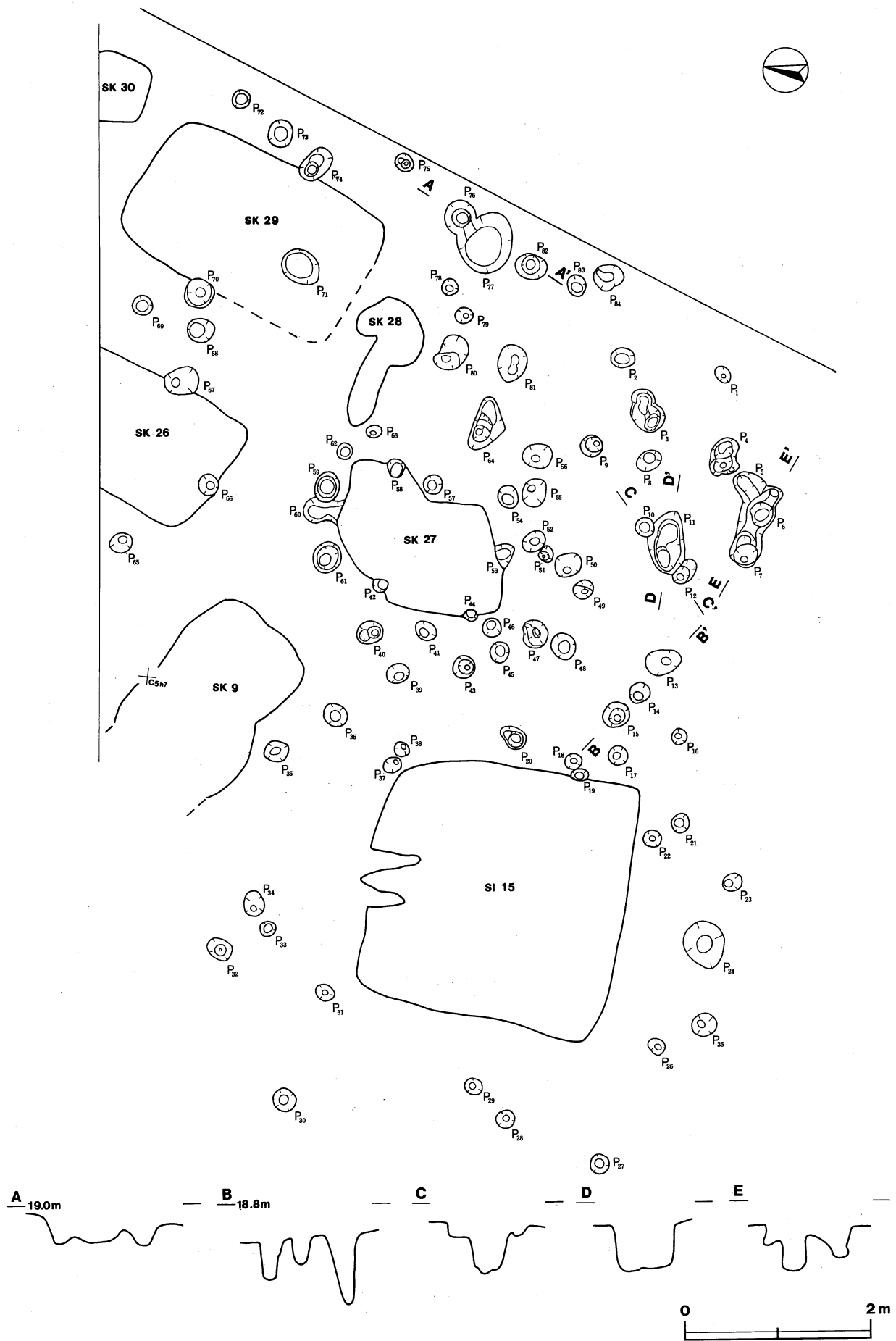
- | | | | | | |
|---|------|--------------------------|---|-----|--------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム中・小ブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 | 5 | 暗褐色 | ローム大・中ブロック少量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 6 | 黒褐色 | 炭化物・ローム中ブロック微量 |

第8号土坑土層解説

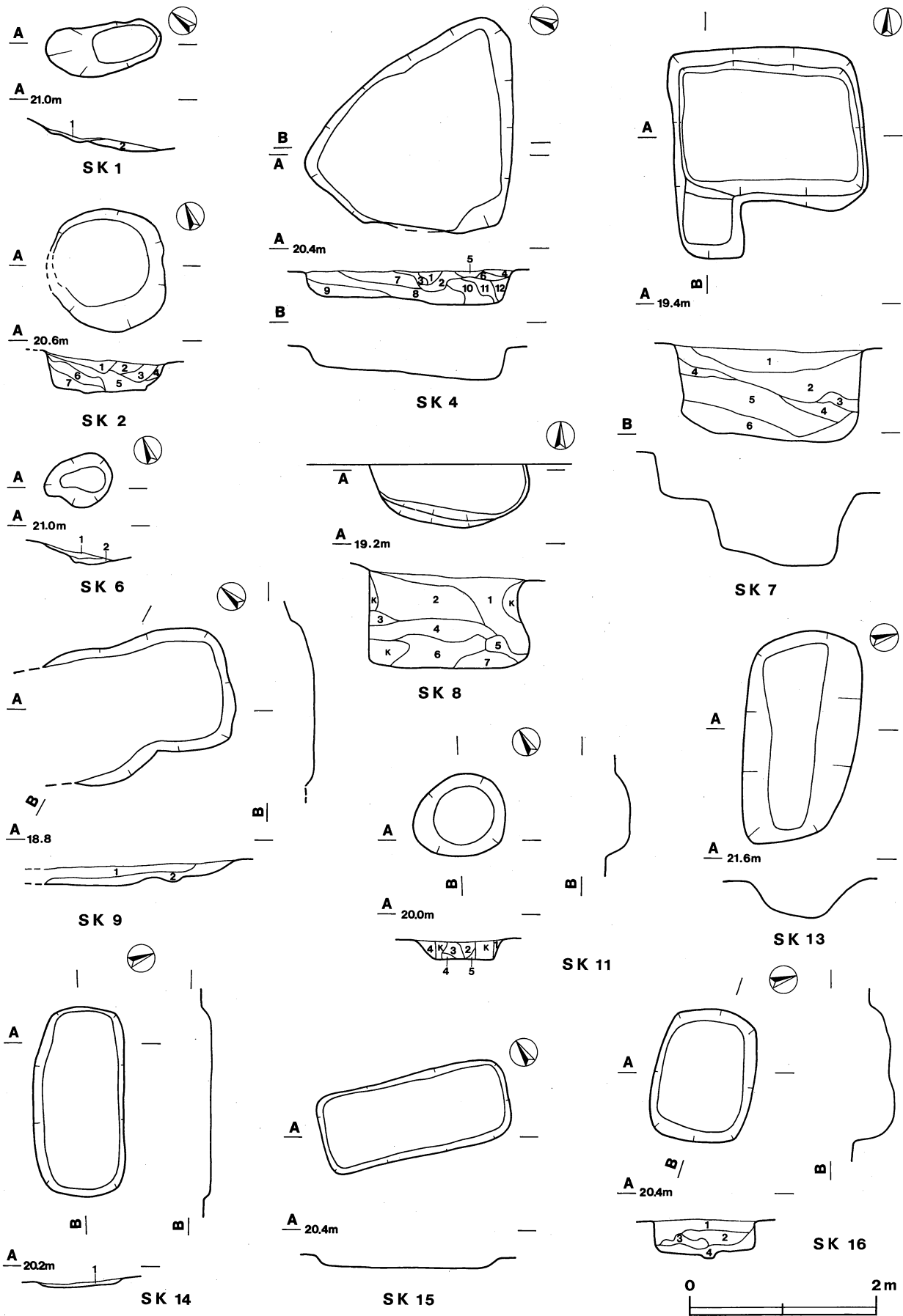
- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|------|--|
| 1 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子極微量 | 5 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量 | 6 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 7 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量, 炭化物極微量 |
| 4 | 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量 | | | |

第9号土坑土層解説

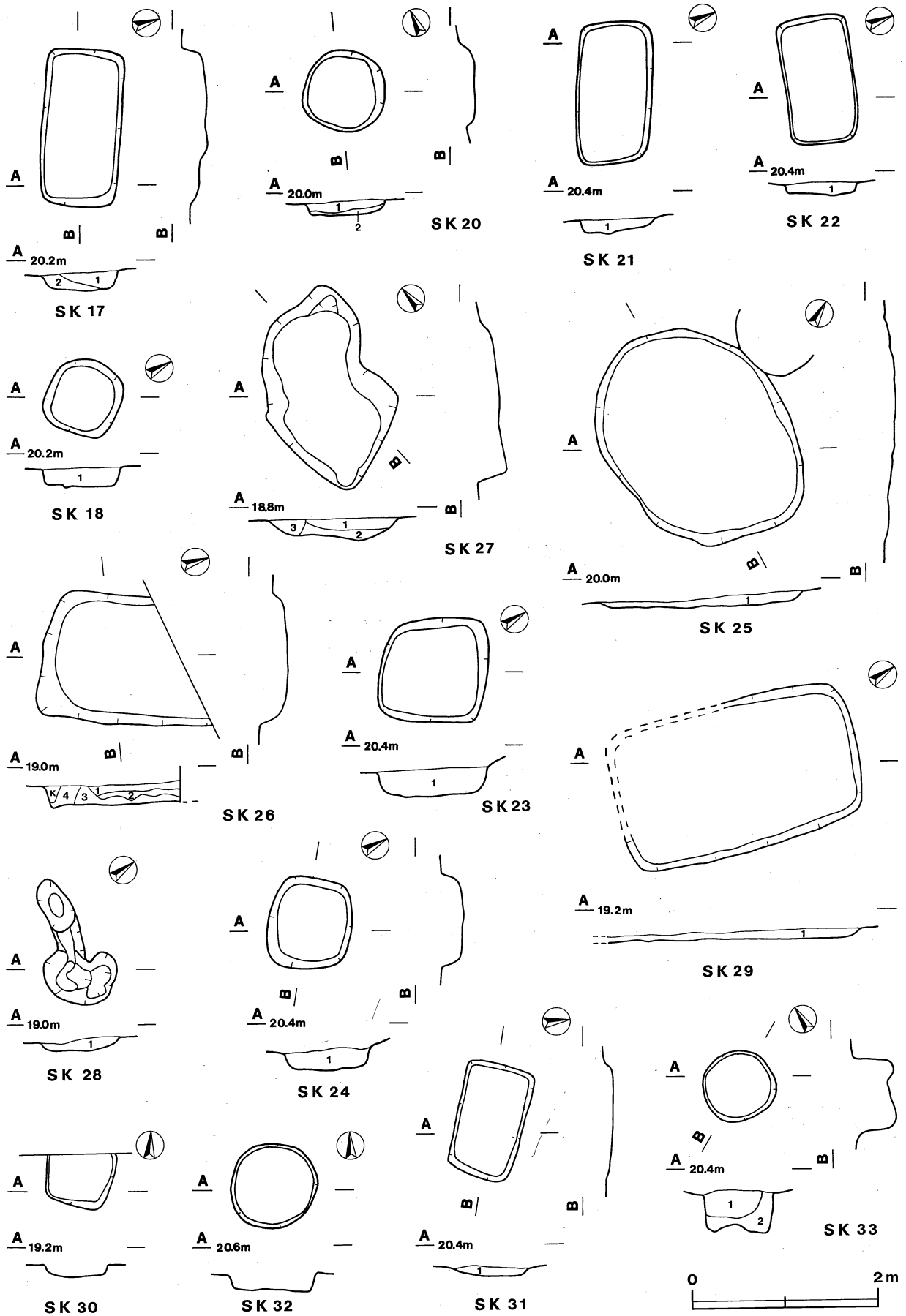
- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 |



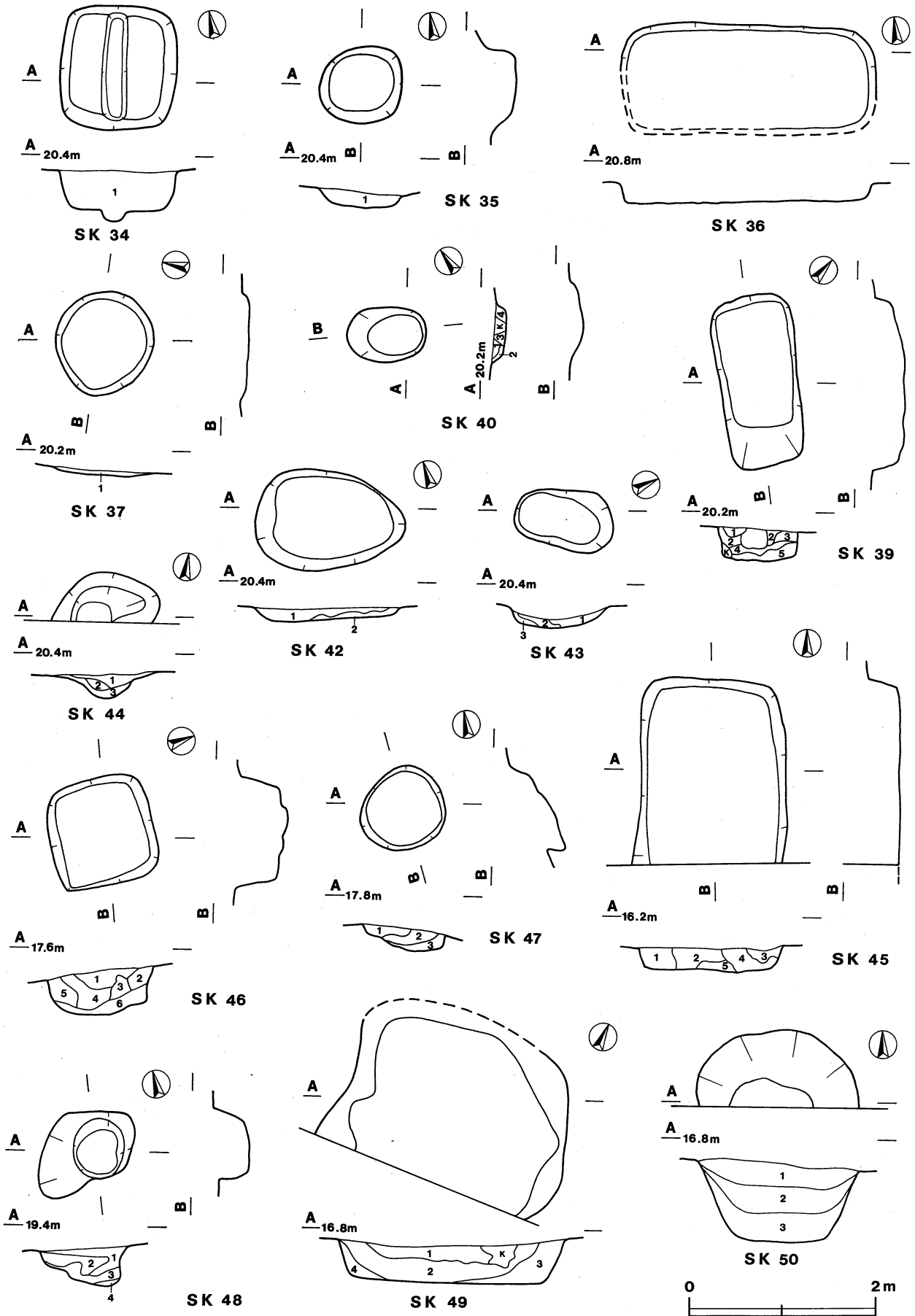
第37図 第1号ピット群実測図



第38図 時期不明土坑実測図(1)



第39図 時期不明土坑実測図(2)



第40图 时期不明土坑实测图(3)

第46号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|------|--------------------------------------|---|-----|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 5 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子微量 |

第47号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|---------------------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 2 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| | | | 3 | 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 |

第48号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------------|---|-----|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 3 | 暗褐色 | ローム中・小ブロック多量, ローム大ブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム大・中ブロック・ローム粒子少量 |

第49号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量 | 3 | 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 |

第50号土坑土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子微量 | 2 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| | | | 3 | 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 |

表3 宮ヶ崎城跡時期不明土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	D3 _{b1}	N-28°-W	不整楕円形	1.22 × 0.60	30	緩斜	平坦	自然		
2	D3 _{b2}	-	円形	1.35 × 1.30	32	外傾	平坦	自然		
4	D3 _{b3}	N-42°-W	不定形	[2.40]×[1.90]	36	外傾	平坦	自然	土師器片9 陶器片2	不明遺構より新
6	D3 _{b1}	N-81°-W	不整楕円形	0.75 × 0.55	10	緩斜	平坦	自然		
7	C3 _{j0}	N-3°-W	不定形	2.25 × 2.08	126	緩斜	平坦	自然	土師器片6	
8	C3 _{i0}	N-88°-E	不定形	1.85 × 0.70	100	外傾	平坦	自然	土師器片3	
9	C5 _{h6}	N-56°-W	不定形	[2.00]×1.30	30	外傾	平坦	自然	土師器片21	
11	D3 _{a8}	-	円形	1.00 × 0.90	26	外傾	平坦	自然	土師器片1	
13	D2 _{d4}	N-69°-W	楕円形	2.30 × 1.12	42	外傾	平坦	自然	土師器片6 須恵器片1	
14	C5 _{g0}	N-72°-W	長方形	2.04 × 0.98	12	外傾	平坦	自然		
15	C6 _{f1}	N-69°-W	長方形	2.05 × 0.85	36	外傾	凹凸	人為		S K16より新
16	C6 _{g1}	N-68°-W	長方形	1.45 × 1.10	42	外傾	凹凸	人為		S K15より古
17	C6 _{g1}	N-71°-W	長方形	1.70 × 0.85	26	外傾	凹凸	人為		S K18より古
18	C6 _{g1}	N-35°-W	不整円形	0.83 × [0.80]	24	外傾	平坦	自然		S K17より新
20	C6 _{h1}	-	円形	0.60 × 0.60	10	外傾	平坦	自然		S K25より新
21	C6 _{g1}	N-68°-W	[長楕円形]	[1.53]×0.83	10	外傾	凹凸	人為		S K22より古
22	C6 _{g1}	N-77°-W	[長楕円形]	[1.40]×0.75	4	緩斜	平坦	自然		S K17, S K21より新
23	C6 _{g2}	N-57°-W	方形	1.13 × 1.12	24	外傾	平坦	自然	土師器片1 須恵器片1	
24	C6 _{g2}	N-53°-W	方形	1.00 × 0.90	20	外傾	平坦	自然	土師器片1 須恵器片1	
25	C6 _{h1}	N-66°-W	楕円形	2.60 × 1.95	10	緩斜	平坦	自然		S K20より古
26	C5 _{g7}	N-25°-E	[長方形]	[1.95]×1.40	28	外傾	平坦	自然	土師器片7 須恵器片2	
27	C5 _{h7}	N-38°-E	不整楕円形	2.25 × 1.05	38	外傾	平坦	自然	土師器片6 須恵器片1	
28	C5 _{h7}	N-70°-W	不整楕円形	1.40 × 0.32	22	緩斜	平坦	自然		
29	C5 _{h8}	N-71°-W	[長方形]	[2.65]×1.60	10	緩斜	平坦	自然	土師器片7 須恵器片1	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
30	C5 _{g8}	N-80°-W	不整楕円形	0.72 × 0.65	12	外傾	平坦	自然		
31	C6 _{i4}	N-80°-W	長 方 形	1.24 × 0.75	10	緩斜	平坦	自然		SD3より新
32	C6 _{h5}	-	円 形	0.95 × 0.90	20	外傾	平坦	自然		SD3より新
33	C6 _{i5}	-	円 形	0.78 × 0.75	44	垂直	凹凸	人為	土師器片2 須恵器片1	SD3より新
34	C6 _{h5}	N-13°-E	方 形	1.36 × 1.26	44	外傾	平坦	人為	土師器片1	SD3より新
35	C6 _{h6}	-	円 形	0.97 × 0.87	30	外傾	平坦	自然		SD3より新
36	C6 _{j0}	N-20°-E	楕 円 形	2.80 × 1.15	20	外傾	平坦	自然		
37	D3 _{b9}	N-76°-W	円 形	1.15 × 1.05	10	緩斜	平坦	自然		
39	D3 _{b6}	N-44°-W	長 方 形	1.87 × 0.85	34	外傾	平坦	自然		
40	D3 _{b6}	N-56°-W	楕 円 形	0.85 × 0.60	16	緩斜	皿状	自然		
41	C6 _{j0}	N-20°-E	楕 円 形	1.35 × 0.96	25	緩斜	平坦	自然		
42	D3 _{c4}	N-65°-W	楕 円 形	1.64 × 1.10	20	外傾	平坦	自然		
43	D3 _{c5}	N-33°-E	楕 円 形	1.04 × 0.62	28	外傾	皿状	自然		
44	D3 _{c5}	N-75°-E	不 定 形	1.16 × (0.55)	28	緩斜	平坦	人為		
45	C8 _{e9}	N-0°	[長方形]	(2.00) × 1.55	38	外傾	平坦	人為		
46	C8 _{d4}	N-90°	方 形	1.16 × 1.13	58	外傾	凹凸	人為		
47	C8 _{d4}	-	円 形	0.94 × 0.89	65	垂直	平坦	自然		
48	C5 _{i0}	N-62°-E	楕 円 形	1.25 × 0.88	40	外傾	平坦	自然	土師器片1 土玉1	
49	C8 _{f3}	N-0°	不 定 形	2.60 × (1.85)	48	外傾	平坦	人為	土師器片6 鉄滓4	
50	C8 _{e5}	N-84°-W	不 定 形	1.75 × (0.80)	86	外傾	皿状	人為		

(3) 溝 (第41図)

当遺跡からは6条の溝を検出した。遺構の配置から、区画のための機能をもつ溝跡 (SD7~9) や、覆土の状況などから城跡に伴う溝跡あるいは近世の溝跡 (SD2, 3) と思われるものがあるが、遺物も少なく、その性格や時期は不明である。以下、溝の記載は省略し、第41図に土層断面図を掲載する。

溝土層解説

第2号溝土層解説

1 暗 褐 色 ローム大・中ブロック・小石少量, ローム粒子微量 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・小石少量
2 褐 色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 4 暗 褐 色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・小石少量

第3号溝土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 5 褐 色 ローム粒子中量, 小石・砂・鹿沼土小ブロック
2 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 少量
3 暗 褐 色 鹿沼土中量, ローム粒子微量 6 褐 色 ローム粒子中量, 小石・鹿沼土少量
4 褐 色 ローム粒子多量, 小石少量, ローム小ブロック・粘土ブロック微量 7 暗 褐 色 ローム粒子・小石少量, ローム中・小ブロック微量

第7号溝土層解説

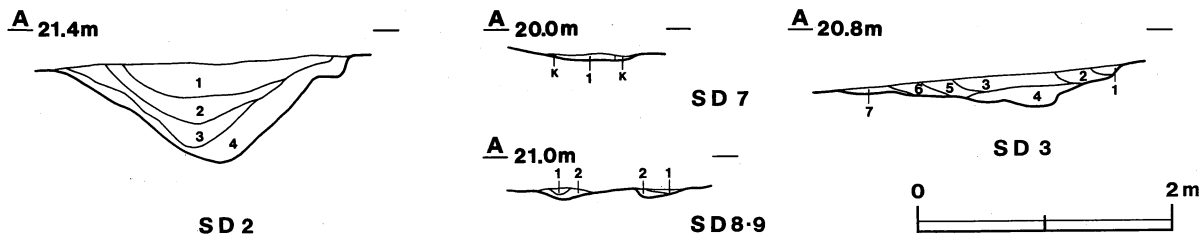
1 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第8号溝土層解説

1 褐 色 ローム大・中・小ブロック少量, ローム粒子微量
2 褐 色 ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量

第9号溝土層解説

1 褐 色 ローム中・小ブロック・砂利・小石少量
2 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量



第41図 時期不明溝土層断面図

表4 溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				断面	底面	覆土	主な遺物	備考 (新→旧)
				確認長(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
1	C7 _{d4} ~C9 _{e0}	N-10°-E	直線	(90.0)	250~460	100~200	80~90	薬研掘	皿状	人為	土師器片148点, 須恵器片42点, 陶器片1点	SD10→本跡
2	C7 _{e0} ~C7 _{e3}	N-100°-E	直線	55.0	120~220	8~24	50~80	U字形	平坦	自然	土師器片64点, 須恵器片25点	
3	B4 _{i5} ~B4 _{i3}	N-110°-E	直線	(30.0)	60~180	20~120	20~120	U字形	平坦	人為	土師器片93点, 須恵器片37点	本跡→SI8
6	C3 _{j4} ~C3 _{j8}	N-100°-E	直線	14.0	40~106	40~45	2~10	U字形	皿状	人為		
7	C3 _{j4} ~D3 _{c4}	N-30°-E	直線	10.5	60~70	24~84	4~8	U字形	平坦	自然		
8	D2 _{a5} ~D2 _{d3}	N-35°-E	直線	(23.7)	12~48	11~90	2~8	U字形	凹凸	自然		
9	D2 _{a5} ~D2 _{d3}	N-0°	直線	(5.0)	61~97	11~30	2~10	U字形	凹凸	人為		
10	B9 _{j2} ~C9 _{c3}	N-40°-E	直線	(12.0)	250~350	90~110	37~40	薬研掘	平坦	自然	土師器片8点, 須恵器片4点	

(4) 不明遺構

本調査区の中央から西側区域(調査1区~3区)で, 不明遺構3基を調査した。

第1号不明遺構(第42図)

位置 調査1区東部, D2_{b2}区。

規模と平面形 一辺が2.15mの方形。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は7~16cmで, わずかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁・P₂は, 径20~30cmほどの円形, 深さ17~20cmで, P₁は南壁中央部側にあり, P₂は南壁中央部から50cm内側にある。

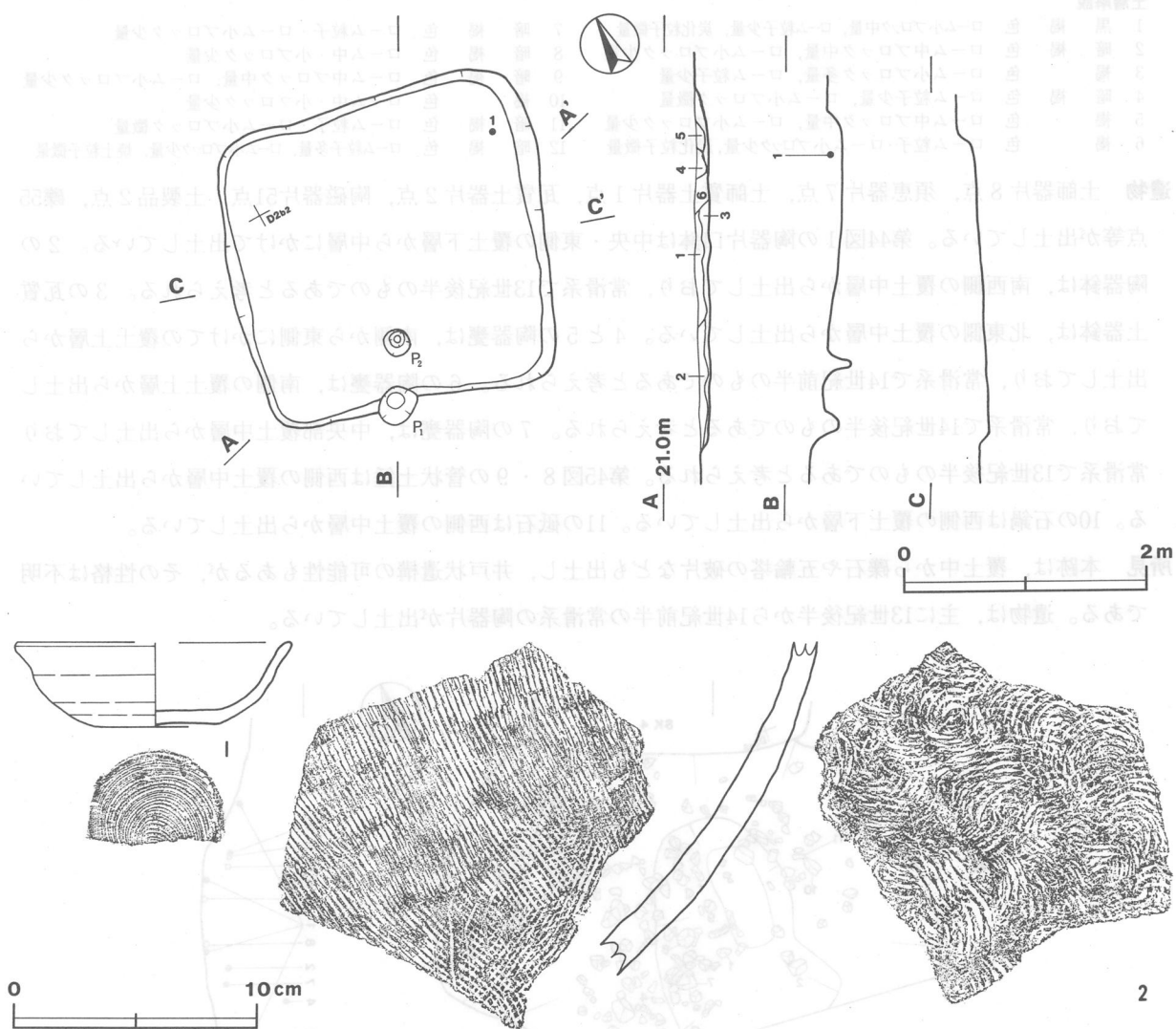
覆土 6層からなり, 人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	4 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	5 褐色	ローム粒子少量, ローム粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量, ローム粒子少量	6 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片27点が出土している。第42図1の土師器環は北東コーナーの覆土中層から出土している。2は南東側覆土中から出土した須恵器甕の体部片で, 外面に縦位の叩きと格子目状の叩きが, 内面に同心円状の当て具痕が施されている。

所見 本跡は, 遺構の形態から土倉的性格をもつ方形竪穴状遺構の可能性もあるが, 出土遺物が少なく, その性格や時期は不明である。



第42図 第1号不明遺構，出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	坏 土師器	A [11.5] B 3.5 C [5.5]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英 褐色 普通	P84 P L15 50% 北東側中層

第2号不明遺構 (第43図)

位置 調査B区東部，B3a9区。

重複関係 第4号土坑に掘り込まれているので，第4号土坑より古い。

規模と形状 確認面は，長径が4.00m，短径(2.40)mの楕円形で，深さは85cmである。

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

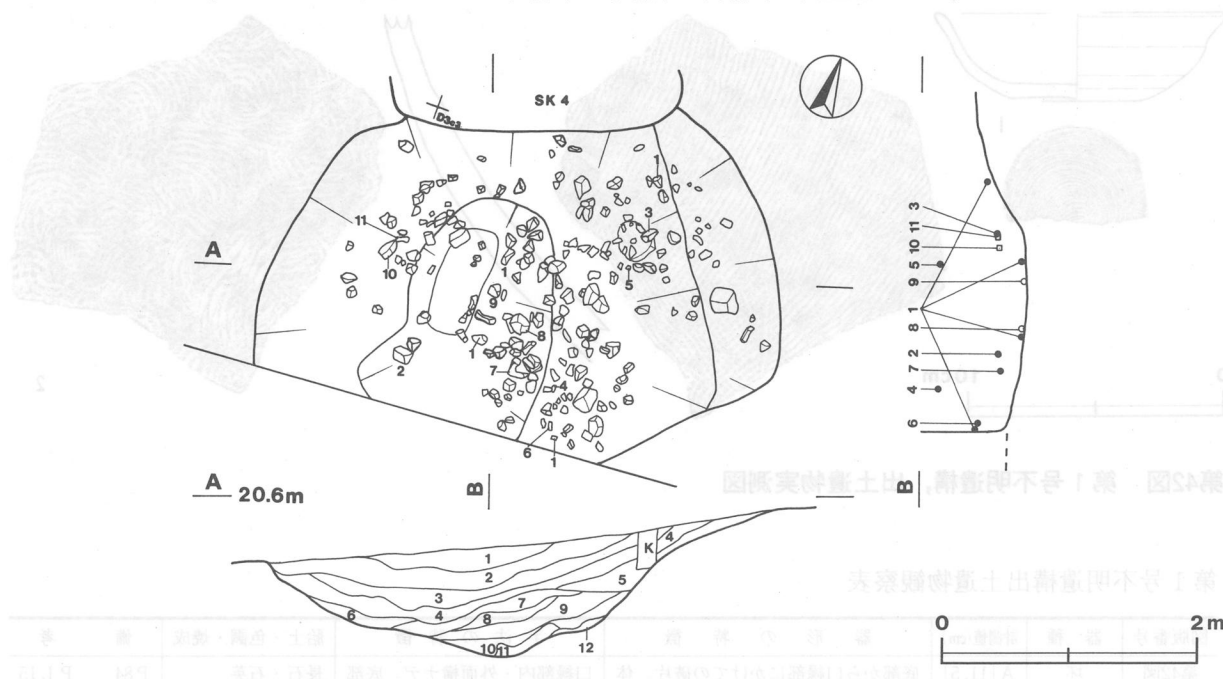
覆土 12層からなり，ロームブロックが多量に含まれており，一部人為堆積の可能性はあるが，その他は自然堆積とみられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム中・小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 10 褐色 | ローム中・小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片 8 点, 須恵器片 7 点, 土師質土器片 1 点, 瓦質土器片 2 点, 陶磁器片 51 点, 土製品 2 点, 礫 55 点等が出土している。第44図1の陶器片口鉢は中央・東側の覆土下層から中層にかけて出土している。2の陶器鉢は, 南西側の覆土中層から出土しており, 常滑系で13世紀後半のものであると考えられる。3の瓦質土器鉢は, 北東側の覆土中層から出土している。4と5の陶器甕は, 南側から東側にかけての覆土上層から出土しており, 常滑系で14世紀前半のものであると考えられる。6の陶器甕は, 南側の覆土上層から出土しており, 常滑系で14世紀後半のものであると考えられる。7の陶器甕は, 中央部覆土中層から出土しており常滑系で13世紀後半のものであると考えられる。第45図8・9の管状土鍾は西側の覆土中層から出土している。10の石鍋は西側の覆土下層から出土している。11の砥石は西側の覆土中層から出土している。

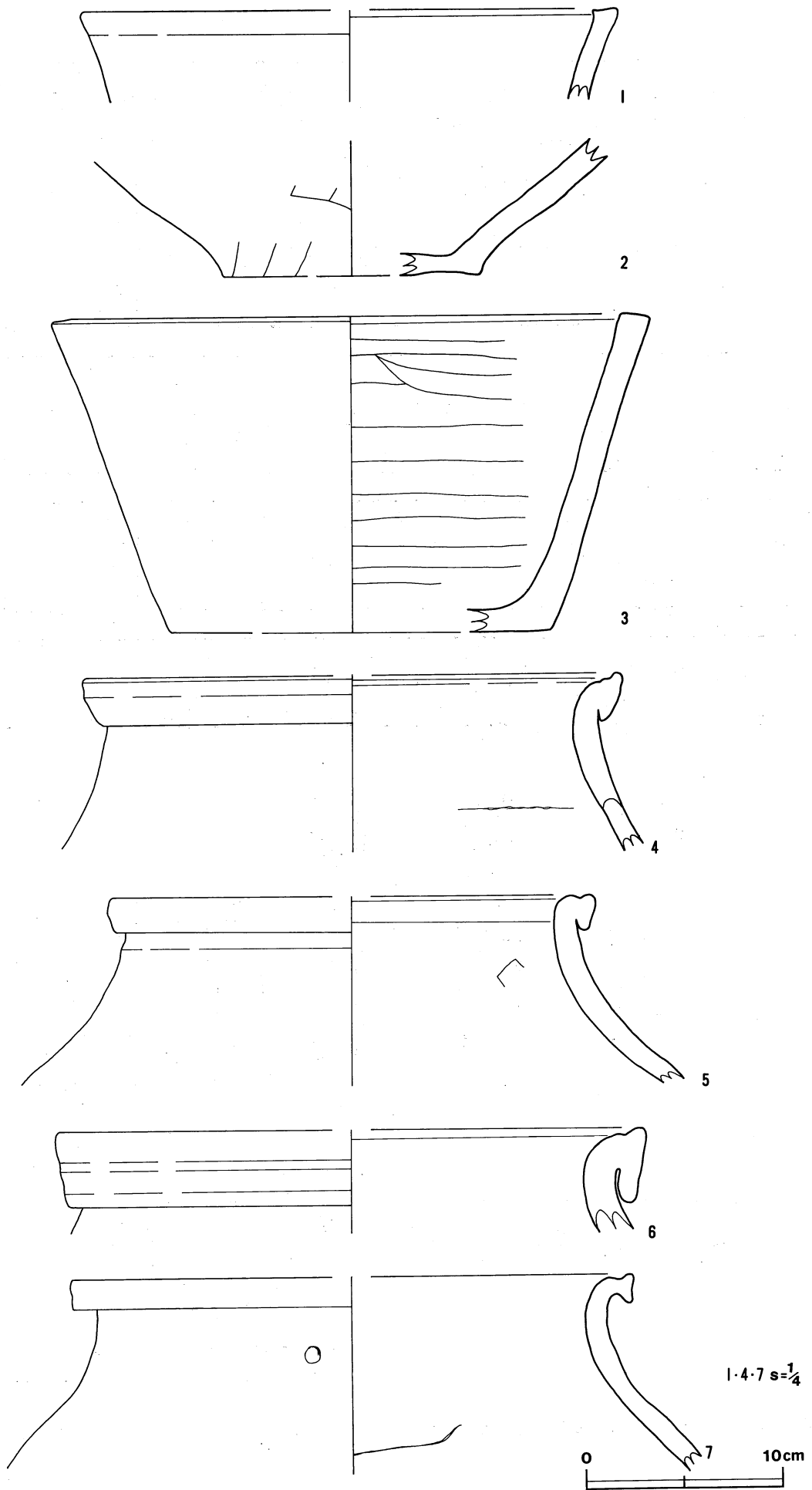
所見 本跡は, 覆土中から礫石や五輪塔の破片なども出土し, 井戸状遺構の可能性もあるが, その性格は不明である。遺物は, 主に13世紀後半から14世紀前半の常滑系の陶器片が出土している。



第43図 第2号不明遺構実測図

第2号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	片口鉢 陶器	A [36.2] B (6.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外方へ直線的に開く。口縁端部は平坦面をもつが, その内側は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P90 常滑系 PL15 10% 13C 後半 中央・東側覆土下・中層
2	鉢 陶器	B (6.9) C [13.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外方へ直線的に開く。	体部外面ヘラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P91 常滑系 PL15 10% 13C 後半 南側覆土下層
3	鉢 瓦質土器	A 30.8 B 16.2 C [19.6]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面クロナデ。 内面ナデ。	長石 灰色 普通	P85 PL15 60% 北東側覆土中層
4	甕 陶器	A [37.0] B (12.1)	体部から口縁部にかけての破片。幅の広い粘土帯が巡る断面N字状口縁である。	口縁部内・外面ナデ。輪積み痕有り。	長石・石英・小礫 にぶい赤褐色 普通	P88 常滑系 PL15 10% 14C 前半 南側覆土上層



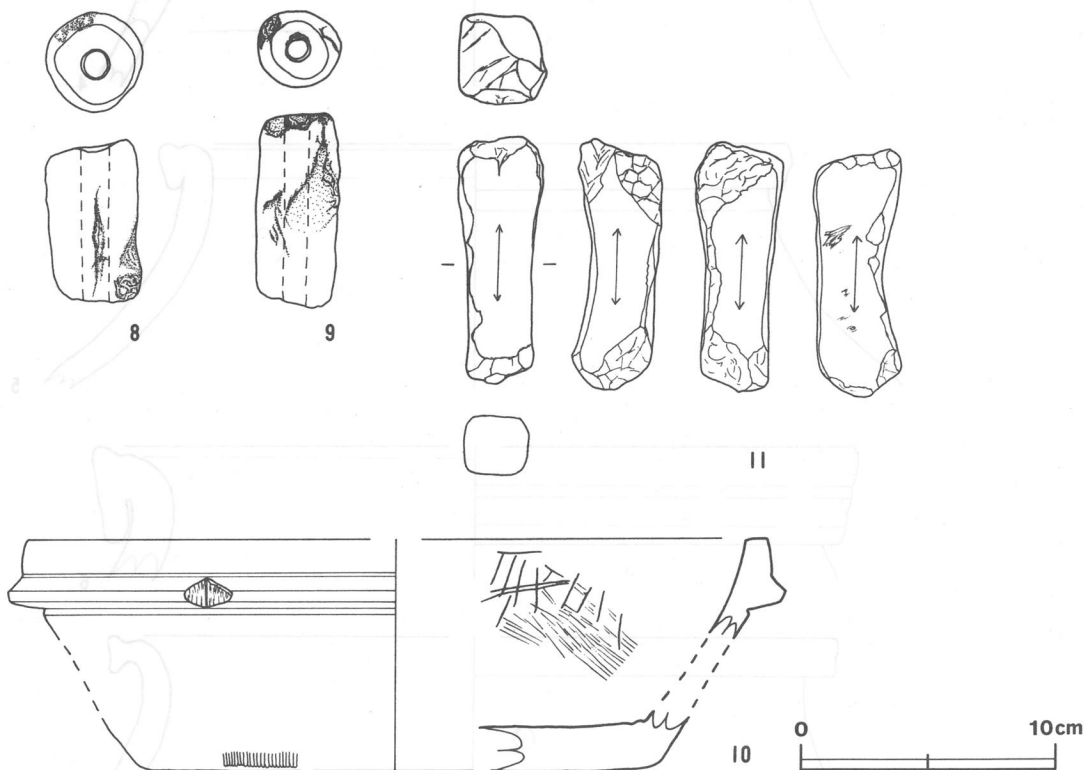
第44図 第2号不明遺構出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 5	甕 陶器	A [24.6] B (9.5)	体部から口縁部にかけての破片。幅の狭い粘土帯が巡る断面N字状口縁である。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・石英にぶい赤褐色普通	P 89 P L 15 10% 常滑系 14C前半 東側覆土上層
6	甕 陶器	A [30.3] B (5.3)	頸部から口縁部にかけての破片。幅の広い粘土帯が巡る断面N字状口縁である。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英赤褐色普通	P 87 P L 15 5% 常滑系 14C後半 南側覆土上層
7	甕 陶器	A [38.2] B (12.5)	体部から口縁部にかけての破片。幅の狭い粘土帯が巡る断面N字状口縁である。	口縁部内・外面ナデ。輪積み痕有り。	長石・石英暗灰黄色普通	P 86 P L 15 10% 常滑系 13C後半 南側覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第45図8	管状土錘	6.3	3.8	1.0~1.1	85.9	西側覆土中層	D P 82 100%
9	管状土錘	7.7	3.3	0.9~1.0	88.0	西側覆土中層	D P 83 100%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 10	石鍋 石製品	A [39.0] B (5.3) C [27.4]	底部、口縁部片。口縁部下位に鑿を有し、口縁部はやや内傾する。	内・外面とも鉄製工具による削り出し。	滑石にぶい黄橙色	Q 5 P L 21 30% 西側覆土中層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第45図11	砥石	9.7	3.5	2.4	(150.1)	砂岩	西側覆土中層	Q 6 P L 20



第45図 第2号不明遺構出土遺物実測図(2)

第3号不明遺構 (第46図)

位置 調査3区西部, C6₁₁区。

規模と平面形 西側と南側半分が調査区域外のため規模や平面形は明らかではなく, 現存するのは長軸(6.45)m, 短軸(4.70)mである。

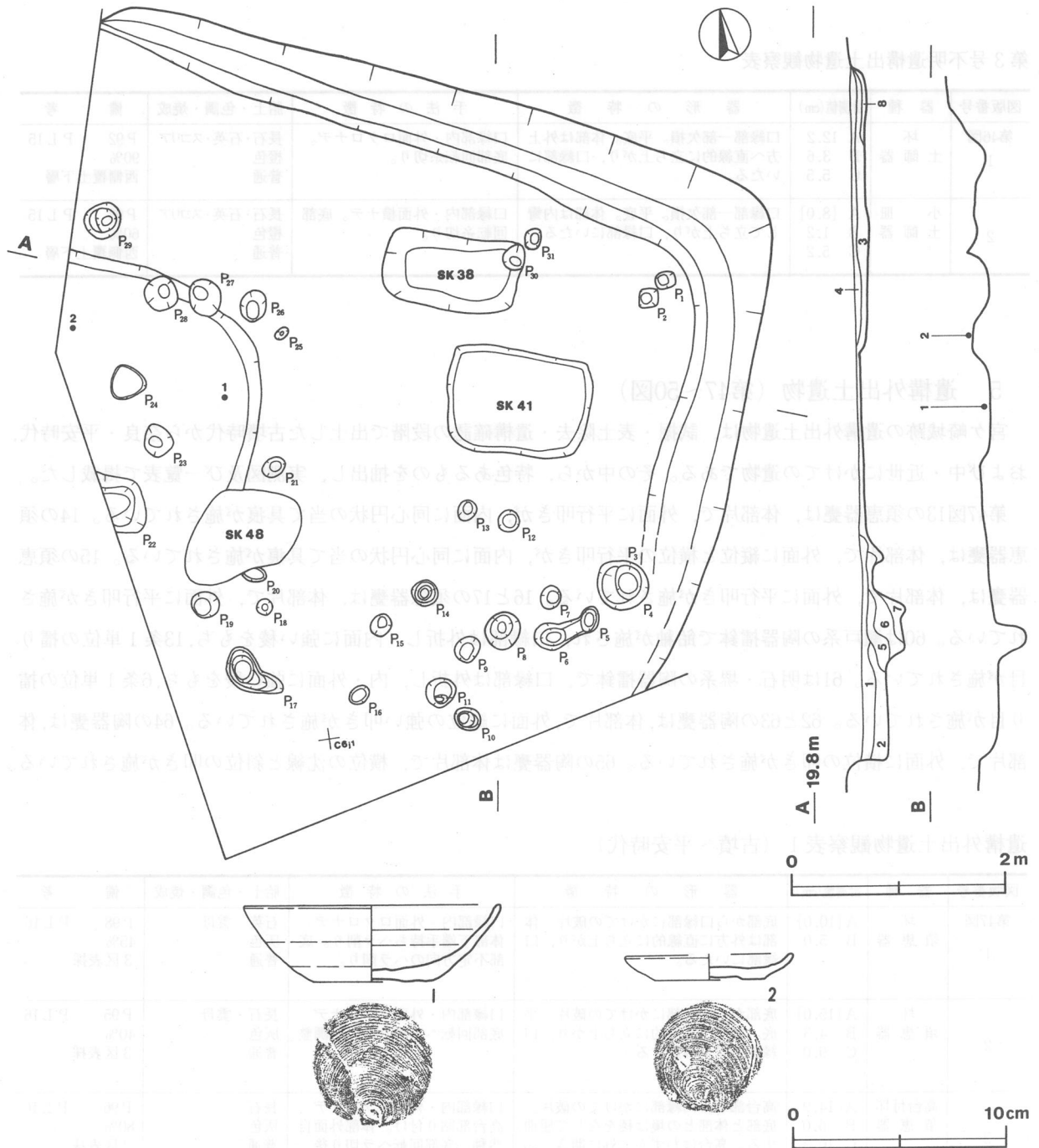
主軸方向 [N-30°-W]

壁 壁高は10~25cmで, わずかに外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅30~95cm, 下幅9~37cm, 断面形はU字形で, 北側から東側を巡っている。

底面 平坦である。

ピット 31か所(P₁~P₃₁)。P₁~P₃₁は, 径14~51cmほどの円形, 深さ11~57cmで, 性格不明のピットである。



第46図 第3号不明遺構出土遺物実測図

覆土 8層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼土少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5	にぶい褐色	ローム粒子・砂・鹿沼土少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・鹿沼土少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子・砂・鹿沼土少量, 炭化粒子微量
3	褐色	砂中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量・ローム小ブロック・砂・鹿沼土少量
4	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片112点, 須恵器片9点, 陶磁器片3点, 礫11点等が出土している。第46図1の土師器坏は西側の覆土下層から出土している。2の土師器小皿は, 中央部やや西側の覆土下層から出土している。

所見 本跡は, 遺物も少なく, その性格や時期は不明である。

第3号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 1	坏 土師器	A 12.2 B 3.6 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外上方へ直線的に立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P 92 P L 15 90% 西側覆土下層
2	小皿 土師器	A [8.0] B 1.2 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P 93 P L 15 60% 西側覆土下層

5 遺構外出土遺物 (第47~50図)

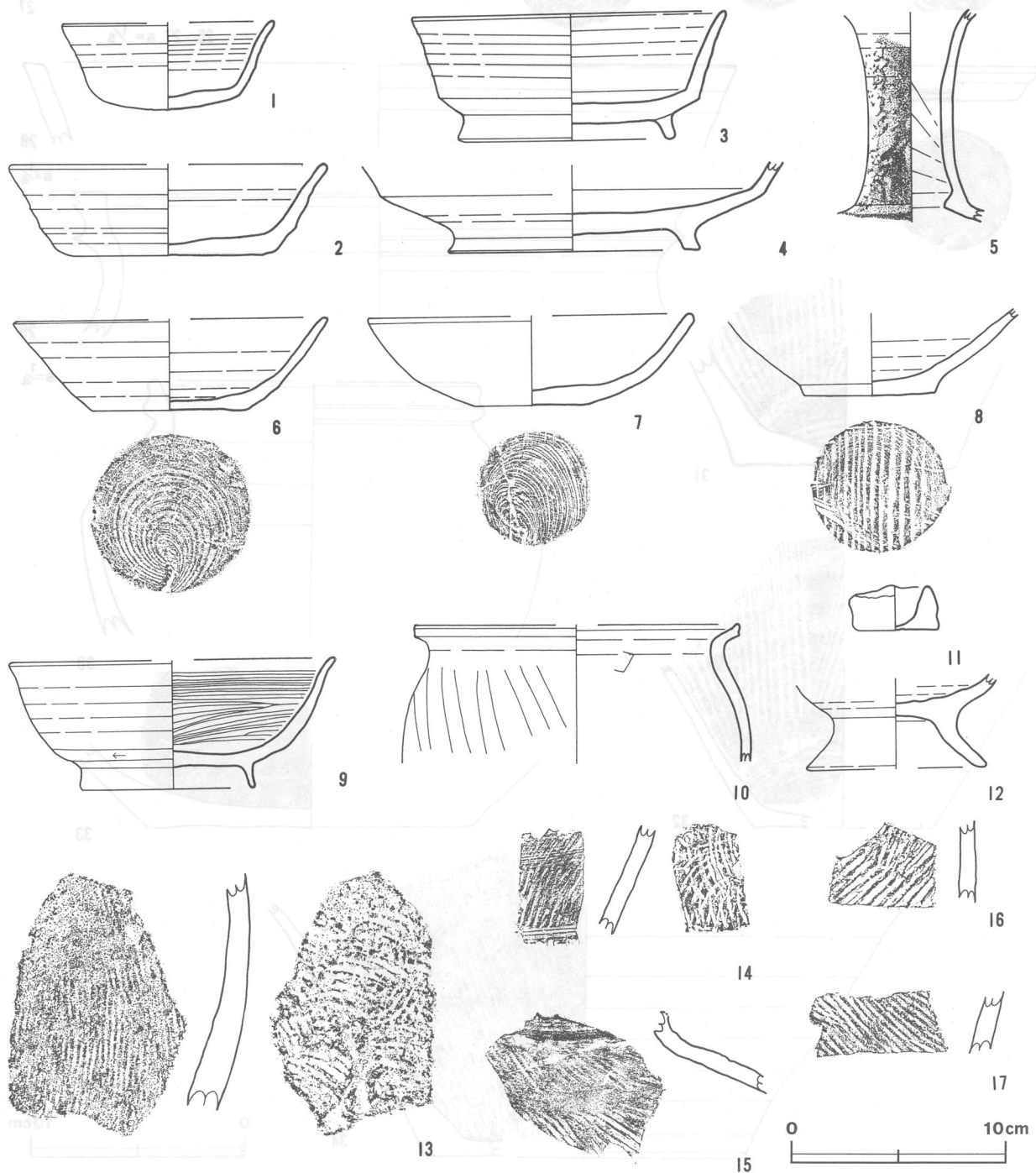
宮ヶ崎城跡の遺構外出土遺物は, 試掘・表土除去・遺構確認の段階で出土した古墳時代から奈良・平安時代, および中・近世にかけての遺物である。その中から, 特色あるものを抽出し, 実測図及び一覧表で掲載した。

第47図13の須恵器甕は, 体部片で, 外面に平行叩きが, 内面に同心円状の当て具痕が施されている。14の須恵器甕は, 体部片で, 外面に縦位と横位の平行叩きが, 内面に同心円状の当て具痕が施されている。15の須恵器甕は, 体部片で, 外面に平行叩きが施されている。16と17の須恵器甕は, 体部片で, 外面に平行叩きが施されている。60は瀬戸系の陶器播鉢で鉛釉が施され, 口縁部は外折し, 内面に強い稜をもち, 13条1単位の播り目が施されている。61は明石・堺系の陶器播鉢で, 口縁部は外折し, 内・外面に強い稜をもち, 6条1単位の播り目が施されている。62と63の陶器甕は, 体部片で, 外面に縦位の強い叩きが施されている。64の陶器甕は, 体部片で, 外面に横位の叩きが施されている。65の陶器甕は体部片で, 横位の沈線と斜位の叩きが施されている。

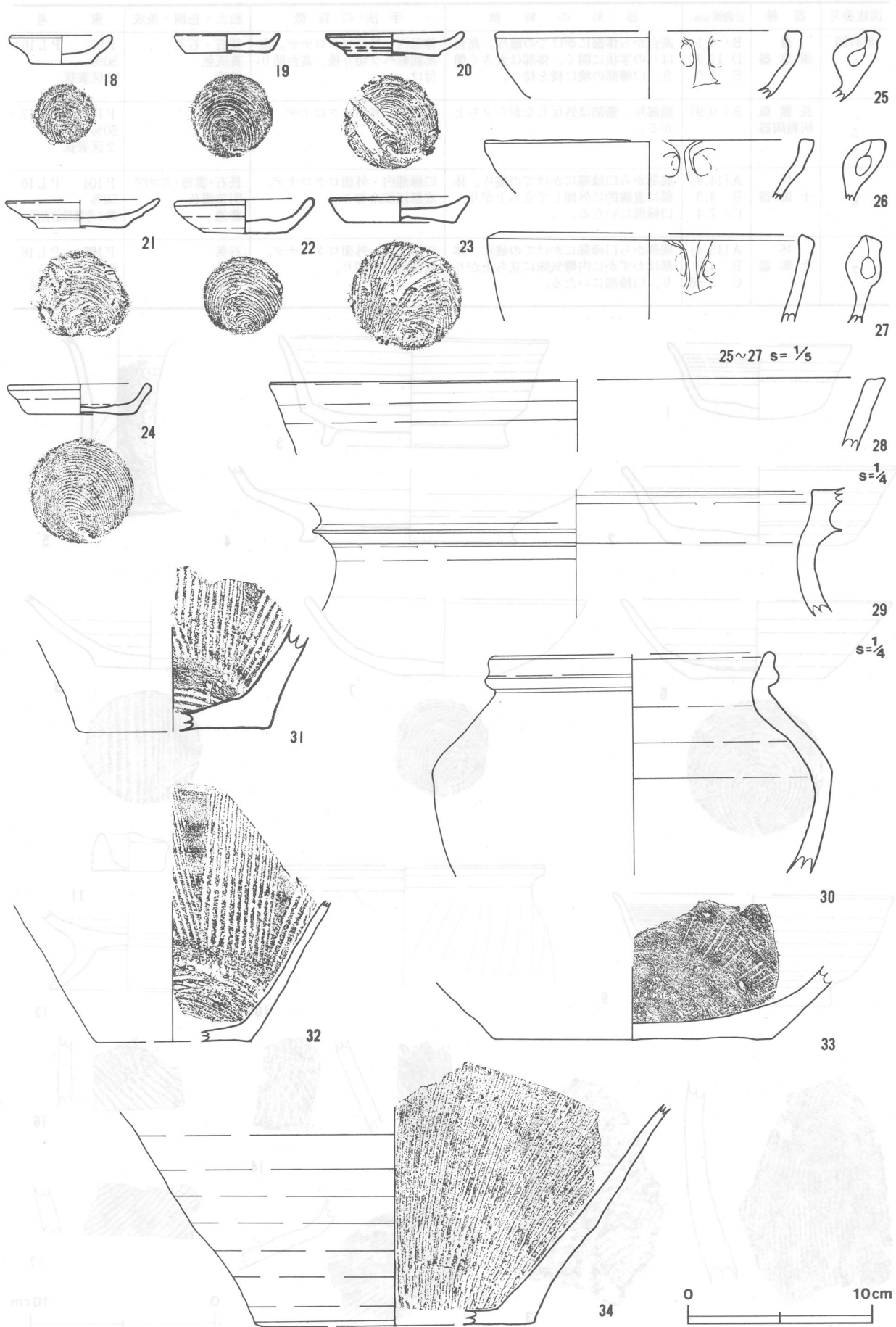
遺構外出土遺物観察表1 (古墳~平安時代)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	坏 須恵器	A [10.0] B 5.0	底部から口縁部にかけての破片。体部は外方に直線的に立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	石英・雲母 灰色 普通	P 98 P L 16 45% 3区表採
2	坏 須恵器	A [15.0] B 4.3 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部でやや外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後, 無調整。	長石・雲母 灰色 普通	P 95 P L 16 40% 3区表採
3	高台付坏 須恵器	A 14.9 B 6.0 C 10.3 E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。底部と体部との境は稜をなして屈曲する。高台はわずかに外に開き, ふんばる。	口縁部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け。体部外面自然釉。底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 96 P L 16 80% 2区表採

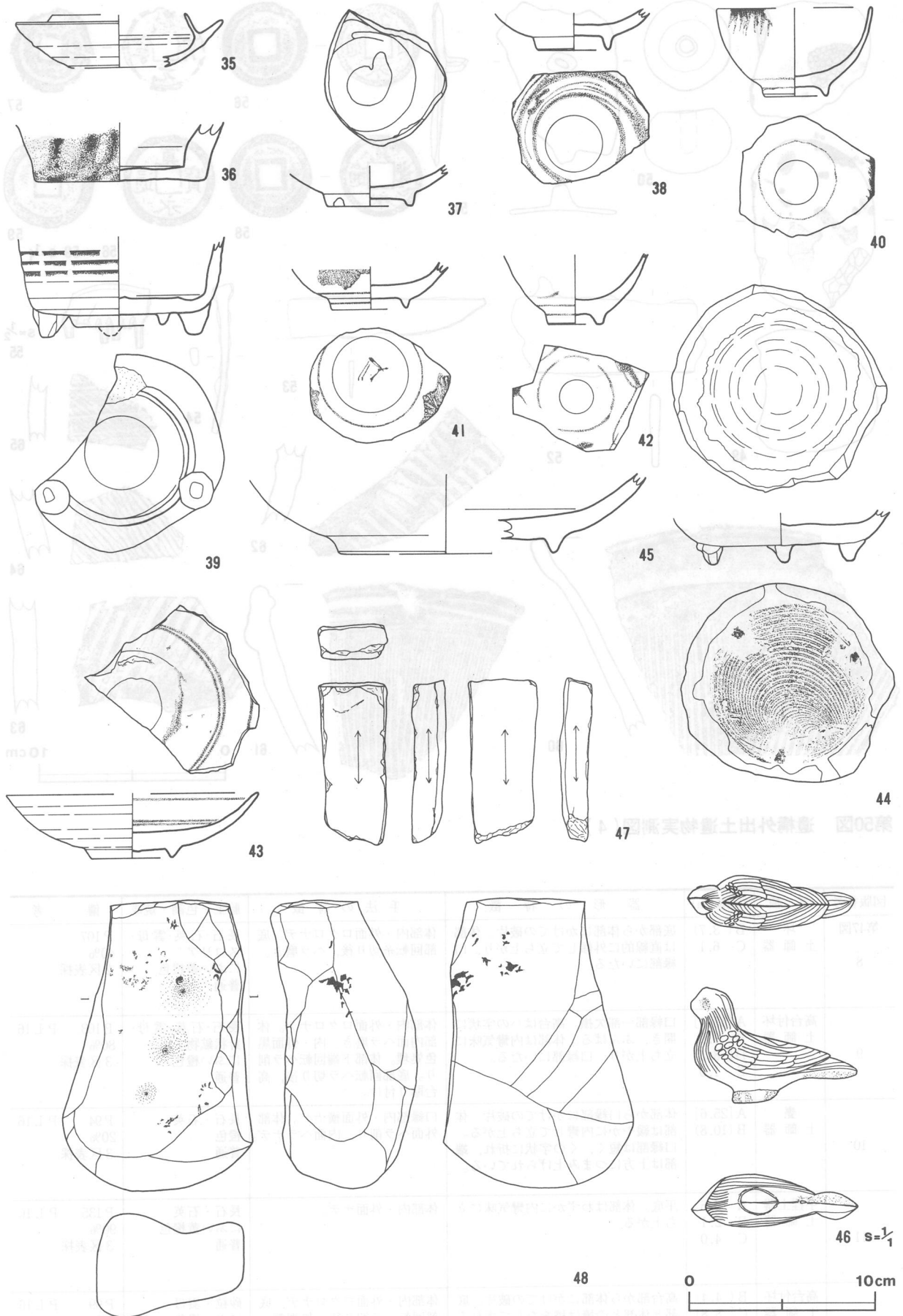
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 4	盤 須恵器	B (4.1) D 11.9 E 1.0	高台から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は大きく開き、口縁部の境に稜を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P 97 P L 16 50% 2区表採
5	長頸瓶 灰釉陶器	B (9.9)	頸部片。頸部は外反しながら立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。	長石 灰黄色 普通	P 101 P L 17 50% 2区表採
6	坏 土師器	A [14.8] B 4.3 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P 104 P L 16 50% 第1号堀周辺表採
7	坏 土師器	A [15.4] B 4.2 C 5.46	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英 橙色 普通	P 105 P L 16 50% 第4号堀周辺表採



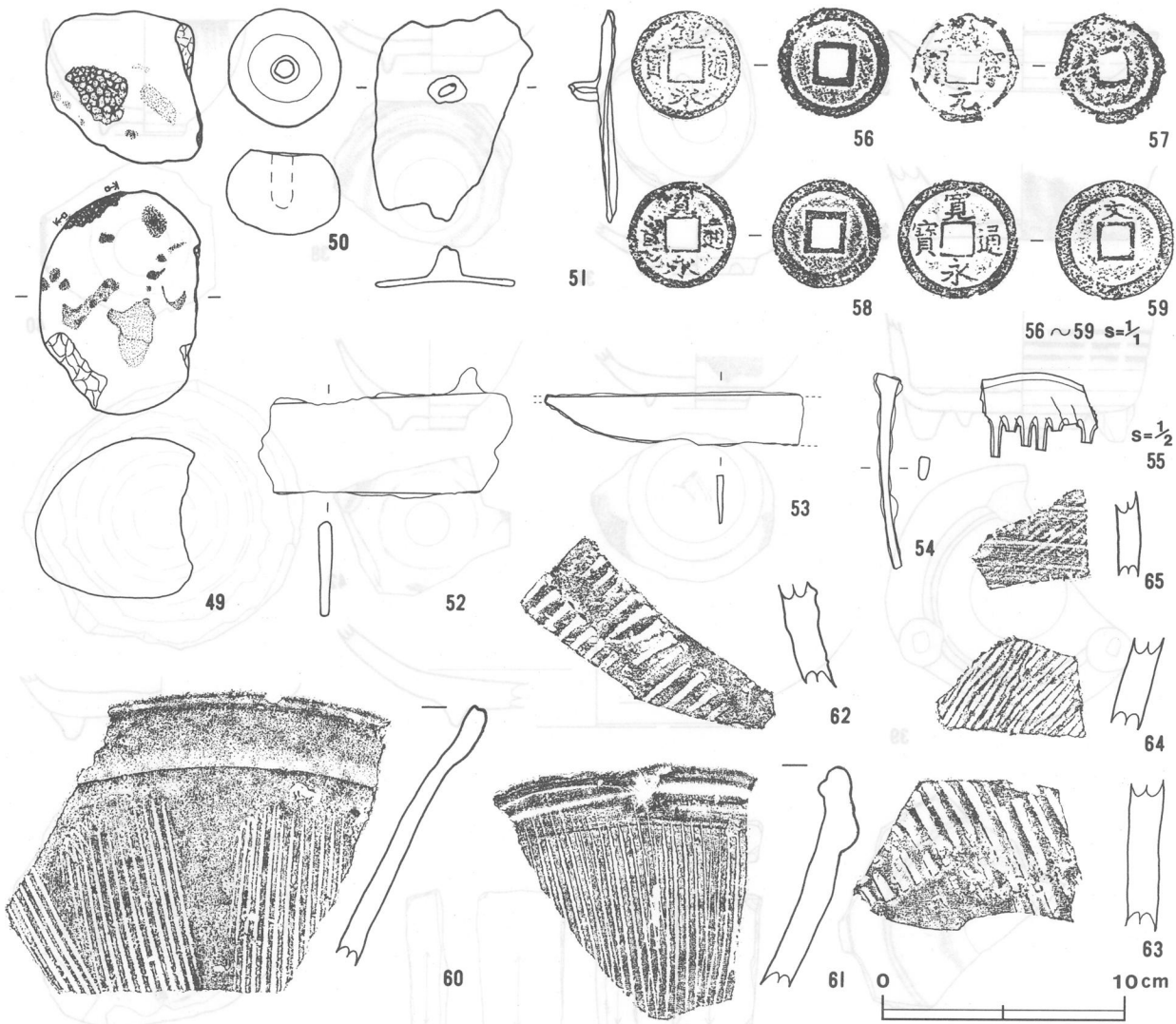
第47図 遺構外出土遺物実測図(1)



第48図 遺構外出土遺物実測図(2)



第49図 遺構外出土遺物実測図(3)



第50図 遺構外出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 8	坏 土師器	B(3.7) C 6.1	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい黄橙色普通	P107 40% 2区表採
9	高台付坏 土師器	A[15.4] B 6.0 D[8.3] E 1.0	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開き、ふんばる。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母・針状鉱物にぶい橙色普通	P103 P L16 80% 3区表採
10	甕 土師器	A[25.6] B(10.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部は短く、くの字状に折れ、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P94 P L16 20% 3区表採
11	手捏土器 土師器	A 3.6 B 2.1 C 4.0	平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P135 P L16 90% 3区表採
12	高台付坏 土師器	B(4.4) C[8.8] E 2.3	高台部から体部にかけての破片。底部と体部との境は稜をなして折れる。高台はわずかに外に開き、ふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、無調整。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P99 P L16 40% 3区表採

遺構外出土遺物観察表2 (中・近世)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 18	小皿 土師質土器	A 5.7 B 1.5 C 3.3	平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 橙色 普通	P 114 P L 16 60% 2区表採
19	小皿 土師質土器	A 5.8 B 1.5 C 4.6	平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P 112 P L 16 100% 3区表採
20	小皿 土師質土器	A 7.6 B 1.4 C 5.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 111 P L 16 100% 2区表採
21	小皿 土師質土器	A [8.4] B 1.5 C 4.9	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 108 P L 16 50% 2区表採
22	小皿 土師質土器	A 7.6 B 1.9 C 4.5	体部一部欠損。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア 橙色 普通	P 113 P L 16 95% 4区表採
23	小皿 土師質土器	A 7.6 B 1.4 C 3.0	平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 110 P L 16 100% 2区表採
24	小皿 土師質土器	A 7.8 B 1.7 C 5.8	平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 109 P L 16 100% 2区表採
25	焙烙 土師質土器	A [27.9] B (6.1)	内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。耳は体部と底部の境から貼り付け。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 118 P L 16 5% 4区表採
26	焙烙 土師質土器	A [30.0] B (6.0)	内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。耳は口縁部と底部の境から貼り付け。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 117 P L 16 5% 4区表採
27	内耳鍋 土師質土器	A [29.6] B (8.6)	内耳1か所残存。口縁端部は分厚い耳は口縁部と体部の境から貼り付け。	口縁部内・外面ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P 116 P L 17 5% 4区表採
28	片口鉢 陶器	A [38.0] B (5.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外へ直線的に開きながら、立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 良好	P 82 P L 17 5% 4区表採
29	甕 陶器	A [39.0] B (9.3)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に開く。口縁端部は平坦面を持つ。	口縁部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 良好	P 132 P L 16 10% 常滑系 16C前半 4区表採
30	壺 陶器	A [16.0] B (12.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・石英・礫 暗赤褐色 良好	P 131 20% 常滑系 15C前半 4区表採
31	播陶 鉢器	B (5.7) C [10.6]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	内・外面ナデ。10条1単位の播り目底部回転糸切り痕。鏝釉。	長石 にぶい赤褐色 良好	P 134 10% 瀬戸・美濃系 4区表採
32	播陶 鉢器	B (12.6) C [14.0]	底部から体部にかけての破片。体部は外方へ直線的に開く。	内・外面ナデ。11条1単位の播り目底部回転糸切り痕。鉄釉。	長石・雲母 にぶい橙色 良好	P 119 P L 16 10% 瀬戸・美濃系 4区表採
33	播陶 鉢器	B (4.0) C [15.4]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	内・外面ナデ。5条以上で1単位の播り目。	長石・雲母 明赤褐色 良好	P 120 P L 17 20% 明石・境系 4区表採
34	播陶 鉢器	B (11.9) C [15.4]	底部から体部にかけての破片。体部は外方へ直線的に開く。	体部内・外面ナデ。8条1単位の播り目。	長石・小礫 にぶい赤褐色 良好	P 133 15% 丹波系 4区表採
第49図 35	灯明受皿 陶器	A [11.2] B 2.9 C [5.4]	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面回転ヘラ削り。透明釉。	長石 赤褐色 良好	P 115 P L 17 40% 4区表採
36	瓶 灰釉陶器	B (4.1) C [9.2]	底部から体部にかけての破片。体部は外に直線的に立ち上がる。	内・外面ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 良好	P 100 P L 17 10% 瀬戸・美濃系 4区表採

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 37	銅緑釉 輪禿皿 器	B(2.2) D[4.6] E 0.7	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	見込み蛇の目釉剥ぎ畳付き。高台削り出し。	長石 灰褐色 良好	P127 P L17 10% 肥前系唐津 4区表採
38	小碗 器	B(2.2) D 4.0 E 0.7	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	三島手。体部外面から見込み全体に白泥塗布後、波状文を線引き。高台削り出し。	長石・雲母 乳白色 良好	P126 P L17 10% 肥前系唐津 4区表採
39	香炉 器	B(5.3) C 8.2	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。二足残存。	筒形。ロクロ整形。底裏に沈線が施されている。内面無釉。	長石 明緑灰色 良好	P129 P L17 20% 瀬戸・美濃系 4区表採
40	染付猪口 磁器	B(8.4) D 4.8 E 3.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部雨降り文。底裏砂付着。染付け透明釉。	長石 灰白色 良好	P122 P L17 10% 肥前系 4区表採
41	染付丸碗 磁器	B(2.4) D 4.1 E 0.5	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	コンニャク印判。桐の葉文。染付け透明釉。	長石 灰白色 良好	P123 P L17 10% 肥前系 4区表採
42	染付猪口 磁器	B(3.8) D 3.0 E 0.6	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	底裏砂付着。染付け透明釉。	長石 灰白色 良好	P124 P L17 10% 肥前系 4区表採
43	小皿 器	A[13.6] B 3.5 C 4.4	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	見込み蛇の目釉剥ぎ畳付き。高台削り出し。畳付砂付着。	長石 明緑灰色 良好	P125 P L17 10% 4区表採
44	香炉 器	B(2.7) D 9.1 E 1.2	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。三足。	筒形。ロクロ整形。見込み蛇の目釉剥ぎ畳付き。底部回転糸切り。	長石 明黄灰色 良好	P128 P L17 20% 4区表採
45	青盤 磁器	A 21.4 B(4.3) C 11.4	底部から体部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	透明釉。	長石 明緑灰色 良好	P130 P L17 15% 龍泉窯 4区表採

遺構外出土遺物土製品・石製品・鉄製品・その他(平安・中近世)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第49図46	鳥形土製品	3.2	0.8	0.7	—	2.4	3区表採	D P84 P L18
47	砥石	(8.8)	3.8	1.4	—	(95.1)	3区表採	Q9 凝灰岩 P L20
48	カナメ石	(21.1)	13.5	7.4	—	(3540.0)	3区表採	Q7 砂岩 P L20
第50図49	敲石	(9.1)	6.7	6.8	—	(517.5)	3区表採	Q8 砂岩 P L21
50	紡錘車	4.9	4.9	3.5	0.8	97.4	3区表採	Q10 粘板岩 P L21
51	鉄鍋	(8.8)	6.6	1.7	—	(48.8)	3区表採	M19 P L21
52	刀子	(10.8)	2.2	0.3	—	(39.1)	3区表採	M20
53	不明鉄製品	(5.2)	2.6	0.3	—	19.7	3区表採	M21
54	釘	(8.3)	1.2	0.4~0.6	—	(13.7)	3区表採	M22
55	櫛	3.3	2.4	0.4	—	3.0	3区表採	N1 材質龜甲 P L21

遺構外出土遺物古銭(中・近世)

図版番号	銭種	初 鑄 年		現存率 (%)	出土地点	備考
		時代	年号(西暦)			
第50図56	寛永通宝	江戸	寛永13年(1636)	100	3区表採	M23 P L21
57	熙寧元宝	北宋	(1068)	100	3区表採	M24 P L21
58	寛永通宝	江戸	寛永13年(1636)	100	3区表採	M26 P L21
59	寛永通宝	江戸	寛永13年(1636)	100	3区表採	M25 P L21

第4節 まとめ

今回の調査によって、当遺跡から古墳時代後期の竪穴住居跡4軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡11軒、鍛冶工房跡1棟、土坑1基、中世の溝2条、堀1条、土橋2か所、その他時期不明の溝6条、土坑44基、ピット群1か所、不明遺構3基を検出した。ここでは、古墳時代、奈良・平安時代及び宮ヶ崎城跡に関係の深い中世の遺構と出土遺物等についての概要を述べ、まとめとする。

古墳時代

竪穴住居跡4軒を検出した。6世紀後半から7世紀後半にかけての古墳時代後期の住居跡である。第1・3・7・9号住居跡の計4軒が該当する。これらの住居跡は、潤沼に突き出した台地の南側の緩やかな日当たりの良い傾斜地にあり、北側中央部からやや東側にかけて竈を持つ住居跡である。遺物は、第1号住居跡から湖西産の甕が出土している。また、土玉や管状土錘が出土し、遺構の北側にある潤沼で、漁網による漁労を盛んにしていたことがうかがえる。当時の潤沼域の生業活動を知る資料が提供された。

奈良・平安時代

奈良時代から平安時代初期の竪穴住居跡11軒を検出した。第2・4・6・8・10～15号住居跡の計11軒が該当する。いずれも北側に竈を持つ住居跡で、古墳時代の住居跡の周りに広がっている傾向にある。出土した須恵器は、胎土に雲母を含んでいることなどから新治村新治窯群から供給された製品、あるいは胎土に針状鉱物を含むことから水戸市木葉下窯から供給された製品の可能性があるものもある。第6号住居跡では、多数の管状土錘を検出した。時代が下がるにしたがって、人口も増加し潤沼に依存する傾向が増え、漁労も活発に行われ、古代の人々が潤沼による水の恩恵を多いに受けていたことが想像できる。台地の南側斜面からは鍛冶工房跡を1棟検出した。調査区域外からも羽口や鉄滓が出土していることから、他にも工房跡が何棟かあり、鍛冶が盛んに行われていた可能性がある。室町期から戦国期頃を目安に作成した宮ヶ崎村一帯の復元図には、宮ヶ崎館跡の南側に「カチャ前」という鍛冶に関係するような地名が残っている。平安時代から鍛冶工人が住み着いて、この地域で生業していた可能性も考えられる。

中世

(1) 検出遺構と出土遺物

宮ヶ崎城跡に関わる中世の遺構としては、堀1条と溝2条を検出した。今回調査した人為掘削による外堀の一部が検出されたことによって、堀の構築形態などから、成立時期は、古くとも15世紀後半以降のものであると考えられる。

調査区域及び宮ヶ崎城跡から出土した中世以降の遺物としては、土師質土器14片、瓦質土器16片、常滑系陶器の甕や鉢64片、肥前系陶磁器79片、瀬戸・美濃系陶磁器22片、明石・堺系陶器8片、京焼系陶器4片、中国製磁器青磁(龍泉窯)1片、在地系陶器2片等である。これらの遺物は、13世紀から14世紀にかけてのもの(常滑や瀬戸は蔵骨器として使用されたもので、築城前は墓域があった可能性)と、17世紀以降の所産と考えられるものの大きく2種類に分けられる。

出土した陶磁器類から考えられることは、宮ヶ崎城跡が成立した時期と前後したものが数多く出土していることである。

(2) 宮崎氏(宮ヶ崎城跡)の歴史

平安時代中期から末期にかけて、平将門の乱以後、しだいに大きな勢力を持った平繁盛の子孫(常陸平氏)が茨城町地方に勢力を張る。宮ヶ崎地区は鹿島郡一帯に勢力を張った常陸平氏の一族鹿島氏の分流が本拠地としていく。12世紀後半に鹿島成幹の子三郎政幹に、鹿島氏の本家を継承させ、政幹の子三郎家幹に、徳宿郷宮

崎を譲る。宮崎氏を名字とした家幹は、涸沼をすぐ北に臨む台地の一角に居館を構える。涸沼の水上支配権を手中に押さえながら、宮崎氏が鹿島郡の北側を代表する領主に成長していくことになる。南北朝動乱期には足利方（北朝方）に立った。宮崎氏は上杉禪秀の乱に際して、禪秀方に属したが、鎌倉公方持氏に敗北し、宮崎村以下の所領を没収されるとともに、その配下の所領まで没収され、没落していくことになる。⁽¹⁾

（3）宮ヶ崎城跡の構造と年代

曲輪Ⅰ（主郭）は、涸沼に突き出した台地先端部の平場にあり、堀で囲まれている。現存する曲輪Ⅰ周囲の堀や土塁の形態及び規模から考えると、城郭構造は、16世紀後半の形態を呈している。従来言われている宮崎氏（三郎家幹以降）と直接関連した城跡ではないように考えられる。曲輪Ⅰの北側の平場は、「曲輪」というより「馬出状曲輪」と考えられる。防御性の高い馬出状曲輪の存在から、涸沼側からの攻撃を強く意識していることが確認できる。その南側に大きく三つの区画に分割された曲郭がある。曲輪Ⅰの南辺にある広大な曲郭は、宿の人々の戦乱時における避難場所であったり、一時的に何らかの事情で戦闘集団が待機していた場所とも考えられる。曲郭の外周には、自然地形の谷津を生かした堀と人為に掘り込んだ堀が巡っている。城跡の北側には涸沼が広がり、全体的に自然地形を生かした城である。土橋は2か所あり、城内に入るルートが判明した。東側の曲郭から出入りする第1号土橋と曲輪Ⅰの真南に位置する第2号土橋である。特に第1号土橋は、土橋を渡って左折して通路状遺構（第1・10号溝）を通って、城内に入っていることが判明した。曲輪Ⅰと人為に掘られた外堀の構築形態や出土遺物などから総合的に考えると、宮崎氏に関連した城跡と言うより、古くても15世紀後半以降の江戸氏にゆかりのある城跡と考えるのが妥当と言えるだろう。

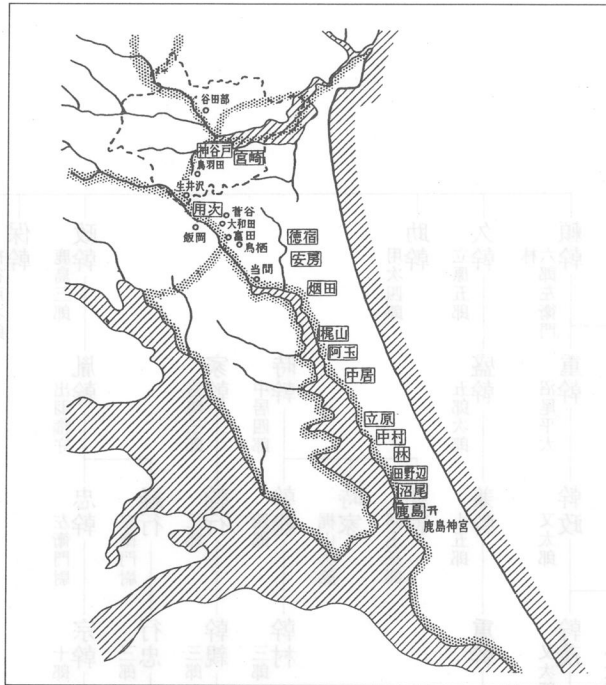
（4）宮ヶ崎城跡の性格

曲輪Ⅰ，Ⅱは、「在番」と呼ばれる広域領主権力によって動員された兵力の駐屯地として使われていたことが考えられる。当城は在地領主層の居城と言うより、広域領主権力の領域端に置かれた「境目城」と呼ばれる城の可能性もある。居住は、鹿島神社南側に位置する宮ヶ崎館跡であると考えられる。「館」は土塁と堀を巡らせており、遺構形態から戦国時代前半のものであると考えられる。時代的に江戸氏に関連する館跡であり、宮崎氏の時代には、ここに居を構えていた可能性も考えられるが、宮崎氏没落後、江戸氏の時代に、その関係者が宮ヶ崎館を再興して生活していたのだろう。宮ヶ崎城と宮ヶ崎館は、江戸氏によって再興され、構築されたものと考えられる。

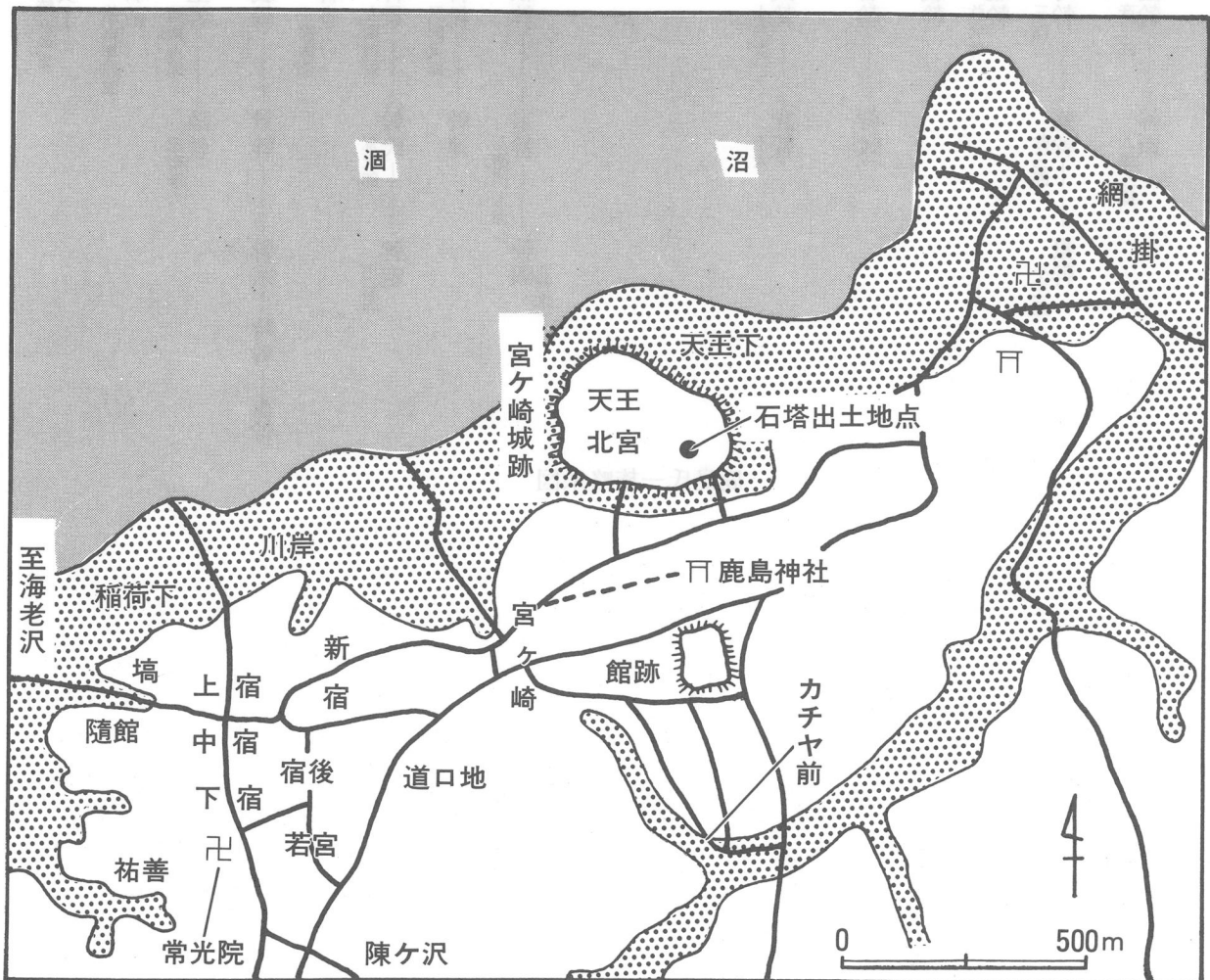
また、涸沼沿いにあることから、馬出状曲輪直下に「津」があり、涸沼の水上交通の拠点「津」を押さえるために、城が機能していたとも考えられる。軍事的に果たす城であると同時に経済的にも重要な場所にある城であったと推測される。

註、参考文献

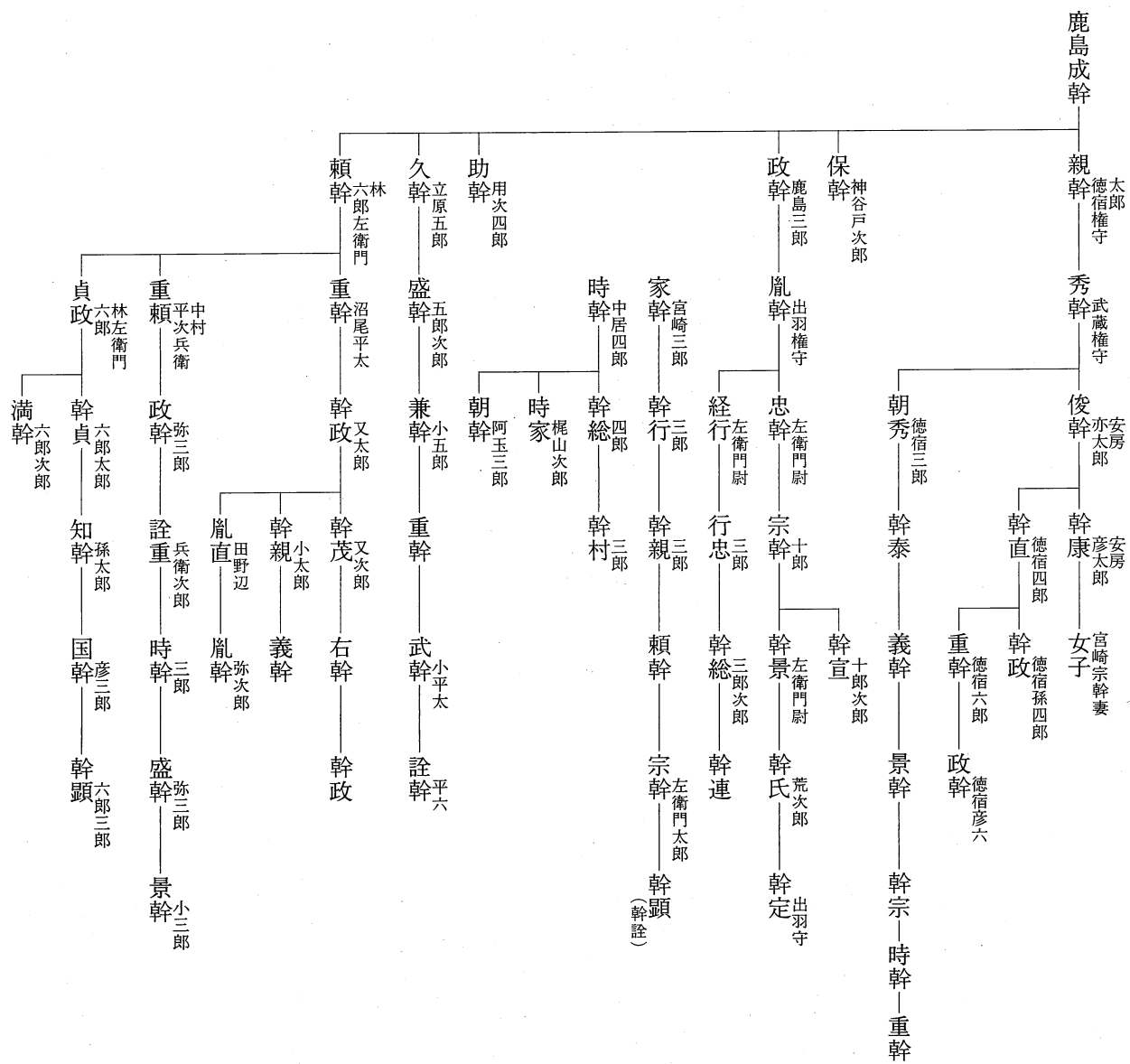
- | | | |
|---------------|-----------------------------------|----------|
| （1）茨城町史編さん委員会 | 『茨城町史 通史編』 | 1995年2月 |
| ・茨城県史編集委員会 | 『茨城県史 中世編』 | 1991年3月 |
| ・新人物往来社 | 『日本城郭大系 第4巻』 | 1984年11月 |
| ・村田 修三 | 『中世城郭研究論集』 | 1991年6月 |
| ・柴田 龍司 | 「中世城館の構造とその変遷—千葉県内の発掘成果を通して—」 | |
| | 『研究紀要16』 財団法人 千葉県文化財センター | 1995年1月 |
| ・茨城県教育財団 | 『国道354号国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 木崎城跡』 | |
| | 「茨城県教育財団 文化財調査報告第109集」 | 1996年3月 |



鹿島郡と鹿島氏一族の分布（茨城町史 通史編）



室町～戦国期の宮ヶ崎復元想定図
 (『日本村落史講座』別巻) (茨城町史 通史編)



鹿島氏一族略系図

付 章

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

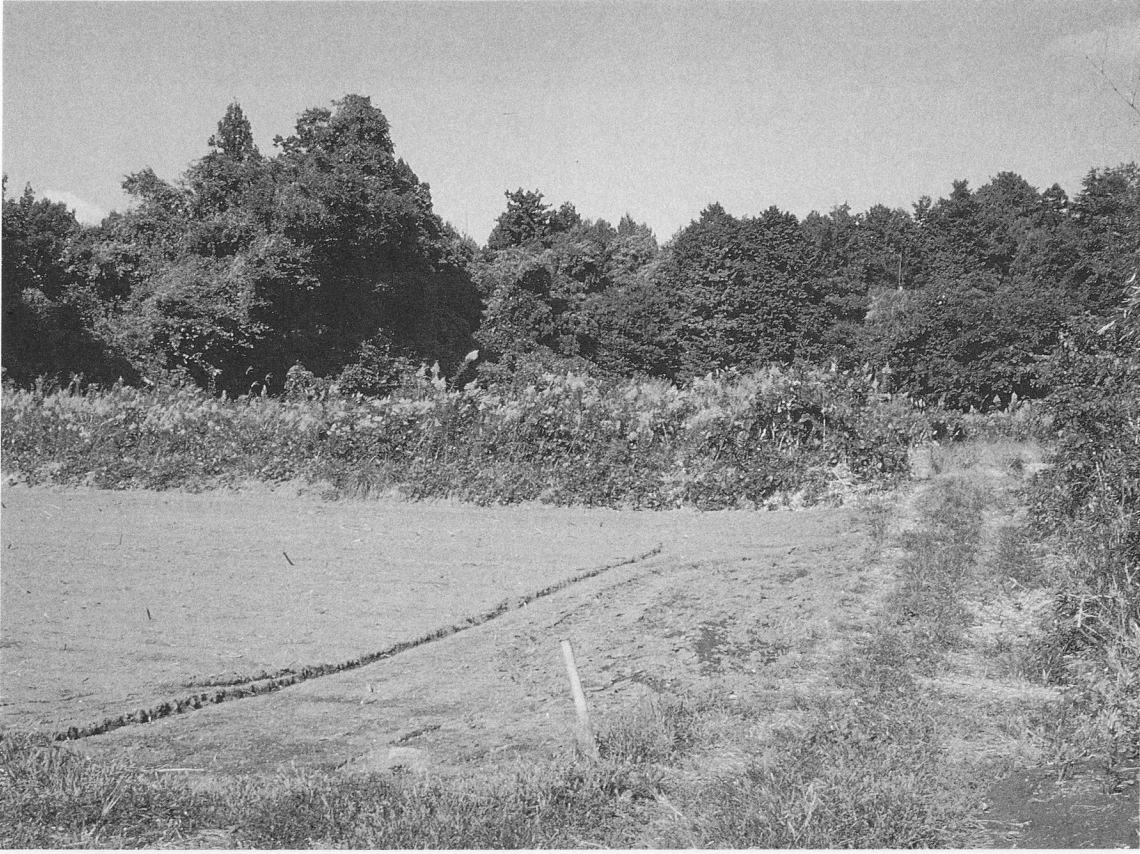
写真図版



宮ヶ崎城跡遠景



宮ヶ崎城跡調査区域全景



宮ヶ崎城跡（主郭部）



堀C区完堀



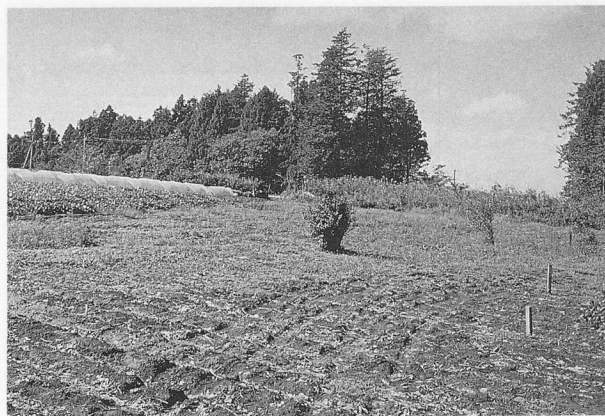
宮ヶ崎城跡遠景（北側から）



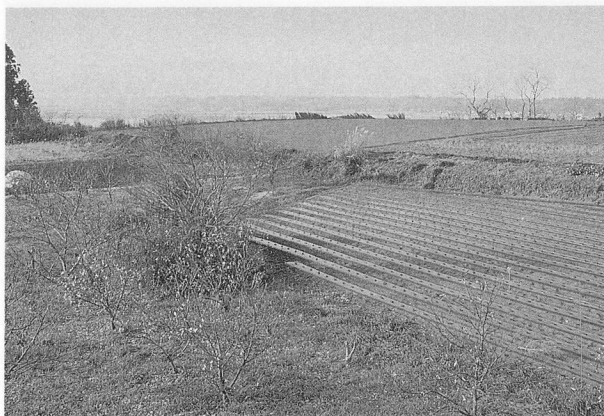
宮ヶ崎城跡遠景（西側から）



宮ヶ崎館跡（南側から）



調査1・2区現況



調査2区現況



調査3区付近平場現況



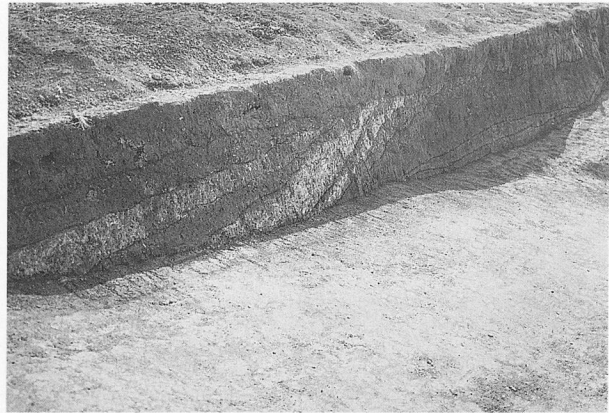
調査4区堀現況



調査3区現況



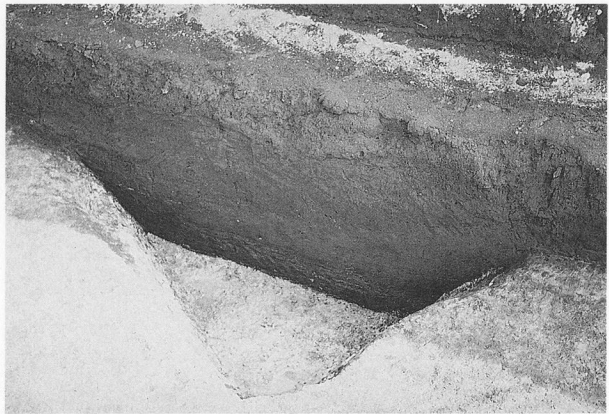
堀C区北側土層断面



堀C区土塁確認状況



堀C区北側堀内土層断面



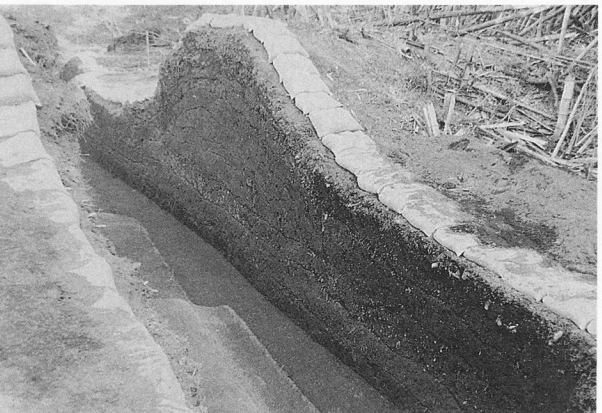
堀C区南側堀完堀状況



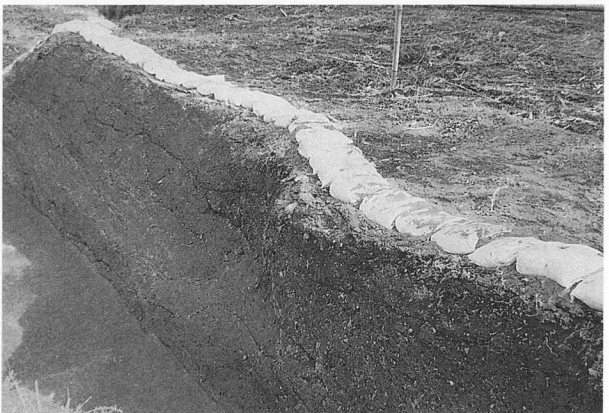
第1号土橋状況



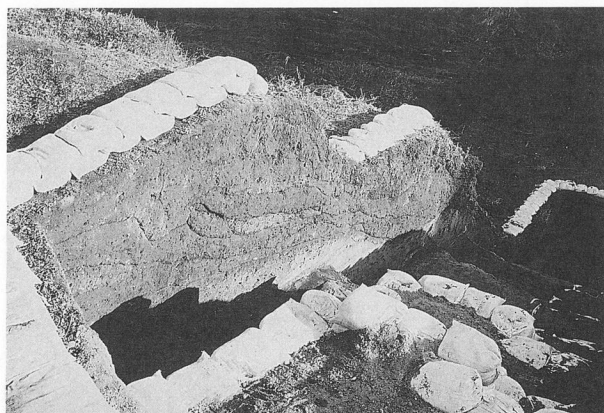
第1号土橋土層断面



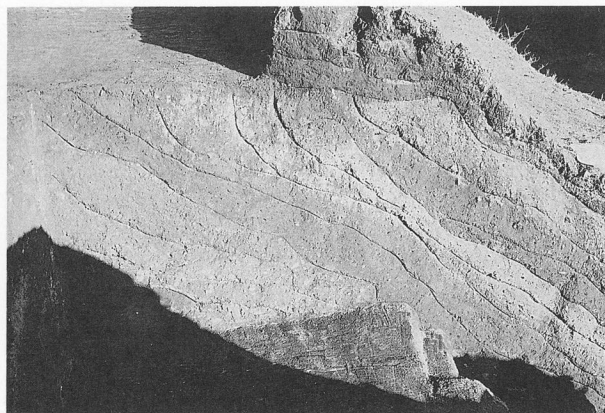
Eトレンチ状況



Eトレンチ土層断面



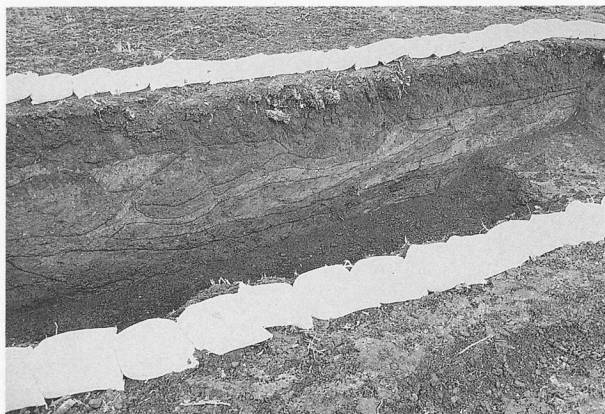
A トレンチ土層断面



B トレンチ上部土層断面



B トレンチ中部土層断面



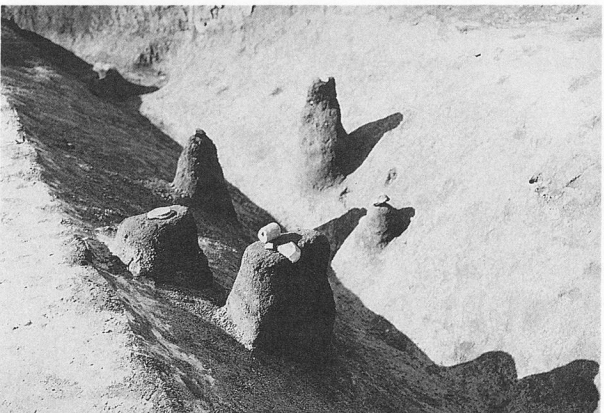
B トレンチ下部（堀A区堀底）土層断面



第1号溝遺物出土状況



第2号溝完掘状況



第2号溝遺物出土状況



第3号溝遺物出土状況



調査1区完掘状況



調査2区完掘状況



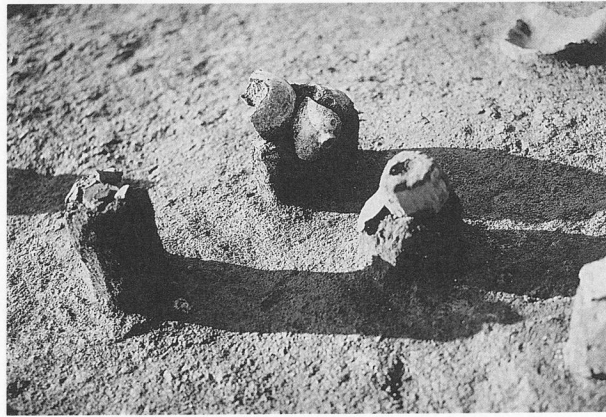
調査3区完掘状況



調査4区トレンチ状況



第1号住居跡完掘状況



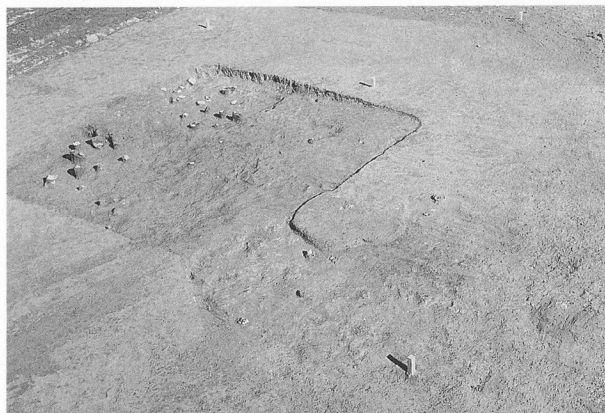
第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡遺物出土状況



第3号住居跡完掘状況



第4・5号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡完掘状況



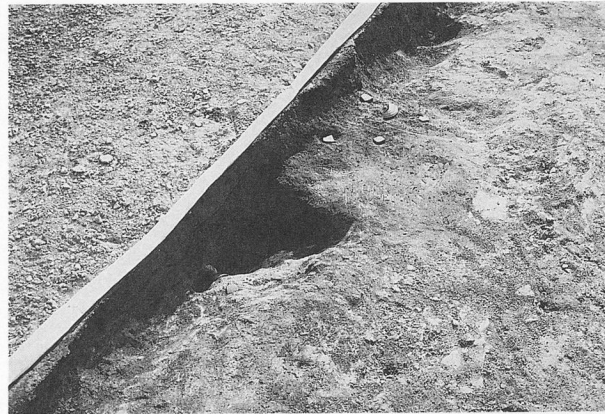
第6号住居跡遺物出土状況



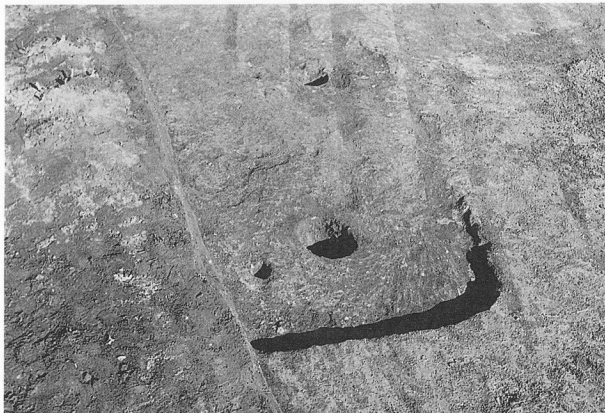
第7号住居跡完掘状況



第8・9号住居跡, 第3号溝完掘状況



第10号住居跡遺物出土状況



第11号住居跡完掘状況



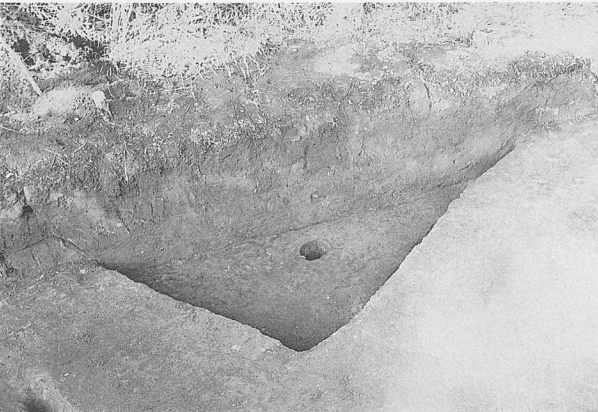
第12号住居跡完掘状況



第13号住居跡完掘状況



第13号住居跡遺物出土状況



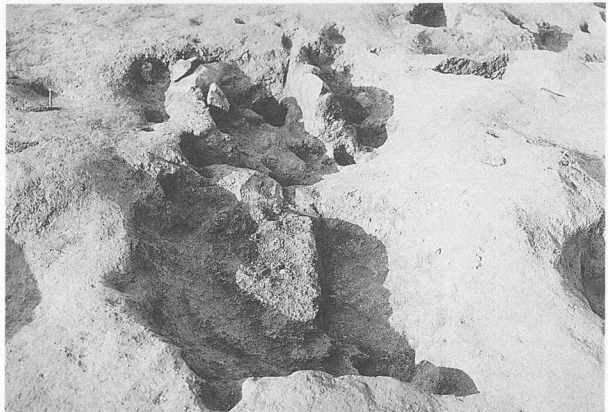
第14号住居跡完掘状況



第15号住居跡完掘状況



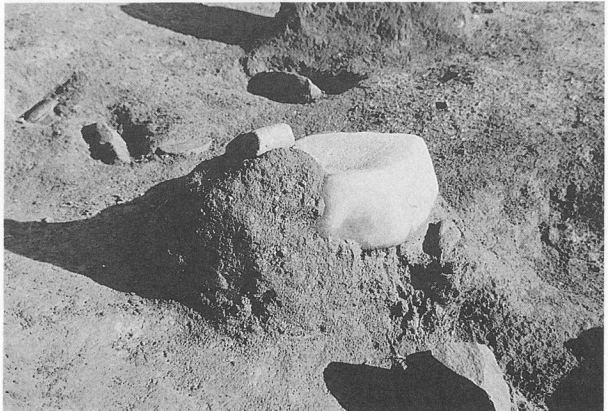
第1号鍛冶工房跡完掘状況



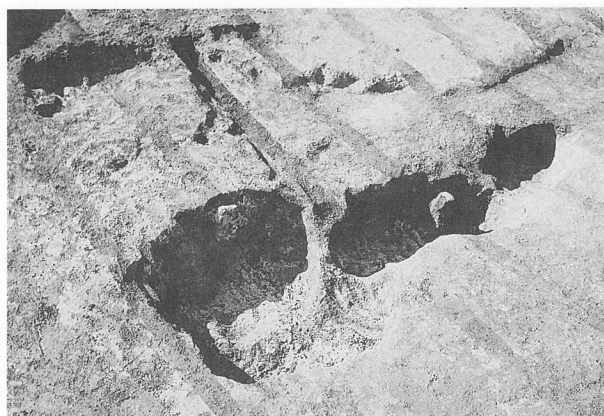
第1号鍛冶工房跡P 2・P 5 遺物出土状況



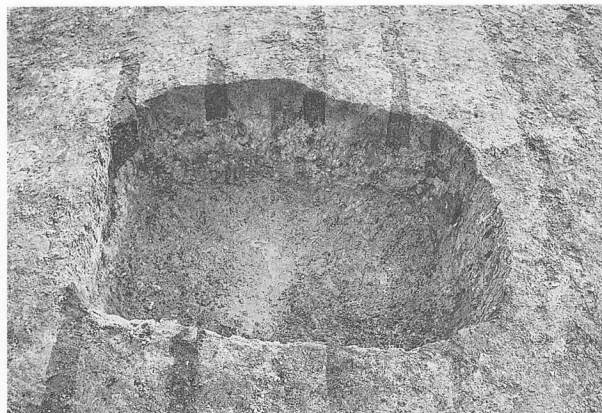
第1号鍛冶工房跡遺物出土状況



第1号鍛冶工房跡遺物出土状況



第1・5・6号土坑



第12号土坑



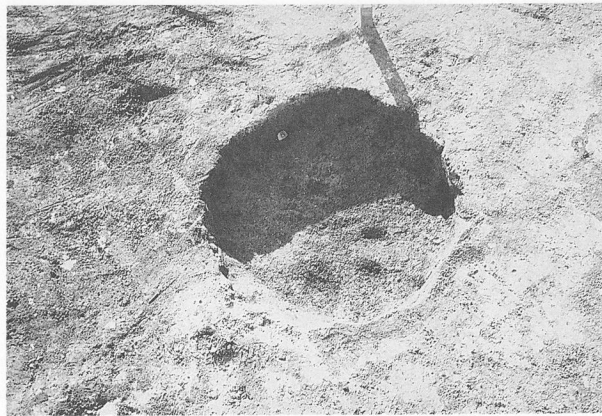
第14号土坑



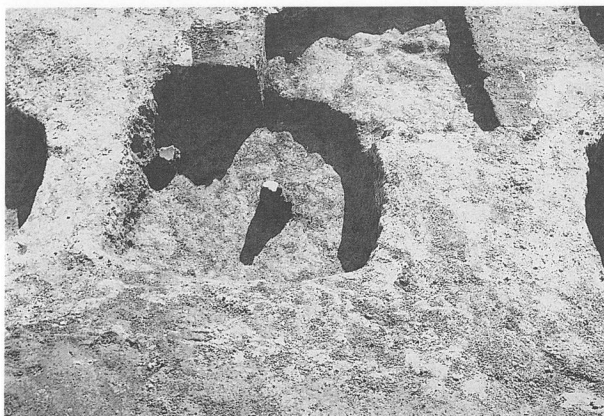
第14~24号土坑



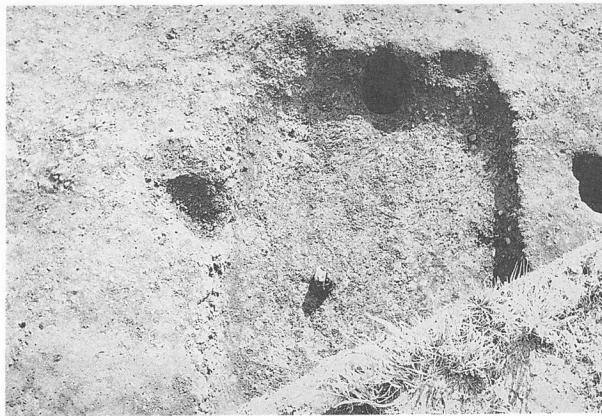
第15・16号土坑



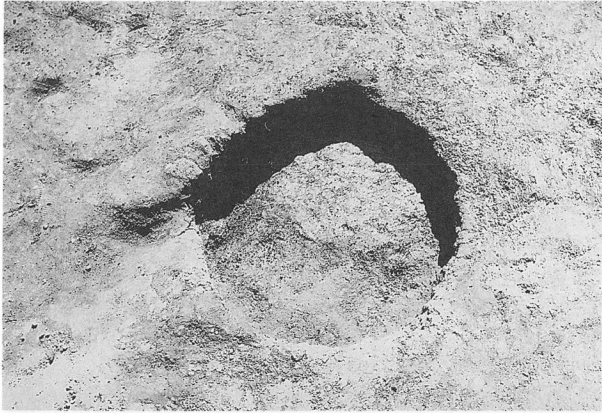
第20号土坑



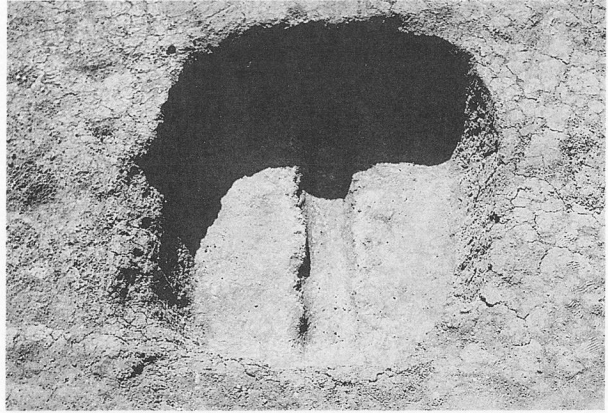
第23号土坑遺物出土状況



第26号土坑遺物出土状況



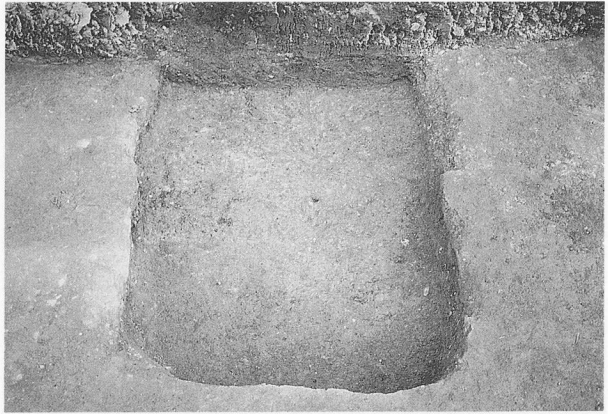
第32号土坑



第34号土坑



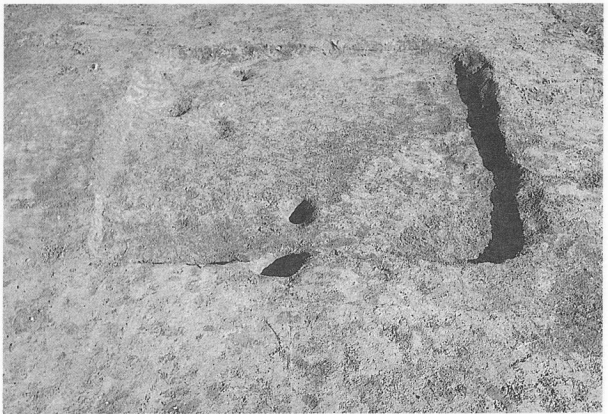
第39号土坑



第45号土坑



第1号ピット群



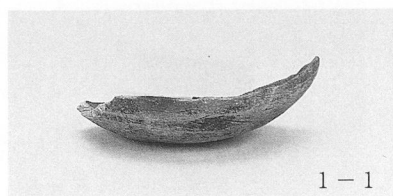
第1号不明遺構



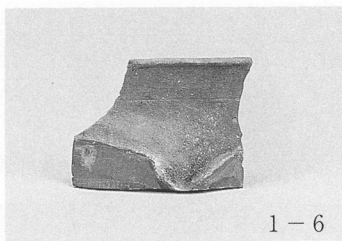
第2号不明遺構



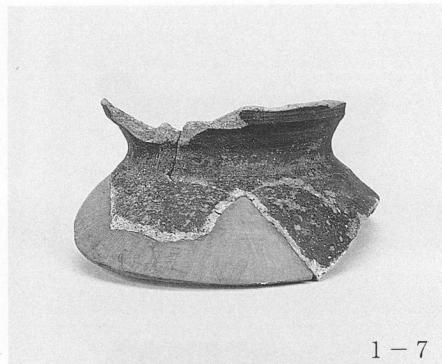
第3号不明遺構



1-1



1-6



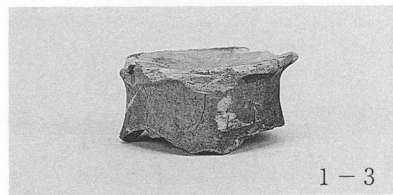
1-7



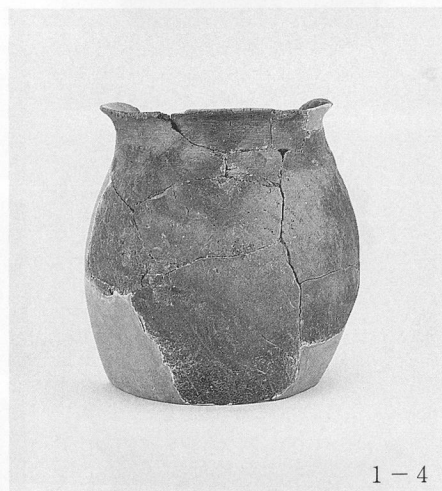
1-2



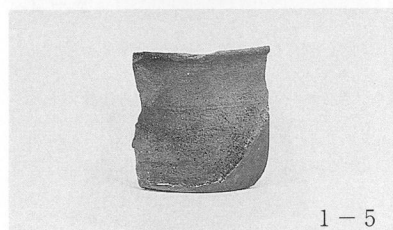
1-9



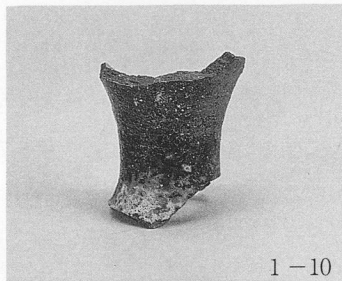
1-3



1-4



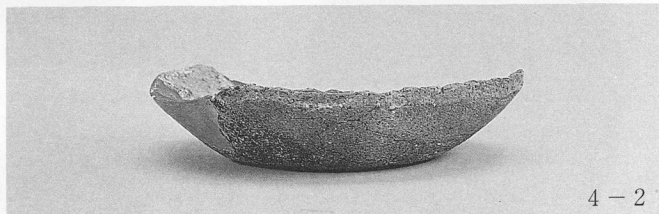
1-5



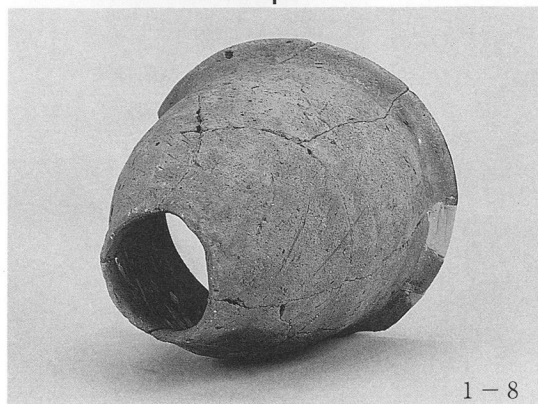
1-10



1



4-2



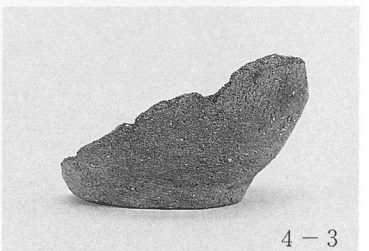
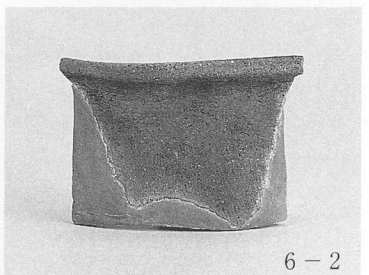
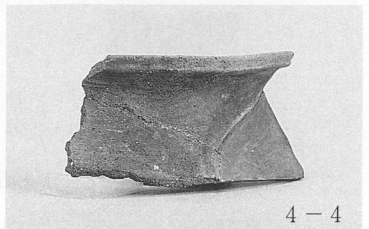
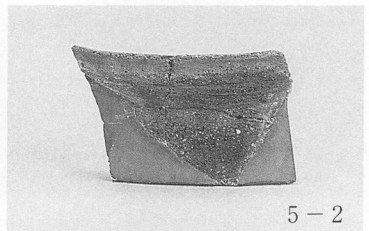
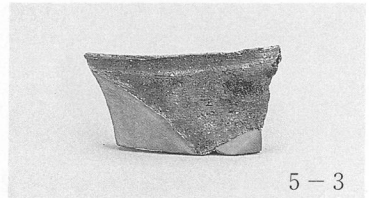
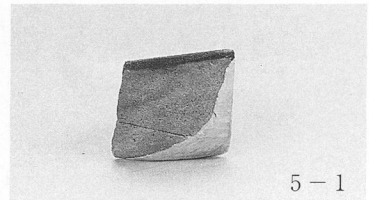
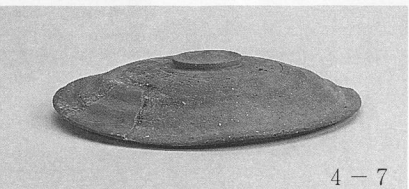
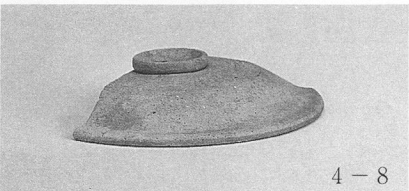
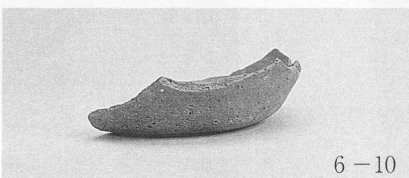
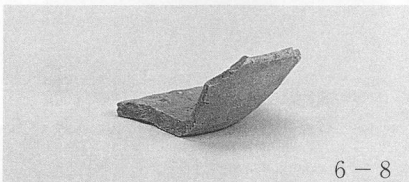
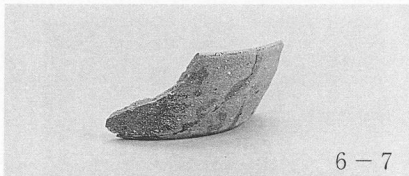
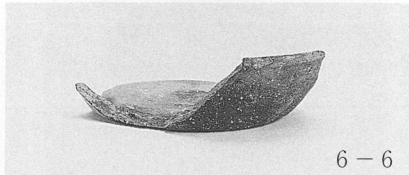
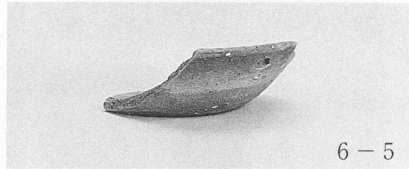
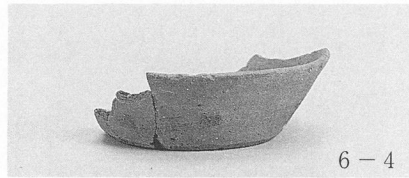
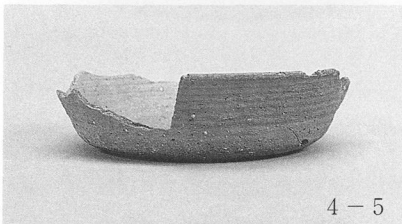
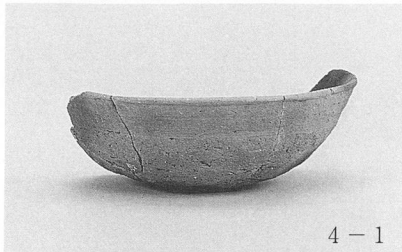
1-8



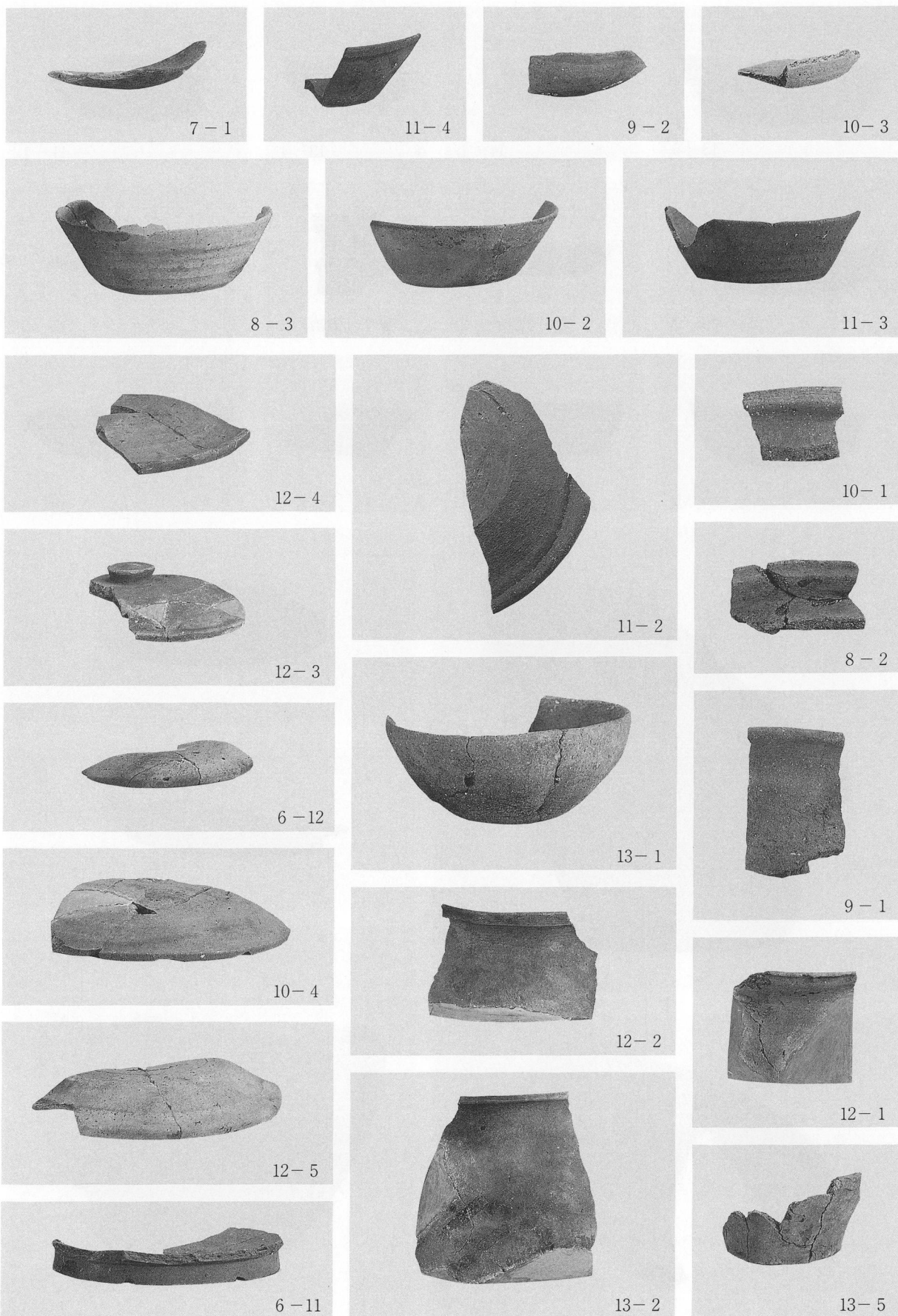
2-1

第1・2・4号住居跡出土遺物

岩手県土佐郡大船町大船町1-2-4号住居跡出土遺物

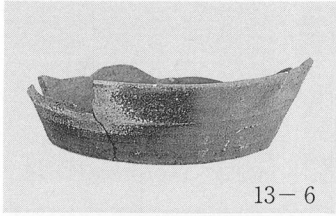


第3・4・5・6号住居跡出土遺物

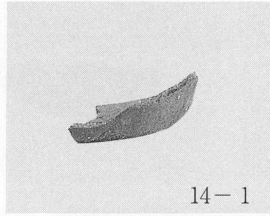


第6~13号住居跡出土遺物

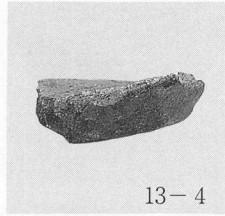
新石器時代前期の住居跡出土遺物



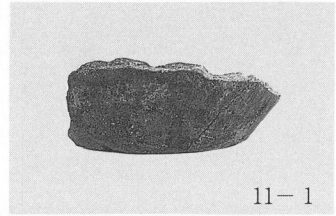
13-6



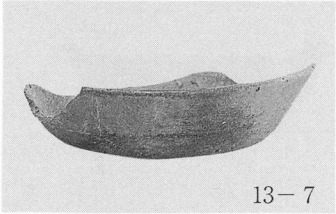
14-1



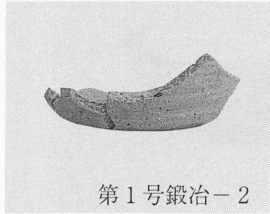
13-4



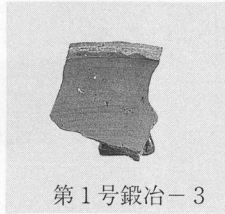
11-1



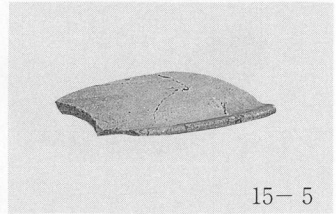
13-7



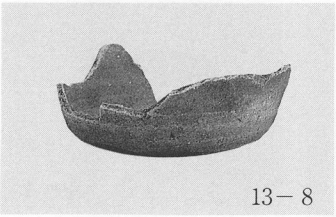
第1号鍛冶-2



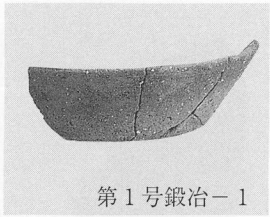
第1号鍛冶-3



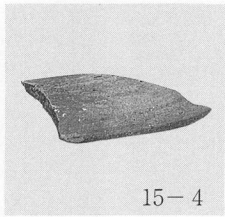
15-5



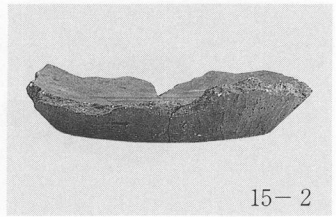
13-8



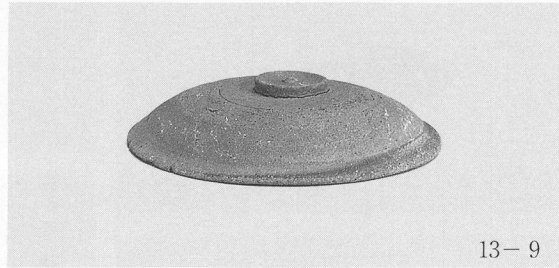
第1号鍛冶-1



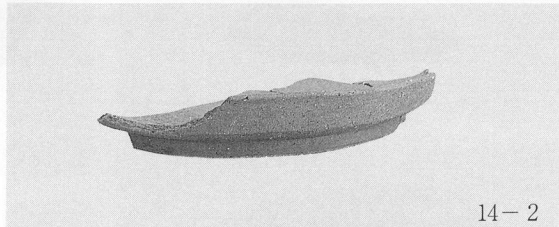
15-4



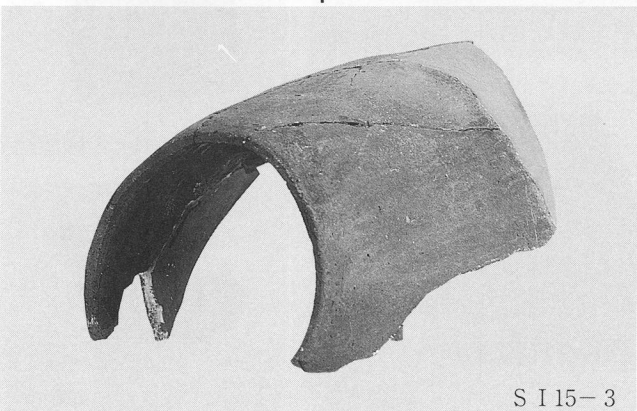
15-2



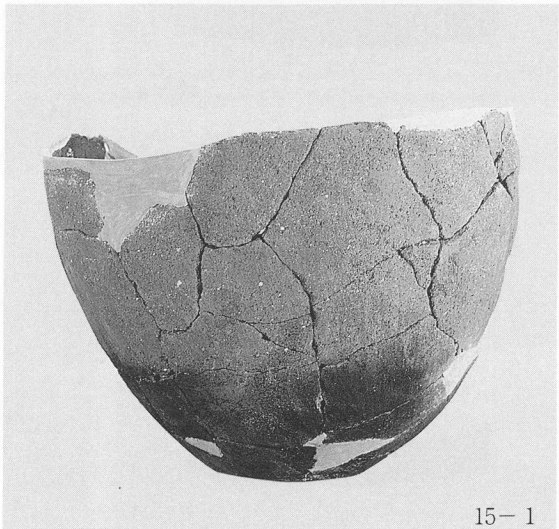
13-9



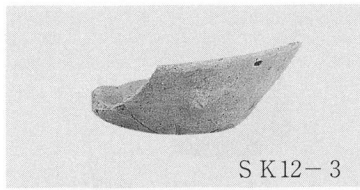
14-2



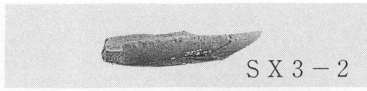
SI 15-3



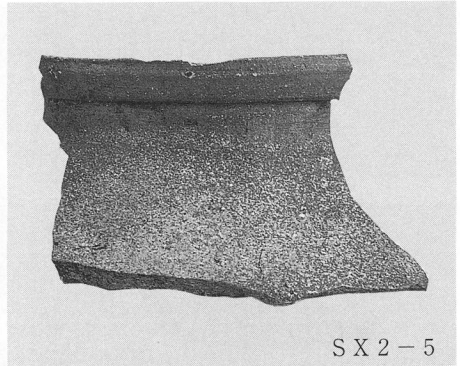
15-1



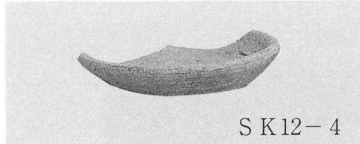
SK12-3



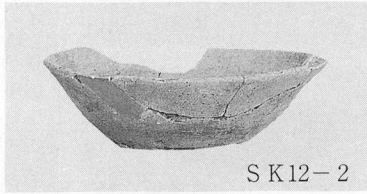
SX3-2



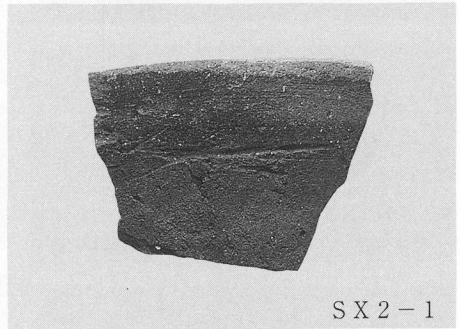
SX2-5



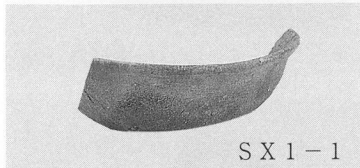
SK12-4



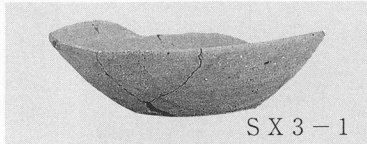
SK12-2



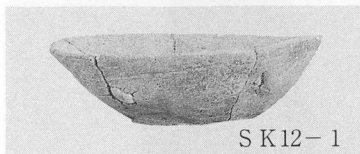
SX2-1



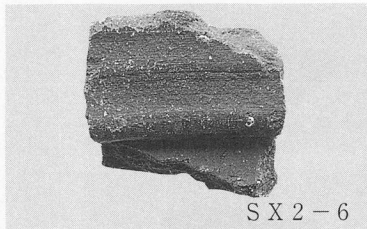
SX1-1



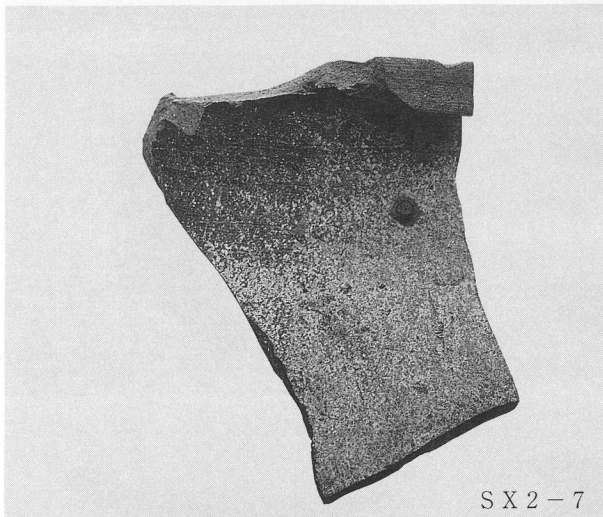
SX3-1



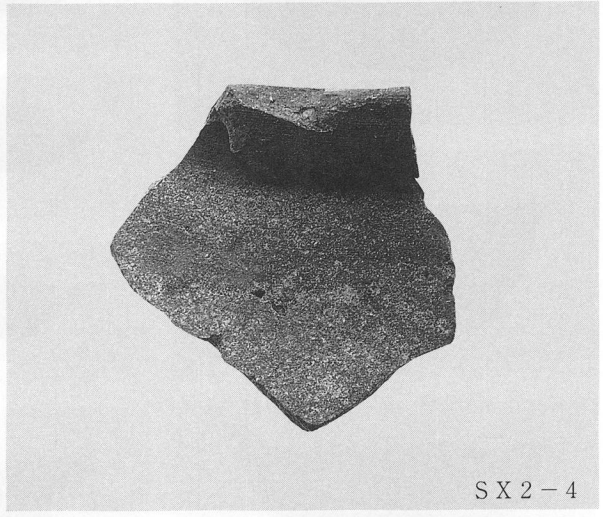
SK12-1



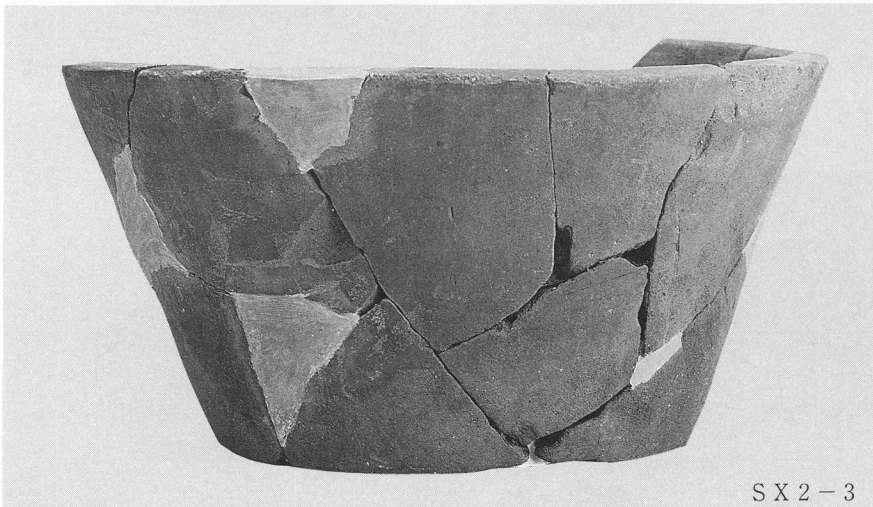
SX2-6



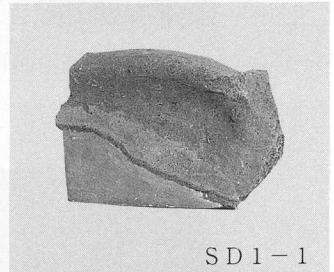
SX2-7



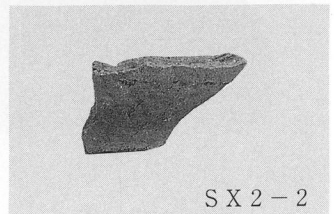
SX2-4



SX2-3

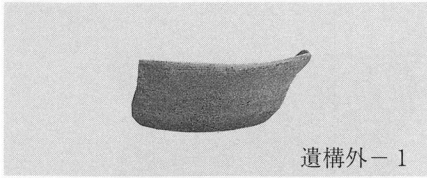


SD1-1



SX2-2

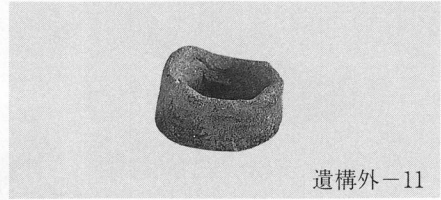
第12号土坑，第1号溝，第1~3号不明遺構出土遺物



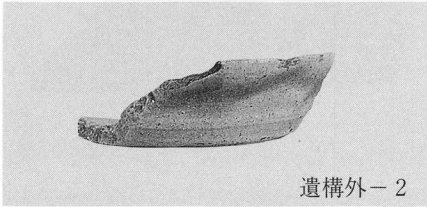
遺構外-1



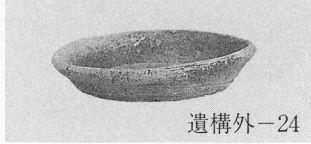
遺構外-21



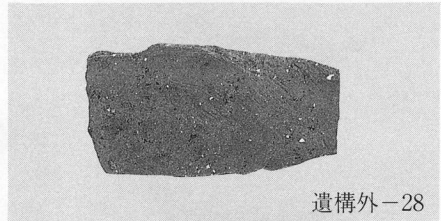
遺構外-11



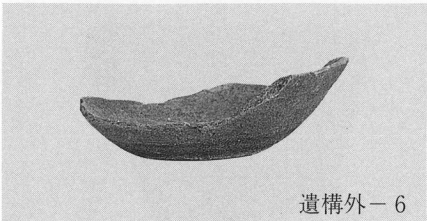
遺構外-2



遺構外-24



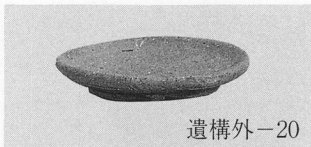
遺構外-28



遺構外-6



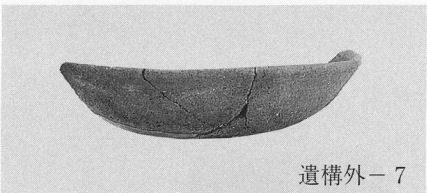
遺構外-23



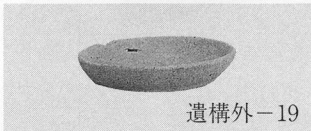
遺構外-20



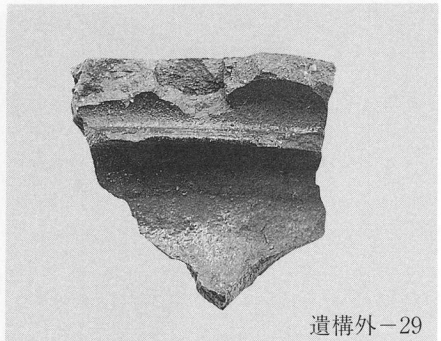
遺構外-25



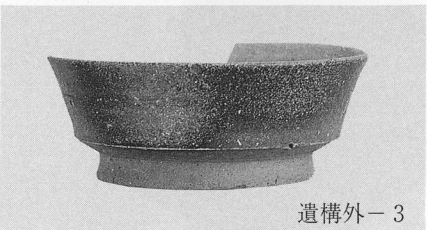
遺構外-7



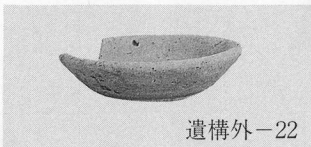
遺構外-19



遺構外-29



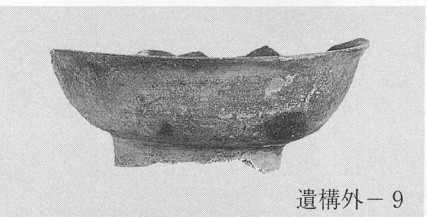
遺構外-3



遺構外-22



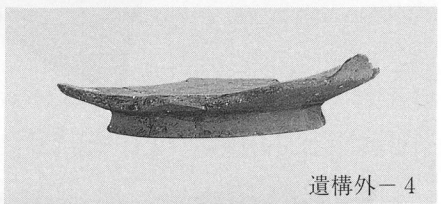
遺構外-18



遺構外-9



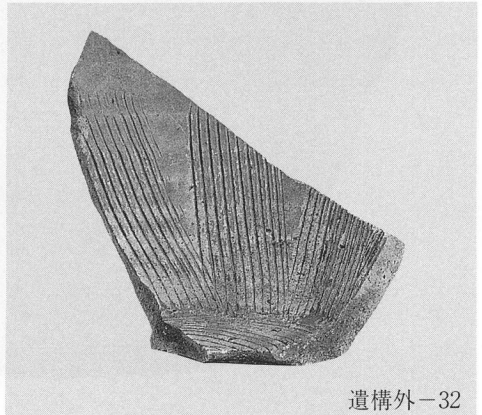
遺構外-12



遺構外-4



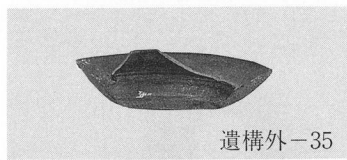
遺構外-10



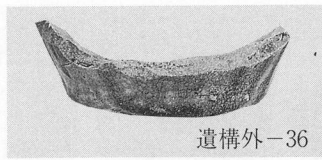
遺構外-32

遺構外出土遺物

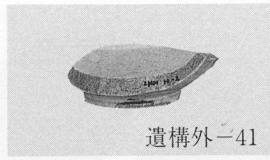
遺構外出土遺物



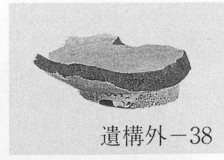
遺構外-35



遺構外-36



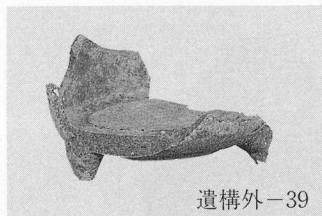
遺構外-41



遺構外-38



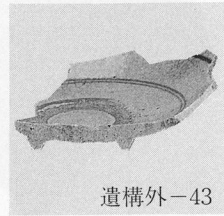
遺構外-44



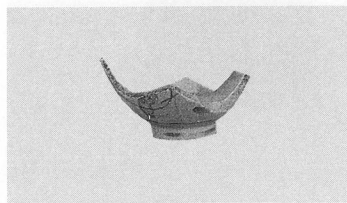
遺構外-39



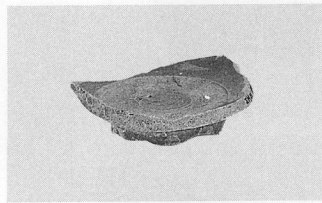
遺構外-40



遺構外-43



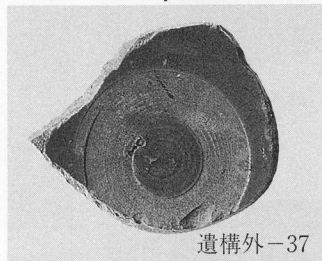
I



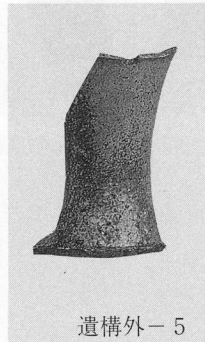
I



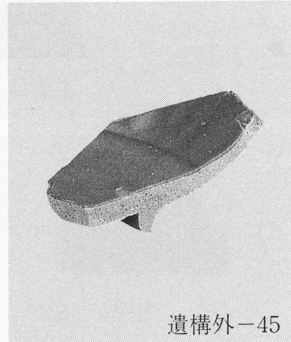
遺構外-42



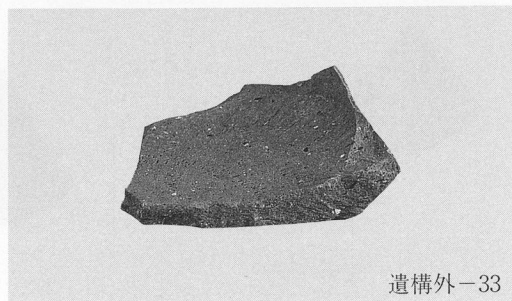
遺構外-37



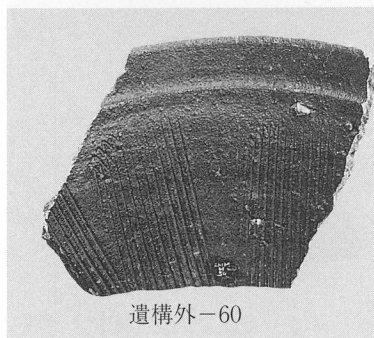
遺構外-5



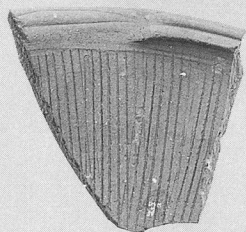
遺構外-45



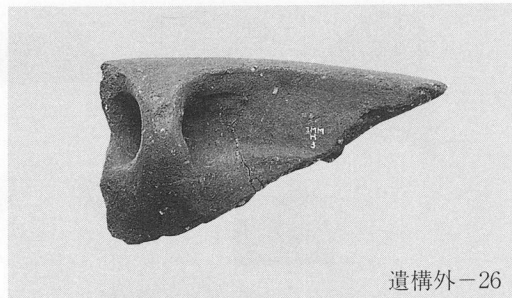
遺構外-33



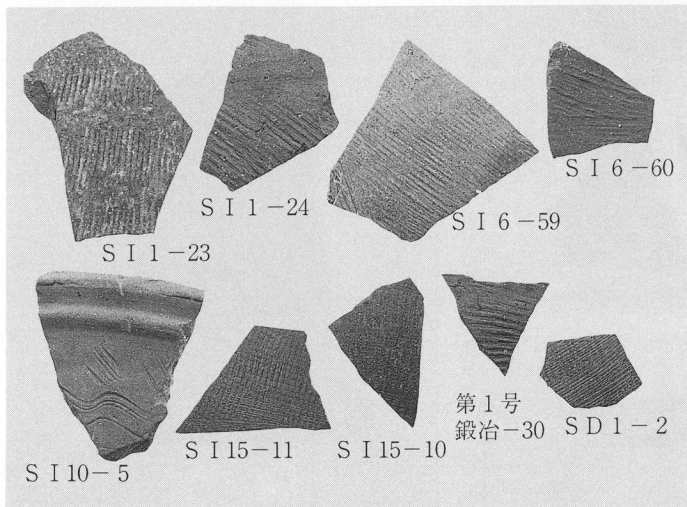
遺構外-60



遺構外-61



遺構外-26



SI 10-5

SI 15-11

SI 15-10

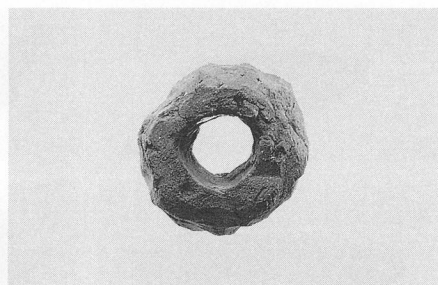
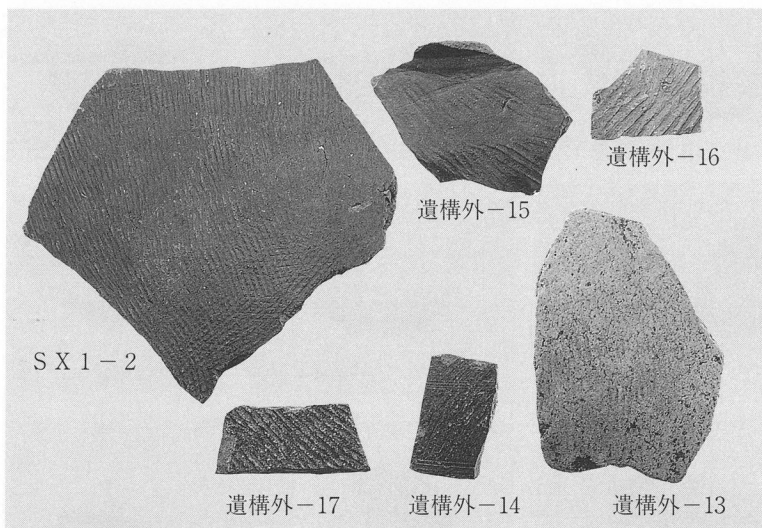
第1号

鍛冶-30

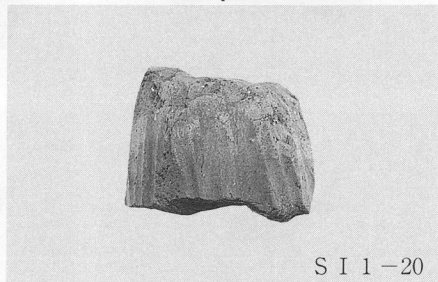
SD 1-2



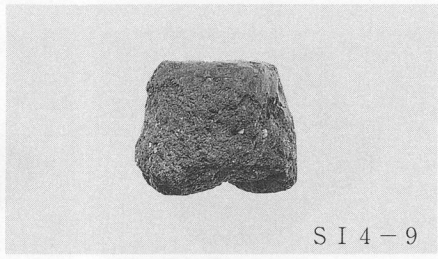
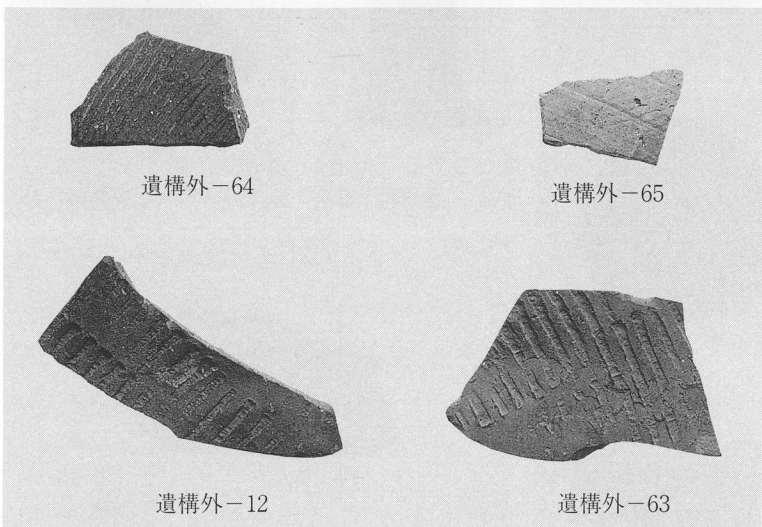
遺構外-27



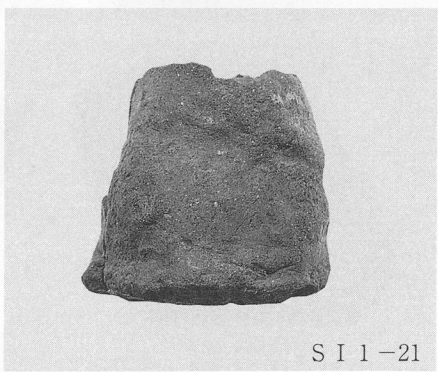
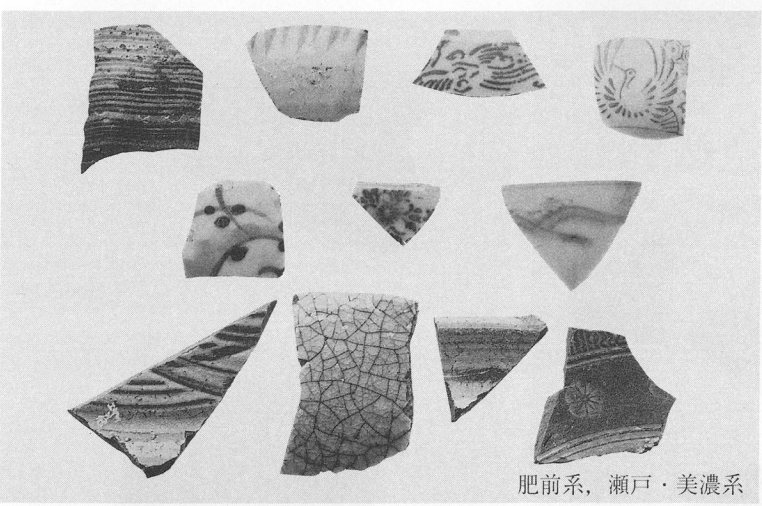
I



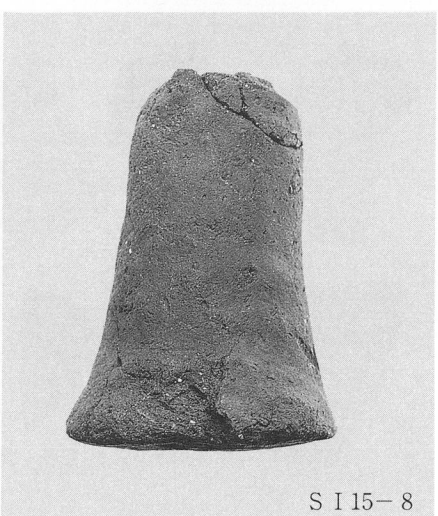
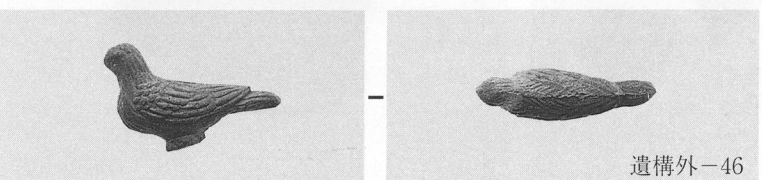
SI 1-20



SI 4-9

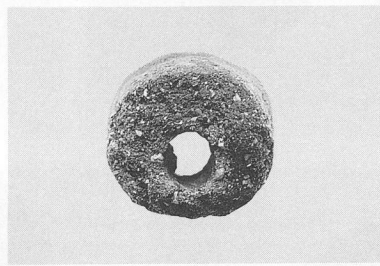
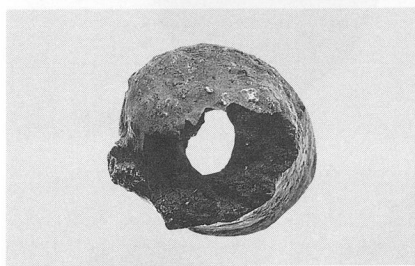
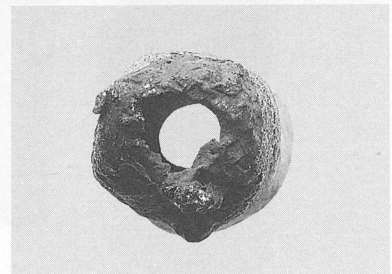
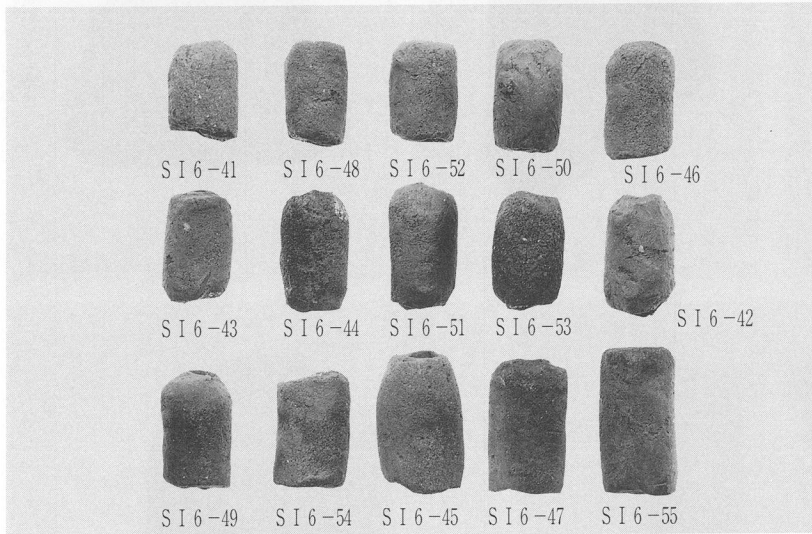
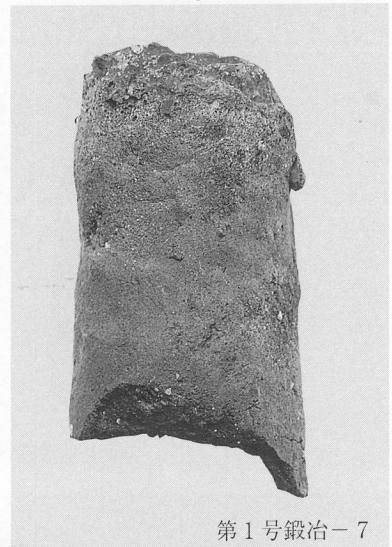
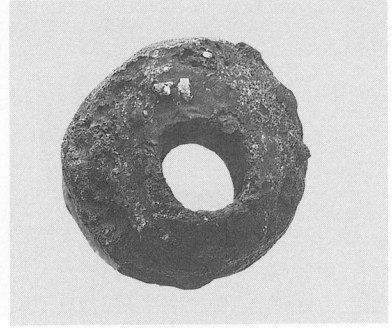
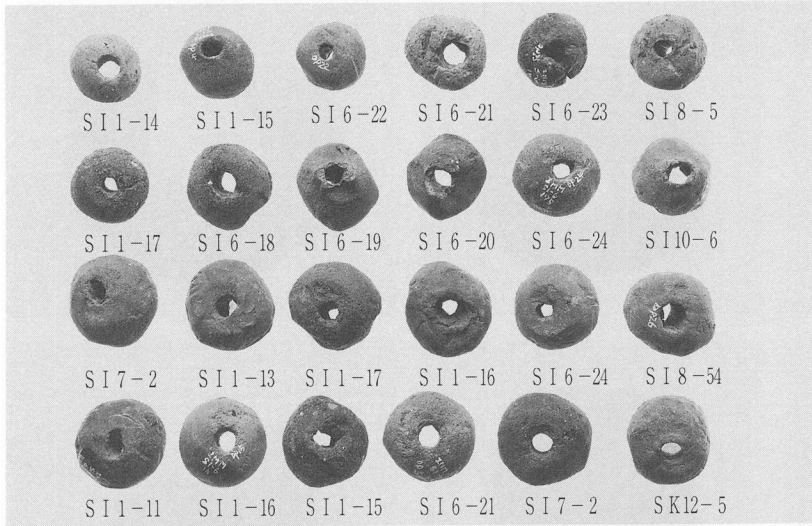


SI 1-21

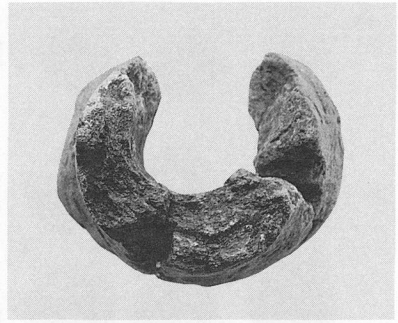
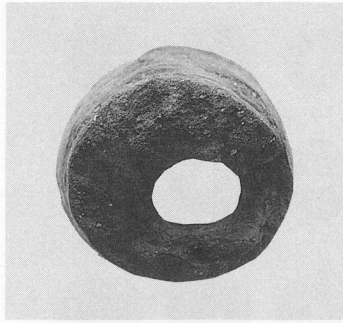
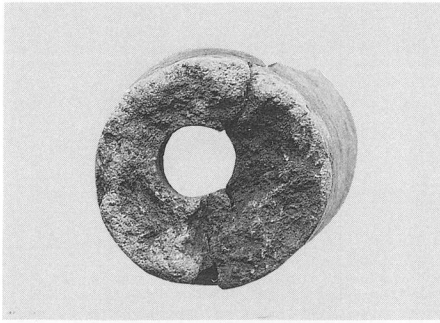


SI 15-8

第1・4・15号住居跡, 第1号不明遺構出土遺物, 遺構外出土遺物



第1・6～8・10号住居跡，第12号土坑，第1号鍛冶工房跡出土遺物



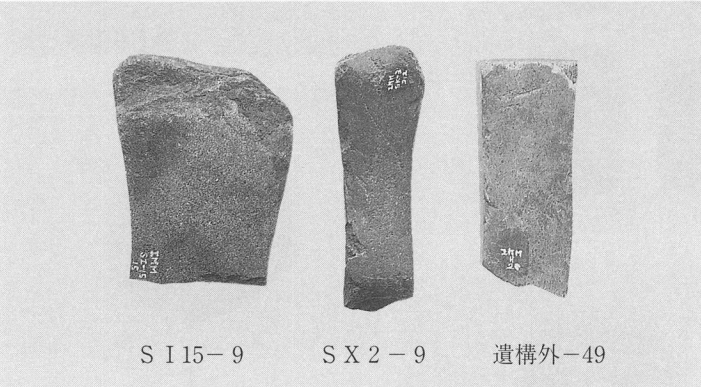
第1号鍛冶-11



第1号鍛冶-13



第1号鍛冶-14



SI 15-9

SX 2-9

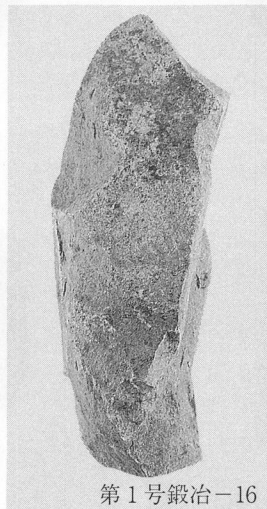
遺構外-49



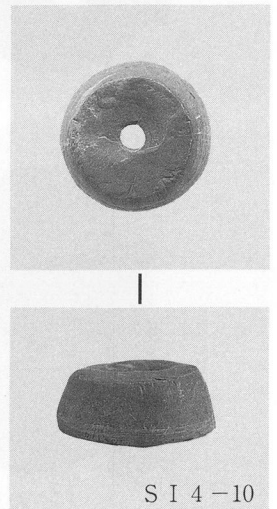
遺構外-48



第1号鍛冶-15

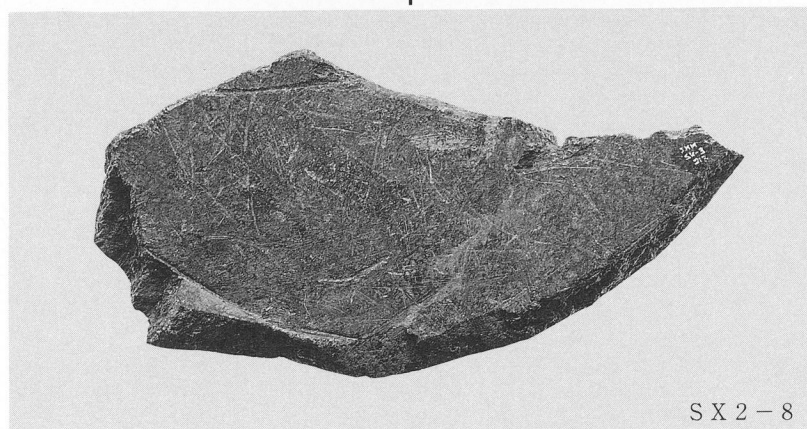
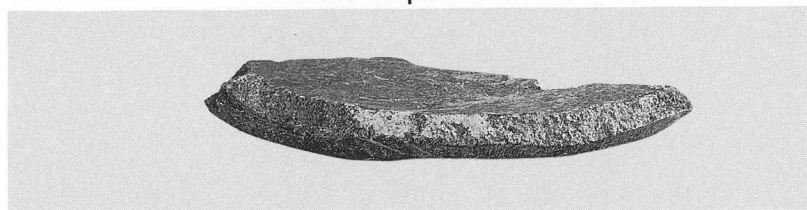
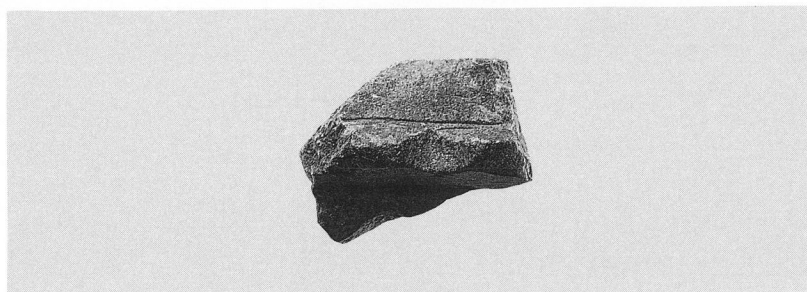


第1号鍛冶-16

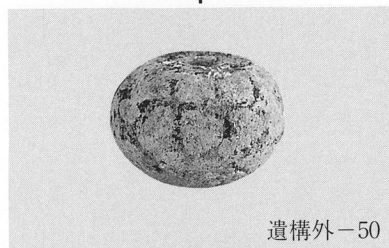
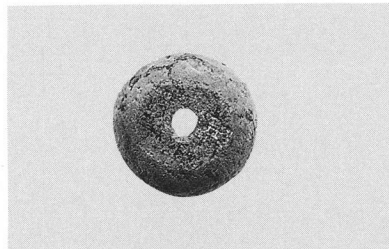


SI 4-10

第4・15号住居跡，第2号不明遺構，第1号鍛冶工房跡出土遺物，遺構外出土遺物



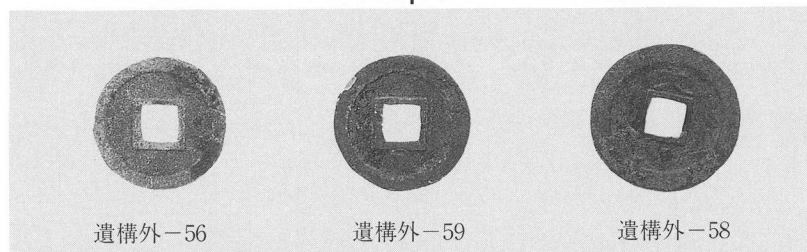
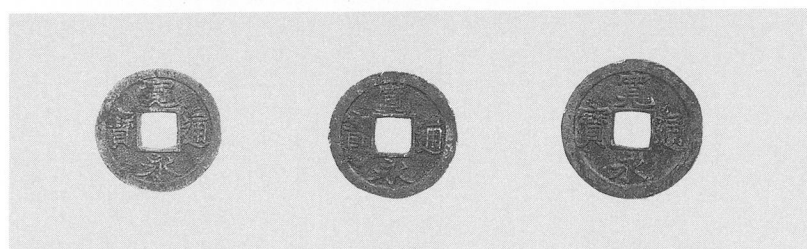
SX2-8



遺構外-50



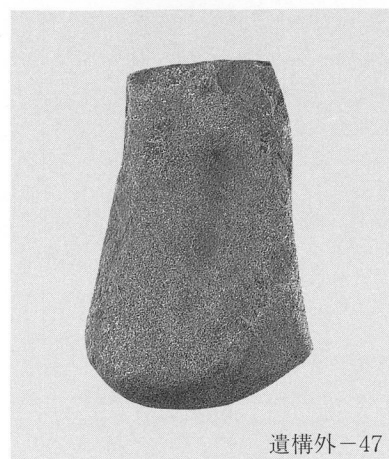
遺構外-51



遺構外-56

遺構外-59

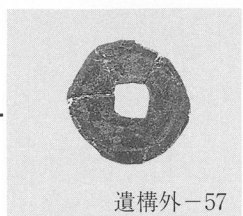
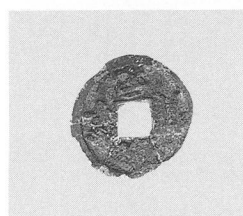
遺構外-58



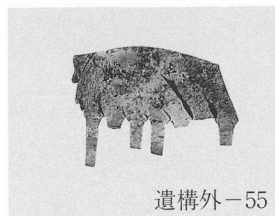
遺構外-47



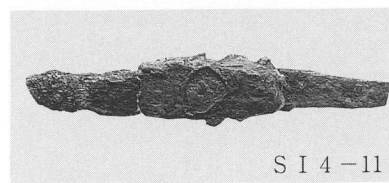
第1号鍛冶-26



遺構外-57



遺構外-55



SI4-11

第4号住居跡, 第2号不明遺構, 第1号鍛冶工房跡出土遺物, 遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第141集

**主要地方道大洗友部線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書2**

宮ヶ崎城跡

平成10（1998）年9月25日 印刷

平成10（1998）年9月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

T E L 029-225-6587

印刷 野澤印刷株式会社

〒310-0843 水戸市元石川町権現台276-27

（水戸東部工業団地）

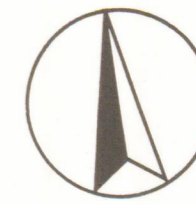
T E L 029-248-0117(代)

付 図

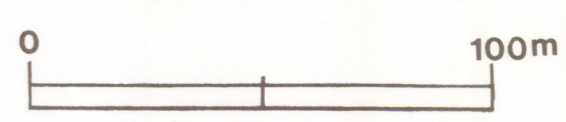
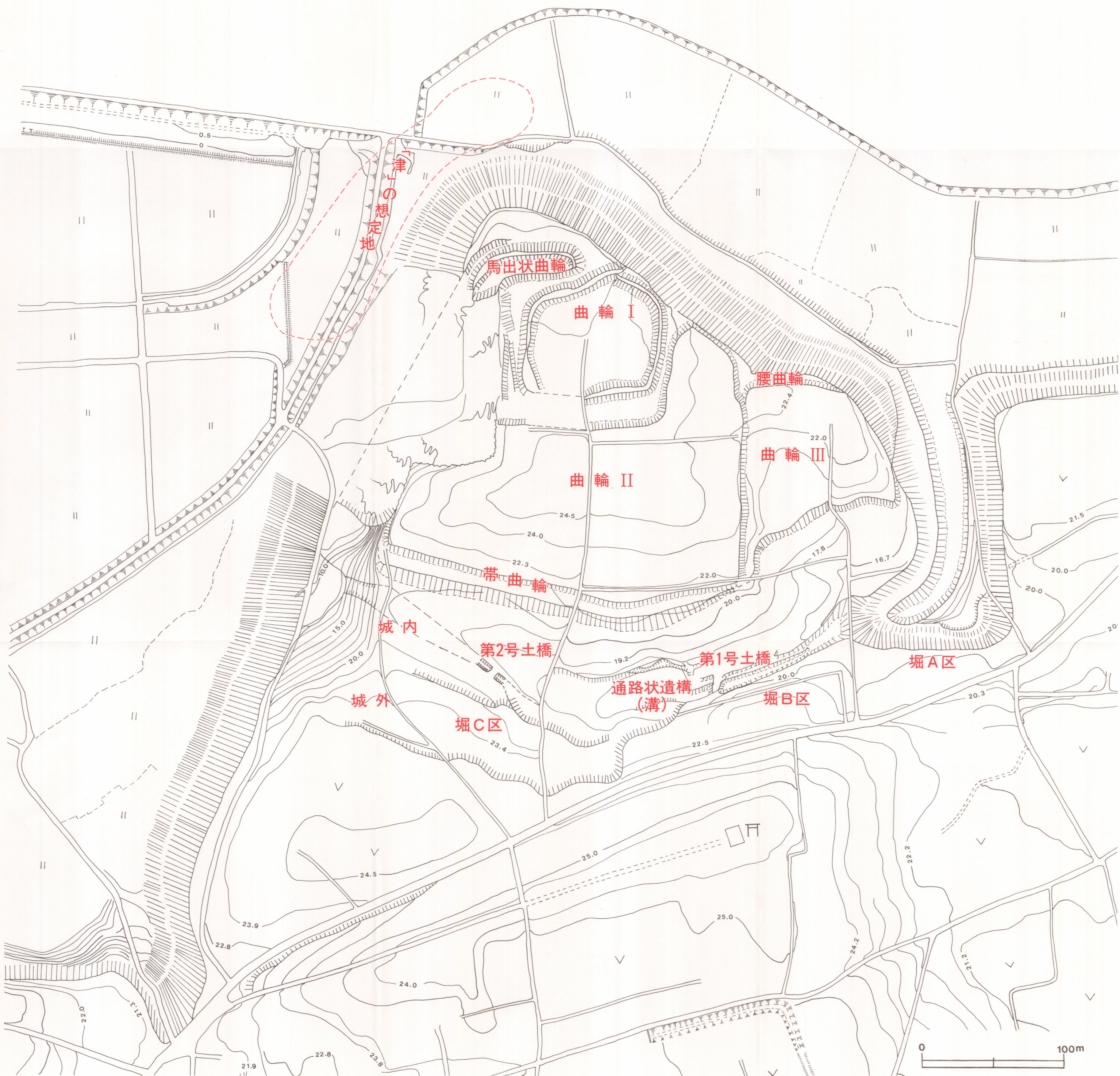
茨城県教育財団文化財調査報告第141集

1 宮ヶ崎城跡要図

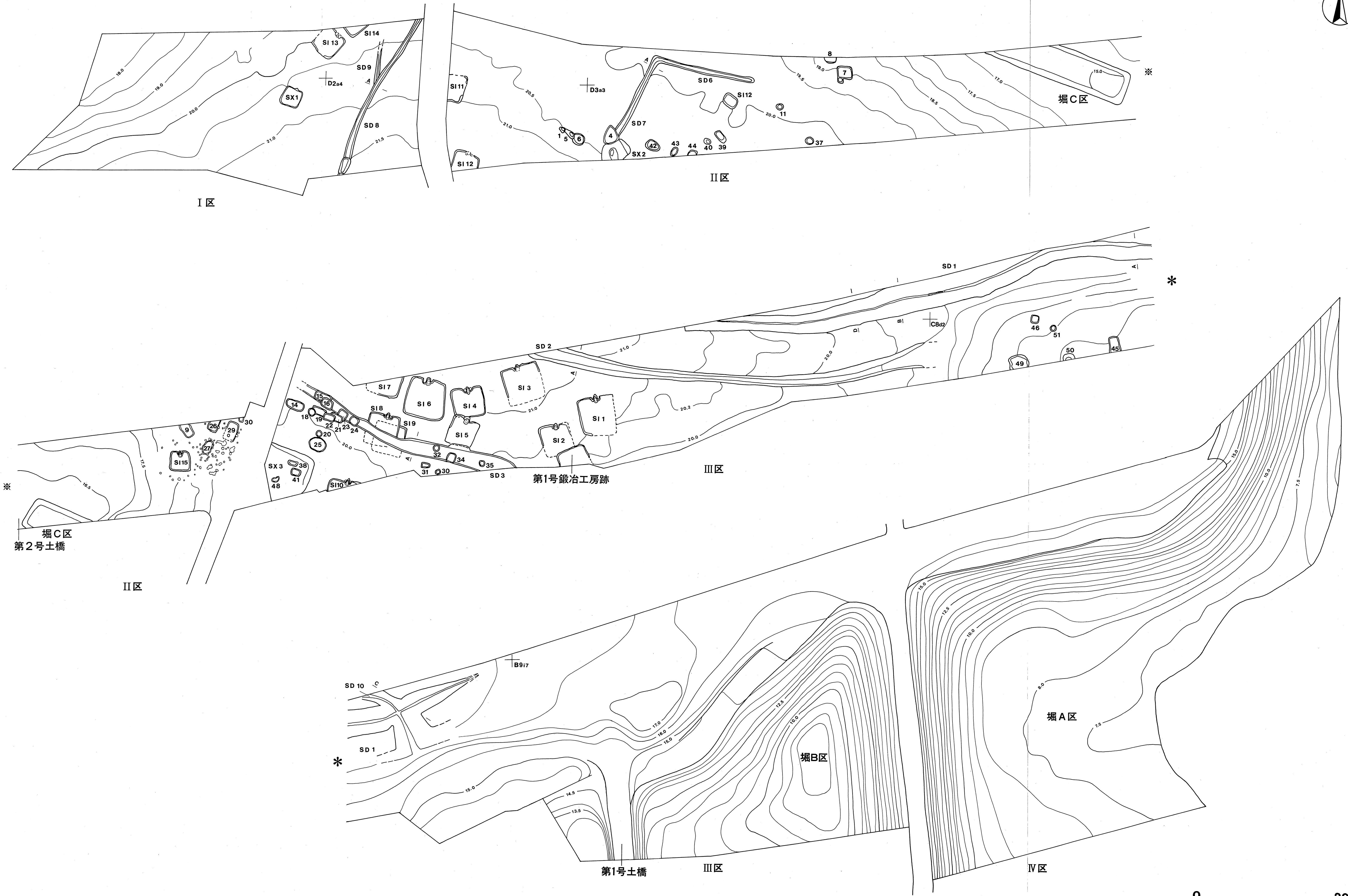
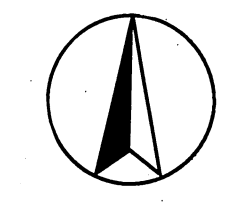
2 宮ヶ崎城跡全体図



酒 沼



1 宮ヶ崎城跡要図(市村高男氏原図を一部改変)



2 宮ヶ崎城跡全体図